



# 設定...

## SANtricity commands

NetApp  
June 17, 2025

# 目次

設定....	1
非同期ミラーグループの設定 - SANtricity CLI	1
サポートされているアレイ	1
ロール	1
コンテキスト (Context)	1
構文	1
パラメータ	1
注：	3
最小ファームウェアレベル	3
監査ログ設定 - SANtricity CLI	3
サポートされているアレイ	4
ロール	4
構文	4
パラメータ	4
例	4
最小ファームウェアレベル	5
AutoSupport ディスパッチサイズ制限の設定 - SANtricity CLI	5
サポートされているアレイ	5
ロール	5
構文	5
パラメータ	5
最小ファームウェアレベル	6
AutoSupport HTTP(S)配信方法を指定する - SANtricity CLI	6
サポートされているアレイ	6
ロール	6
構文	6
パラメータ	6
最小ファームウェアレベル	7
例	7
検証	7
最小ファームウェアレベル	7
整合性グループのスナップショットボリュームを設定する - SANtricity CLI	8
サポートされているアレイ	8
ロール	8
構文	8
パラメータ	8
注：	8
最小ファームウェアレベル	8
整合性グループの属性を設定する - SANtricity CLI	8

サポートされているアレイ	9
ロール	9
構文	9
パラメータ	9
注：	10
自動削除	10
最小ファームウェアレベル	10
整合性グループにメンバーを追加する - SANtricity CLI	10
サポートされているアレイ	11
ロール	11
コンテキスト (Context)	11
既存のリポジトリボリュームを使用する場合の構文	11
ボリュームグループに新しいリポジトリボリュームを作成する場合の構文	11
ディスクプールに新しいリポジトリボリュームを作成する場合の構文	11
パラメータ	11
注：	12
最小ファームウェアレベル	13
コントローラのDNS設定を行う - SANtricity CLI	13
サポートされているアレイ	13
ロール	14
コンテキスト (Context)	14
構文	14
パラメータ	14
例	15
最小ファームウェアレベル	15
コントローラのホストポートプロパティを設定する - SANtricity CLI	15
サポートされているアレイ	15
ロール	15
コンテキスト (Context)	15
構文	15
パラメータ	16
ホストポートタイプ別のパラメータサポート状況	20
最小ファームウェアレベル	22
iSCSI ホストポートのネットワークプロパティを設定する - SANtricity CLI	22
サポートされているアレイ	22
ロール	22
構文	22
パラメータ	24
iSCSIホストポートラベルの特定	29
最小ファームウェアレベル	30
コントローラのNTP設定を行う - SANtricity CLI	30

サポートされているアレイ	30
ロール	30
コンテキスト (Context)	30
構文	31
パラメータ	31
例	32
最小ファームウェアレベル	33
コントローラのサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI	33
サポートされているアレイ	33
コンテキスト (Context)	33
構文	33
パラメータ	33
最小ファームウェアレベル	34
コントローラの設定 - SANtricity CLI	34
サポートされているアレイ	34
ロール	34
構文	34
パラメータ	35
iSCSIホストポートラベルの特定	36
ethernetPortパラメータのオプション	37
iSCSIHostPortパラメータのオプション	38
注：	39
最小ファームウェアレベル	40
ディスクプールの設定 (ディスクプールの変更) - SANtricity CLI	40
サポートされているアレイ	41
ロール	41
コンテキスト (Context)	41
構文	41
パラメータ	41
注：	42
最小ファームウェアレベル	42
ディスクプールの設定 - SANtricity CLI	42
サポートされているアレイ	42
ロール	42
構文	43
パラメータ	43
注：	45
ディスクプールのアラートのしきい値	45
ディスクプールのバックグラウンド処理	45
最小ファームウェアレベル	46
ドライブのホットスペアを設定する - SANtricity CLI	46

サポートされているアレイ	46
ロール	46
構文	46
パラメータ	47
注：	47
最小ファームウェアレベル	47
外部ドライブをネイティブに設定する - SANtricity CLI	47
サポートされているアレイ	48
ロール	48
コンテキスト (Context)	48
構文	48
パラメータ	48
注：	49
最小ファームウェアレベル	49
ドライブの状態を設定する - SANtricity CLI	49
サポートされているアレイ	49
ロール	50
コンテキスト (Context)	50
構文	50
パラメータ	50
注：	50
最小ファームウェアレベル	51
FIPSドライブセキュリティ識別子の設定 - SANtricity CLI	51
サポートされているアレイ	51
ロール	51
コンテキスト (Context)	51
構文	51
パラメータ	51
注：	52
例	52
最小ファームウェアレベル	52
ドライブサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI	53
サポートされているアレイ	53
ロール	53
コンテキスト (Context)	53
構文	53
パラメータ	53
注：	54
最小ファームウェアレベル	54
ドライブチャネルステータスの設定 - SANtricity CLI	54
サポートされているアレイ	54

ロール	55
構文	55
パラメータ	55
注：	55
最小ファームウェアレベル	55
メール (SMTP) 配信方法を指定する - SANtricity CLI	55
サポートされているアレイ	55
ロール	56
構文	56
パラメータ	56
最小ファームウェアレベル	57
電子メールアラート設定を構成する - SANtricity CLI	57
サポートされているアレイ	57
構文	57
パラメータ	58
例	59
最小ファームウェアレベル	59
イベントアラートフィルタリングの設定 - SANtricity CLI	59
サポートされているアレイ	59
コンテキスト (Context)	60
コンテキスト (Context)	60
イベントアラートをブロックする構文	60
イベントアラートをブロック解除する構文	60
パラメータ	60
最小ファームウェアレベル	61
ホストの設定 - SANtricity CLI	61
サポートされているアレイ	61
ロール	61
コンテキスト (Context)	61
構文	61
パラメータ	62
注：	62
最小ファームウェアレベル	63
ホストチャネルの設定 - SANtricity CLI	63
サポートされているアレイ	63
ロール	63
構文	63
パラメータ	63
最小ファームウェアレベル	63
ホストグループの設定 - SANtricity CLI	64
サポートされているアレイ	64

ロール	64
構文	64
パラメータ	64
注：	64
最小ファームウェアレベル	64
ホストポートの設定 - SANtricity CLI	65
サポートされているアレイ	65
ロール	65
コンテキスト (Context)	65
構文	65
パラメータ	65
注：	65
最小ファームウェアレベル	66
イニシエータの設定 - SANtricity CLI	66
サポートされているアレイ	66
ロール	66
コンテキスト (Context)	66
構文	66
パラメータ	66
最小ファームウェアレベル	67
iSCSIイニシエーターの設定 - SANtricity CLI	67
サポートされているアレイ	67
ロール	67
構文	67
パラメータ	67
注：	69
最小ファームウェアレベル	70
iSCSI ターゲットのプロパティを設定する - SANtricity CLI	70
サポートされているアレイ	70
ロール	70
構文	70
パラメータ	70
注：	71
最小ファームウェアレベル	71
iSERターゲットの設定 - SANtricity CLI	72
サポートされているアレイ	72
ロール	72
構文	72
パラメータ	72
注：	73
最小ファームウェアレベル	73

セッションの設定 - SANtricity CLI	73
サポートされているアレイ	73
ロール	73
コンテキスト (Context)	74
構文	74
パラメータ	74
注：	75
最小ファームウェアレベル	75
スナップショットグループのスケジュールを設定する - SANtricity CLI	76
サポートされているアレイ	76
ロール	76
構文	76
パラメータ	76
注：	76
最小ファームウェアレベル	78
スナップショットグループリポジトリボリューム容量の設定 - SANtricity CLI	78
サポートされているアレイ	78
ロール	78
容量を増やすための構文	78
容量を減らす場合の構文	79
パラメータ	79
注：	81
最小ファームウェアレベル	81
スナップショットグループのメディアスキャンを設定する - SANtricity CLI	81
サポートされているアレイ	81
ロール	81
構文	81
パラメータ	82
注：	82
最小ファームウェアレベル	82
スナップショットグループ属性の設定 - SANtricity CLI	82
サポートされているアレイ	82
ロール	83
構文	83
パラメータ	83
注：	84
最小ファームウェアレベル	84
読み取り専用スナップショットボリュームを読み取り/書き込みボリュームに設定する - SANtricity CLI	84
サポートされているアレイ	84
ロール	84
コンテキスト (Context)	84

構文	84
パラメータ	85
注：	87
最小ファームウェアレベル	87
スナップショットボリュームのリポジトリボリューム容量を設定する - SANtricity CLI	87
サポートされているアレイ	87
ロール	87
容量を増やすための構文	87
容量を減らす場合の構文	88
パラメータ	88
注：	89
最小ファームウェアレベル	90
スナップショットボリュームのメディアスキャンを設定する - SANtricity CLI	90
サポートされているアレイ	90
ロール	90
コンテキスト (Context)	90
構文	90
パラメータ	90
注：	91
最小ファームウェアレベル	91
スナップショットボリュームの名前変更 - SANtricity CLI	91
サポートされているアレイ	91
ロール	91
構文	91
パラメータ	92
注：	92
最小ファームウェアレベル	92
SNMPコミュニティの更新 - SANtricity CLI	92
サポートされているアレイ	92
ロール	92
構文	92
パラメータ	92
最小ファームウェアレベル	93
SNMP MIB II システムグループ変数の更新 - SANtricity CLI	93
サポートされているアレイ	93
ロール	93
コンテキスト (Context)	93
構文	93
パラメータ	94
最小ファームウェアレベル	94
SNMPトラップの送信先を更新する - SANtricity CLI	94

サポートされているアレイ	94
ロール	94
構文	94
パラメータ	95
最小ファームウェアレベル	95
SNMPv3 USMユーザーの更新 - SANtricity CLI	95
サポートされているアレイ	95
ロール	95
構文	96
パラメータ	96
最小ファームウェアレベル	97
ストレージアレイの自動ロードバランシングを有効または無効に設定する - SANtricity CLI	97
サポートされているアレイ	97
ロール	97
構文	97
パラメータ	98
自動ロードバランシングとは何ですか？	98
自動ロードバランシングの有効化と無効化	98
例	99
最小ファームウェアレベル	99
AutoSupport メッセージ収集スケジュールの設定 - SANtricity CLI	99
サポートされているアレイ	99
ロール	99
コンテキスト (Context)	99
構文	100
パラメータ	100
最小ファームウェアレベル	101
AutoSupport メンテナンス ウィンドウを有効または無効にする - SANtricity CLI	101
サポートされているアレイ	101
ロール	101
構文	101
パラメータ	101
例	101
最小ファームウェアレベル	102
AutoSupport OnDemand 機能を有効または無効にする - SANtricity CLI	102
サポートされているアレイ	102
ロール	102
コンテキスト (Context)	102
構文	103
パラメータ	103
例	103

検証	103
最小ファームウェアレベル	103
AutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする - SANtricity CLI	103
サポートされているアレイ	103
ロール	104
コンテキスト (Context)	104
構文	104
パラメータ	104
例	104
検証	104
最小ファームウェアレベル	105
ストレージアレイを設定してキャッシュミラーデータアシュランスチェックを有効または無効にする - SANtricity CLI	105
サポートされているアレイ	105
ロール	105
構文	105
パラメータ	105
最小ファームウェアレベル	105
ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの上書きを許可する設定 - SANtricity CLI	105
サポートされているアレイ	105
ロール	106
コンテキスト (Context)	106
構文	106
パラメータ	106
注：	106
最小ファームウェアレベル	106
ストレージアレイディレクトリサーバの役割マッピングを設定する - SANtricity CLI	106
サポートされているアレイ	106
ロール	107
必要なもの	107
構文	107
パラメータ	107
例	108
ストレージアレイディレクトリサーバーの設定 - SANtricity CLI	108
サポートされているアレイ	108
ロール	108
構文	108
パラメータ	109
例	110
外部キー管理設定の設定 - SANtricity CLI	110
サポートされているアレイ	110

ロール	110
コンテキスト (Context)	110
構文	111
パラメータ	111
例	111
最小ファームウェアレベル	111
ホスト接続レポートの有効化または無効化 - SANtricity CLI	111
サポートされているアレイ	111
ロール	111
構文	112
コンテキスト (Context)	112
パラメータ	112
最小ファームウェアレベル	112
ストレージアレイの ICMP 応答を設定する - SANtricity CLI	112
サポートされているアレイ	112
ロール	112
構文	113
パラメータ	113
注：	113
最小ファームウェアレベル	113
ストレージアレイの iNS サーバーの IPv4 アドレスを設定する - SANtricity CLI	113
サポートされているアレイ	113
ロール	113
構文	113
パラメータ	114
注：	114
最小ファームウェアレベル	114
ストレージアレイの iNS サーバの IPv6 アドレスを設定する - SANtricity CLI	114
サポートされているアレイ	114
ロール	115
構文	115
パラメータ	115
注：	115
最小ファームウェアレベル	115
ストレージアレイの iNS サーバーの リスニングポートを設定する - SANtricity CLI	115
サポートされているアレイ	115
ロール	115
構文	116
パラメータ	116
注：	116
最小ファームウェアレベル	116

ストレージアレイの iNS 登録を設定する - SANtricity CLI .....	116
サポートされているアレイ .....	117
ロール .....	117
IPv4の構文 .....	117
IPv6の構文 .....	117
パラメータ .....	117
注： .....	119
最小ファームウェアレベル .....	119
ストレージアレイの iNS サーバーの更新を設定する - SANtricity CLI .....	119
サポートされているアレイ .....	119
ロール .....	120
コンテキスト (Context) .....	120
構文 .....	120
パラメータ .....	120
注： .....	120
最小ファームウェアレベル .....	120
ストレージアレイコントローラのバッテリ学習サイクルを設定する - SANtricity CLI .....	120
サポートされているアレイ .....	120
ロール .....	120
コンテキスト (Context) .....	121
構文 .....	121
パラメータ .....	121
例 .....	122
注： .....	122
最小ファームウェアレベル .....	122
ストレージアレイのローカルユーザーパスワードまたはSYMBOLパスワードを設定する - SANtricity CLI .....	122
サポートされているアレイ .....	122
ロール .....	122
構文 .....	123
パラメータ .....	123
例 .....	123
最小ファームウェアレベル .....	123
ストレージアレイのログインバナーを設定する - SANtricity CLI .....	124
サポートされているアレイ .....	124
ロール .....	124
構文 .....	124
コンテキスト (Context) .....	124
パラメータ .....	124
最小ファームウェアレベル .....	124
ストレージアレイ管理インターフェースの設定 - SANtricity CLI .....	124
サポートされているアレイ .....	125

ロール	125
構文	125
パラメータ	125
例	125
ODX を有効化または無効化する - SANtricity CLI	125
サポートされているアレイ	126
ロール	126
コンテキスト (Context)	126
構文	126
パラメータ	126
注：	126
最小ファームウェアレベル	126
ストレージアレイのパスワードの長さを設定する - SANtricity CLI	127
サポートされているアレイ	127
ロール	127
構文	127
パラメータ	127
例	127
最小ファームウェアレベル	127
再構築時にストレージアレイのPQ検証を設定する - SANtricity CLI	128
サポートされているアレイ	128
ロール	128
コンテキスト (Context)	128
構文	128
パラメータ	128
ドライブメディアタイプにハードディスクドライブを指定する例	129
ドライブメディアタイプにソリッドステートドライブを指定する例	129
最小ファームウェアレベル	129
ストレージアレイの冗長モードを設定する - SANtricity CLI	129
サポートされているアレイ	129
ロール	130
構文	130
パラメータ	130
最小ファームウェアレベル	130
ストレージアレイリソースのプロビジョニングされたボリュームを設定する - SANtricity CLI	130
サポートされているアレイ	130
ロール	130
コンテキスト (Context)	130
構文	131
パラメータ	131
最小ファームウェアレベル	131

証明書失効チェック設定の設定 - SANtricity CLI .....	131
サポートされているアレイ .....	131
ロール .....	131
コンテキスト (Context) .....	132
構文 .....	132
パラメータ .....	132
最小ファームウェアレベル .....	132
内部ストレージアレイのセキュリティキーを設定する - SANtricity CLI .....	132
サポートされているアレイ .....	132
ロール .....	133
コンテキスト (Context) .....	133
構文 .....	133
パラメータ .....	133
注： .....	133
最小ファームウェアレベル .....	133
ストレージアレイのSyslog構成の更新 - SANtricity CLI .....	133
サポートされているアレイ .....	134
ロール .....	134
構文 .....	134
パラメータ .....	134
最小ファームウェアレベル .....	135
ストレージアレイの時間を設定する - SANtricity CLI .....	135
サポートされているアレイ .....	135
ロール .....	135
構文 .....	135
パラメータ .....	135
最小ファームウェアレベル .....	135
ストレージアレイトレイの位置を設定する - SANtricity CLI .....	136
サポートされているアレイ .....	136
ロール .....	136
構文 .....	136
パラメータ .....	136
注： .....	136
最小ファームウェアレベル .....	137
ストレージアレイの名前なし検出セッションを設定する - SANtricity CLI .....	137
サポートされているアレイ .....	137
ロール .....	137
構文 .....	137
パラメータ .....	137
注： .....	137
最小ファームウェアレベル .....	138

ストレージアレイのユーザーセッションの設定 - SANtricity CLI .....	138
サポートされているアレイ .....	138
ロール .....	138
コンテキスト (Context) .....	138
パラメータ .....	138
構文 .....	138
最小ファームウェアレベル .....	138
VAAI を有効化または無効化する - SANtricity CLI .....	138
サポートされているアレイ .....	139
ロール .....	139
コンテキスト (Context) .....	139
構文 .....	139
パラメータ .....	139
注： .....	139
最小ファームウェアレベル .....	139
ストレージアレイの設定 - SANtricity CLI .....	139
サポートされているアレイ .....	140
ロール .....	140
コンテキスト (Context) .....	140
構文 .....	140
パラメータ .....	141
注： .....	148
AutoSupportデータ .....	148
キャッシュブロックサイズ .....	148
キャッシュフラッシュが開始されます .....	148
デフォルトのホストタイプ .....	148
メディアスキャンの速度 .....	149
パスワード .....	149
最小ファームウェアレベル .....	149
同期ミラーリングの設定 - SANtricity CLI .....	150
サポートされているアレイ .....	150
ロール .....	150
コンテキスト (Context) .....	150
構文 .....	150
パラメータ .....	151
注： .....	152
最小ファームウェアレベル .....	153
Syslog設定を構成する - SANtricity CLI .....	153
サポートされているアレイ .....	153
ロール .....	153
コンテキスト (Context) .....	153

構文	153
パラメータ	153
例	154
最小ファームウェアレベル	155
ターゲットプロパティの設定 - SANtricity CLI	155
サポートされているアレイ	155
ロール	155
コンテキスト (Context)	155
構文	155
パラメータ	155
最小ファームウェアレベル	156
シンボリュームの属性を設定する - SANtricity CLI	156
サポートされているアレイ	156
ロール	156
コンテキスト (Context)	156
構文	156
パラメータ	156
注：	158
最小ファームウェアレベル	159
トレイ属性の設定 - SANtricity CLI	159
構文	159
パラメータ	159
最小ファームウェアレベル	160
ドロワーサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI	160
サポートされているアレイ	160
ロール	160
コンテキスト (Context)	160
構文	160
パラメータ	160
注：	161
forceOnWarningパラメータの使用	161
最小ファームウェアレベル	162
トレイ識別の設定 - SANtricity CLI	162
サポートされているアレイ	162
ロール	162
コンテキスト (Context)	162
構文	162
パラメータ	162
注：	163
トレイサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI	163
サポートされているアレイ	163

ロール	163
コンテキスト (Context)	164
構文	164
パラメータ	164
注：	165
例	165
最小ファームウェアレベル	165
ボリュームグループ内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI	166
サポートされているアレイ	166
ロール	166
コンテキスト (Context)	166
1つ以上のボリュームに適用される構文	166
1つのボリュームのみに適用される構文	168
パラメータ	169
注：	173
容量の追加、ドライブの追加、およびセグメントサイズの確認	174
キャッシングフラッシュ修飾子	174
バッテリなしのキャッシングを有効にしました	175
修正の優先順位	175
キャッシング読み取りプリフェッチ	175
セグメントサイズ	175
最小ファームウェアレベル	176
ボリュームマッピングの設定 - SANtricity CLI	176
サポートされているアレイ	176
ロール	176
コンテキスト (Context)	176
構文	177
パラメータ	177
注：	178
最小ファームウェアレベル	178
ボリュームの SSD キャッシュを設定する - SANtricity CLI	178
サポートされているアレイ	178
ロール	178
コンテキスト (Context)	178
標準ボリュームに適用される構文	178
Snapshotボリュームに適用される構文	179
整合性グループのSnapshotボリュームに適用される構文	179
パラメータ	179
注：	179
最小ファームウェアレベル	180
ボリュームコピーの設定 - SANtricity CLI	180

サポートされているアレイ	180
ロール	180
コンテキスト (Context)	180
構文	180
パラメータ	180
注：	181
最小ファームウェアレベル	181
ボリュームグループの強制状態を設定する - SANtricity CLI	181
サポートされているアレイ	181
ロール	181
コンテキスト (Context)	182
構文	182
パラメータ	182
注：	182
最小ファームウェアレベル	182
ボリュームグループの設定 - SANtricity CLI	182
サポートされているアレイ	182
ロール	182
コンテキスト (Context)	182
構文	183
パラメータ	183
注：	184
トラブルシューティング	184
最小ファームウェアレベル	185
ディスクプール内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI	185
サポートされているアレイ	185
ロール	185
コンテキスト (Context)	185
構文	185
パラメータ	186
注：	188
容量とセグメントサイズを追加	189
キャッシュフラッシュ修飾子	189
バッテリなしのキャッシュを有効にしました	190
修正の優先順位	190
キャッシュ読み取りプリフェッチ	190
セグメントサイズ	190
最小ファームウェアレベル	191

# 設定...

## 非同期ミラーグループの設定 - SANtricity CLI

`set asyncMirrorGroup` コマンドは、非同期ミラー・グループのプライマリ側のコントローラ所有者が初期同期または再同期を実行するときに使用する同期設定と警告しきい値を変更します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

同期設定を変更すると、非同期ミラーグループ内のすべてのミラーペアの同期処理に適用されます。

### 構文

```
set asyncMirrorGroup [<em>asyncMirrorGroupName</em>]
[volume="repos_xxxx" increaseRepositoryCapacity
(repositoryVolume=("repos_xxxx"))
[syncInterval=<em>integer</em> (minutes | hours | days)]
[warningSyncThreshold=<em>integer</em> (minutes | hours | days)]
[warningRecoveryThreshold=integer (minutes | hours | days)]
[userLabel="<em>New_asyncMirrorGroupName</em>"]
[warningThresholdPercent=<em>percentValue</em>]
[role=(primary | secondary)]
[autoResync=(TRUE | FALSE)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「 <code>asyncMirrorGroup</code> 」	変更する非同期ミラーグループの名前。非同期ミラーグループ名は角かっこ ([]) で囲みます。非同期ミラーグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、名前を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「volume」	<p>容量を拡張する非同期ミラーグループリポジトリボリュームの名前。</p> <p>リポジトリボリュームの名前は2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「repos」という用語</li> <li>・ストレージ管理ソフトウェアがリポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子</li> </ul> <p>リポジトリボリュームの名前は二重引用符（"）で囲みます。</p>
「syncInterval」	変更されたデータの更新をローカルストレージアレイからリモートストレージアレイに自動的に送信する間隔を指定します。時間は、分、時間、または日数で指定できます。
「warningSyncThreshold」	非同期ミラーグループ内のすべてのボリュームの同期にかかる時間が指定した時間よりも長い場合に、警告がトリガーされるまでの待機時間を指定します。時間は、分、時間、または日数で指定できます。
「warningRecoveryThreshold」	リモートストレージアレイのポイントインタイムイメージの自動データ更新が指定した時間よりも古くなった場合に、警告がトリガーされるまでの待機時間を指定します。しきい値は、前回の更新終了時点からの経過日数で定義します。時間は、分、時間、または日数で指定できます。
「userLabel」のように入力します	非同期ミラーグループに付ける新しい名前。このパラメータは、非同期ミラーグループの名前を変更する場合に使用します。新しい非同期ミラーグループ名は二重引用符（"）で囲みます。
「warningThresholdPercent」	ミラーリポジトリボリュームの容量が指定した割合に達したときに警告がトリガーされるかどうかを判断するパーセント値を指定します。しきい値は、残りの容量の割合（%）で定義します。

パラメータ	説明
「役割」	このパラメータを使用して、非同期ミラーグループをプライマリロールに昇格するか、非同期ミラーグループをセカンダリロールに降格します。非同期ミラーグループをプライマリロールとして定義するには'このパラメータをprimaryに設定します非同期ミラーグループをセカンダリロールとして定義するには'このパラメータをsecondaryに設定します
「autoResync」	非同期ミラーグループ内の非同期ミラーペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間の自動再同期の設定。このパラメータには次の値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[enabled]--自動再同期がオンになっています何もしなくとも、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは再同期されます。</li> <li>disabled --自動再同期がオフになっていますプライマリ・ボリュームとセカンダリ・ボリュームを再同期するには'start asyncMirrorGroupコマンドを実行する必要があります</li> </ul>

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。ただし、すべてのパラメータを使用する必要はありません。

非同期ミラーグループリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つのボリュームだけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、そのボリュームの容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、未使用的リポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## 監査ログ設定 - SANtricity CLI

監査ログの設定は'set auditLogコマンドで行います

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 構文

```
set auditLog (logLevel={all | writeOnly} |
    fullPolicy={overwrite | preventSystemAccess} |
    maxRecords=<em>n</em> | warningThreshold=<em>n</em>)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「LogLevel」	ログインのレベルを指定できます。有効な選択肢は、「all」と「writeOnly」です。デフォルト値は「writeOnly」です。
「FullPolicy」を選択します	ログがフルになったときのポリシーを指定できます。有効な選択肢は、「overwrite」と「preventSystemAccess」です。
「maxRecords」です	格納する最大レコード数を指定できます。「n」は30000から50000までの整数です。
「warningThreshold」	フルポリシーが「preventSystemAccess」に設定されている場合に、監査ログがフルに近づいていることを示す警告アラートを送信するパーセンテージを指定できます。0~100の整数值を指定します。このパラメータを0（ゼロ）に設定すると、警告アラートが無効になります。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set auditLog logLevel=writeOnly
fullPolicy=preventSystemAccess maxRecords=40000 warningThreshold=90;"

SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

# AutoSupport ディスパッチサイズ制限の設定 - SANtricity CLI

は、`set storageArray autoSupport dispatchSizeLimit`配信タイプごとにAutoSupportバンドルとディスパッチの最大サイズを設定します。

このコマンドを使用すると、ユーザはEメールサーバのサポート内容に基づいてEメールサイズを設定できます。サイズを大きくすると、サポートバンドルが切り捨てられる可能性が低くなります。



通常は、NetAppサポートから指示がないかぎり、HTTPSサイズを設定しないでください。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray autoSupport dispatchSizeLimit  
(https=<sizeInBytes>|unlimited) |email=<sizeInBytes>|unlimited);
```

## パラメータ

パラメータ	説明
https	HTTPSディスパッチの最大サイズ（バイト）。最大サイズが設定されていない場合、デフォルトは50MiBです。値が「unlimited」または0の場合、サイズ制限はありません。指定できる最小サイズは2MiBです。
email	Eメール（SMTP）の最大配信サイズ（バイト）。最大サイズが設定されていない場合、デフォルトは5MiBです。値が「unlimited」または0の場合、サイズ制限はありません。指定できる最小サイズは2MiBです。

## 最小ファームウェアレベル

8.90

# AutoSupport HTTP(S)配信方法を指定する - SANtricity CLI

set storageArray AutoSupport httpdeliveryMethodコマンドは、AutoSupport メッセージをHTTP (S) に送信するための配信方法を設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray autoSupport deliveryMethod=email  
mailRelayServer="mail.example.com" senderEmail="sender@example.com">
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	<p>AutoSupportによる収集の配信方法を指定できます。有効な選択肢は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Eメール</li><li>• HTTPS</li></ul> <p> Eメール方式が設定されている場合、AutoSupport OnDemandとRemote Diagnosticsは無効になります。</p>
「直接」	HTTPまたはHTTPSプロトコルを使用して、テクニカルサポートのシステムに直接接続できます。
proxyConfigScript	Proxy Auto-Configuration (PAC) スクリプトファイルの場所を指定できます

パラメータ	説明
proxyServer	テクニカルサポートシステムとの接続を確立するために必要なHTTP (S) プロキシサーバの詳細を指定できます。
「ホストアドレス」	プロキシサーバのホストアドレスを指定できます。proxyServerを指定する場合は必須です。
「portNumber」と入力します	プロキシサーバのポート番号を指定できます。proxyServerを指定する場合は必須です。
「ユーザ名」	プロキシサーバのユーザ名が設定されている場合、そのユーザ名を指定できます。
「password」と入力します	プロキシサーバのパスワードが設定されている場合、ユーザがそのパスワードを指定できます。

## 最小ファームウェアレベル

8.40

### 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport deliveryMethod=HTTP
direct;"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport deliveryMethod=HTTP
proxyConfigScript=\"http://company.com/~username/proxy.pac\";"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport deliveryMethod=HTTPS
proxyServer hostAddress=10.117.12.112 portNumber=8080 userName=\"tracyt\"
password=\"1234456\";"

SMcli completed successfully.
```

## 検証

「start storageArray AutoSupport deliveryTest」コマンドを使用してテストメッセージを送信し、配信方法が正しく設定されていることを確認します。

## 最小ファームウェアレベル

8.40

# 整合性グループのスナップショットボリュームを設定する - SANtricity CLI

set cgSnapVolumeコマンドは整合性グループのスナップショット・ボリュームに一意の名前を作成します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set cgSnapVolume [<em>cgSnapVolumeName</em>]  
userLabel="<em>cgSnapVolumeName</em>"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
cgSnapVolume	名前を変更する整合性グループのボリュームの名前。整合性グループのSnapshotボリュームの名前は角かっこ（[]）で囲みます。
「userLabel」のように入力します	整合性グループのSnapshotボリュームに付ける新しい名前。新しいSnapshotボリューム名は二重引用符（""）で囲みます。

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

# 整合性グループの属性を設定する - SANtricity CLI

set consistencyGroupコマンドはスナップショット・コンシスティンシ・グループのプロ

## パーティを定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
set consistencyGroup ["<em>consistencyGroupName</em>"]
[userLabel="<em>consistencyGroupName</em>"]
[repositoryFullPolicy=(failBaseWrites | purgeSnapImages)]
[repositoryFullLimit=<em>percentValue</em>]
[autoDeleteLimit=<em>numberOfSnapImages</em>]
[rollbackPriority=(lowest | low | medium | high | highest)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroupName」	パーティを設定する整合性グループの名前。整合性グループ名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「userLabel」のように入力します	Snapshot整合性グループに付ける新しい名前。新しい整合性グループ名は二重引用符（""）で囲みます。
repositoryFullPolicy	Snapshotリポジトリボリュームの容量が上限に達している場合にSnapshot処理をどのように続行するかを指定します。ベースボリュームへの書き込みを停止する（failBaseWrites）か、Snapshotイメージを削除（ページ）する（purgeSnapImages）かを選択できます。デフォルトのアクションはpurgeSnapImagesです
repositoryFullLimit	リポジトリの容量がこの割合に達すると、Snapshotリポジトリボリュームの上限に近づいているという警告が表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。デフォルト値は75です。

パラメータ	説明
'autoDeleteLimit'	各整合性グループでは、Snapshotイメージの自動削除を実行して、グループ内のSnapshotイメージの総数を指定したレベル以下に保つように設定できます。このオプションを有効にすると、Snapshotグループ内に新しいSnapshotイメージが作成されるたびに、制限値に準拠するためにグループ内の最も古いSnapshotイメージが自動的に削除されます。この処理によってリポジトリ容量が解放されて、残りのSnapshotイメージに対するcopy-on-write要求に使用できるようになります。
「rollBackPriority」を参照してください	ストレージアレイが稼働しているときの整合性グループのロールバック処理の優先度。有効な値は'highest' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest' です

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。ただし、すべてのパラメータを使用する必要はありません。

ロールバックの優先度によって、システムパフォーマンスを考慮せずにロールバック処理に割り当てるシステムリソースの量が決まります。値が'High'の場合は'ロールバック・オペレーションが他のすべてのホストI/Oより優先されることを示します。値が'low'の場合'ホストI/Oへの影響を最小限に抑えてロールバック操作を実行する必要があります

## 自動削除

各SnapshotグループでSnapshotイメージの自動削除を実行して、グループ内のSnapshotイメージの総数を指定したレベル以下に保つように設定できます。Snapshotグループ内のSnapshotイメージの数が上限に達すると、「autoDeleteLimit」パラメータは、Snapshotグループ内に新しいSnapshotイメージが作成されるたびにSnapshotイメージを自動的に削除します。autoDeleteLimitパラメータは、パラメータで定義されたイメージの最大数に達するまで、Snapshotグループ内の最も古いSnapshotイメージを削除します。このようにSnapshotイメージが削除されることでリポジトリ容量が解放されて、残りのSnapshotイメージに対するcopy-on-write要求に使用できるようになります。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## 整合性グループにメンバーを追加する - SANtricity CLI

set consistencyGroup addCGMemberVolumeコマンドは、新しいベースボリュームを既存のコンシスティンシグループにメンバーとして追加します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

新しい整合性グループのメンバーとして既存のリポジトリボリュームを指定するか、または新しいリポジトリボリュームを作成できます。新しいリポジトリボリュームを作成するときは、そのボリュームを追加する既存のボリュームグループまたは既存のディスクプールを指定します。

### 既存のリポジトリボリュームを使用する場合の構文

```
set consistencyGroup [ "consistencyGroupName" ]
addCGMemberVolume="baseVolumeName"
repositoryVolume="volumeGroupName"
```

### ボリュームグループに新しいリポジトリボリュームを作成する場合の構文

```
set consistencyGroup [ "<em>consistencyGroupName</em>" ]
addCGMemberVolume="baseVolumeName"
repositoryVolume="(<em>volumeGroupName</em>"
capacity=<em>capacityValue</em> (KB | MB | GB | TB | bytes))
```

### ディスクプールに新しいリポジトリボリュームを作成する場合の構文

```
set consistencyGroup [ "<em>consistencyGroupName</em>" ]
addCGMemberVolume="baseVolumeName"
repositoryVolume="(<em>diskPoolName</em>"
capacity=<em>capacityValue</em> (KB | MB | GB | TB | bytes))
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「consistencyGroup」	新しいメンバー ボリュームを追加する整合性グループの名前。新しいメンバー ボリュームは、Snapshot 处理のベースボリュームです。整合性グループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([] ) で囲みます。
「addCGMemberVolume」	追加するベースボリュームの名前。ボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。 既存のリポジトリボリュームまたは既存のSnapshot ボリュームを指定すると、コマンドは失敗します。
リポジトリボリューム	このパラメータには2つの機能があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の整合性グループ内のリポジトリボリュームを使用する場合は、そのリポジトリボリュームを指定します。</li> <li>新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、そのボリュームを作成するボリュームグループまたはディスクプールを指定します。</li> </ul> ボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
「容量」	ボリュームグループまたはディスクプールに作成する新しいリポジトリボリュームのサイズ。サイズは、bytes、KB、MB、GB、TBのいずれかの単位で定義します。

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

整合性グループは、Snapshotのソースボリュームであるベースボリュームの集まりです。複数のベースボリュームを1つの整合性グループにまとめることで、各ベースボリュームに対して同じSnapshot処理を実行できるようになります。このコマンドでは、\_MEMBER\_ はSnapshot処理のベースボリュームを意味します。整合性グループのメンバーに関連付けられたSnapshotイメージは、イメージ間の整合性を維持しながら、バッチ形式で操作できます。

各メンバー ボリュームには、対応するリポジトリボリュームが必要です。repositoryVolumeパラメータを使用すると、メンバー ボリュームとリポジトリボリュームの関係を定義できます。repositoryVolumeパラメータでは、次のいずれかの操作を実行できます。

- 整合性グループに接続されている既存のリポジトリボリューム
- 新しいリポジトリボリュームを作成するボリュームグループまたはディスクプール

既存のリポジトリを含む整合性グループにメンバーを追加する目的は次の2つです。

- repositoryVolumeパラメータを指定せずにコマンドを実行すると、新しいリポジトリボリュームを作成できます。repositoryVolumeパラメータを指定せずにコマンドを実行すると、他のすべてのリポジトリボリュームが格納されたボリュームグループまたはディスクプールに新しいリポジトリボリュームが作成されます。このコマンドの使用例を次に示します。

```
set consistencyGroup ["First_Images"] addCGMemberVolume="Data_020212"
```

- 既存のリポジトリボリュームが空で、別のメンバー ボリュームに関連付けられていない場合は、そのリポジトリボリュームを再利用できます。リポジトリボリュームの特定の順序や関係を維持したい場合は、再利用を推奨します。既存の空のリポジトリボリュームを再利用するには、そのボリュームの名前を確認しておく必要があります。リポジトリ・ボリュームの名前を確認するには'show allVolumes summary'コマンドを使用しますすべてのリポジトリボリューム名の形式は「repos\_XXXX」です。「XXXX」は、ストレージ管理ソフトウェアによって生成された一意の識別子です。このコマンドの使用例を次に示します。

```
set consistencyGroup ["First_Images"] addCGMemberVolume="Data_020212"
repositoryVolume="repos_0011"
```

リポジトリボリュームは、任意のボリュームグループまたはディスクプールに配置できます。他のリポジトリボリュームと同じ場所に配置する必要はありません。リポジトリ・ボリュームを任意のボリューム・グループまたはディスク・プールに配置するには'repositoryVolume'パラメータを使用してボリューム・グループまたはディスク・プールとリポジトリ・ボリュームのサイズを指定しますこのコマンドの使用例を次に示します。

```
set consistencyGroup ["First_Images"] addCGMemberVolume="Data_020212"
repositoryVolume="12" capacity=2 GB
```

この例では、「12」は既存のボリュームグループまたは既存のディスクプールの名前です。capacityパラメータには、リポジトリボリュームグループに必要なサイズを定義します。

ボリュームグループまたはディスクプールに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、ボリュームグループ名と容量、またはディスクプール名と容量を丸かっこで囲む必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## コントローラのDNS設定を行う - SANtricity CLI

set controller dnsServers'コマンドは、コントローラのDomain Name System (DNS; ドメインネームシステム) 設定を更新します。DNSは、コントローラとネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバの完全修飾ドメイン名を解決するために使用されます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

作業を開始する前に、次の点を確認します。

- DNSサーバが設定されている。
- プライマリDNSサーバに障害が発生した場合に備えて、プライマリDNSサーバとバックアップDNSサーバのアドレスを把握しておきます。IPv4アドレスでもIPv6アドレスでもかまいません。



このコマンドは両方のコントローラに送信する必要があります。このコマンドはコントローラ固有です。



アレイの管理ポートを動的ホスト構成プロトコル（DHCP）すでに設定し、かつ1つ以上のDNSサーバまたはNTPサーバをDHCPセットアップに関連付けている場合は、DNSまたはNTPを手動で設定する必要がありません。この場合、DNS / NTPサーバのアドレスはアレイによってすでに自動的に検出されているはずです。

## 構文

```
set controller[a] DNSServers=(auto| (Address1 [Address2]))
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「DNSサーバ」	<p>このパラメータは、コントローラのDNSサーバを設定します。DHCPが提供するDNSサーバを使用するには'auto'を指定しますそれ以外の場合は、1つまたは2つのDNSサーバをスペースで区切って指定します。</p> <p>アレイの管理イーサネットポートは、IPv4プロトコルとIPv6プロトコルを同時にサポートできます。アドレスはIPv4アドレスでもIPv6アドレスでもかまいません。複数のアドレスを指定する場合、アドレスタイプが一致している必要はありません。</p> <p>複数のアドレスを指定すると、指定した順にアドレスが使用されます（1番目がプライマリアドレス、2番目がバックアップアドレス）。</p>
「AddressX」	ipv4address

## 例

```
set controller[a] DNSServers=auto;
set controller[a] DNSServers=(192.168.1.1);
set controller[b] DNSServers=(192.168.1.1 192.168.1.105);
set controller[b] DNSServers=(2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334
192.168.1.1)
```

## 最小ファームウェアレベル

8.25

# コントローラのホストポートプロパティを設定する - **SANtricity CLI**

set controller HostPortコマンドは'iSCSI'iSER'NVMe over InfiniBand 'および'NVMe over RoCEホストポートのネットワーク・プロパティを変更しますプロパティの変更には、IPv4とIPv6のプロパティ、ポート速度、最大フレームペイロードが含まれます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）



このコマンドは、廃止されたを置き換えます [iSCSIのホストポートのネットワークプロパティを設定します](#) コマンドを実行します

## 構文

```

set controller [(a|b)] hostPort ["portLabel"[], "physical"|"virtual"]
(IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
 IPv6LocalAddress=(FE80):(0000):(0000):(0000):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-
FFFF):(0-FFFF) |
 IPv6RoutableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
 IPv6RouterAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
 enableIPv4=(TRUE | FALSE) |
 enableIPv6=(TRUE | FALSE) |
 enableIPv4Vlan=(TRUE | FALSE) |
 enableIPv6Vlan=(TRUE | FALSE) |
 enableIPv4Priority=(TRUE | FALSE) |
 enableIPv6Priority=(TRUE | FALSE) |
 fecMode=(auto:none:reedSolomon:fireCode) |
 IPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp) |
 IPv6ConfigurationMethod=(static | auto) |
 IPv4GatewayIP=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
 IPv6HopLimit=[0-255] |
 IPv6NdDetectDuplicateAddress=[0-255] |
 IPv6NdReachableTime=[0-65535] |
 IPv6NdRetransmitTime=[0-65535] |
 IPv6NdTimeOut=[0-65535] |
 IPv4Priority=[0-7] |
 IPv6Priority=[0-7] |
 IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
 IPv4VlanId=[1-4094] |
 IPv6VlanId=[1-4094] |
 maxFramePayload=[1500-9000] |
 tcpListeningPort=(3260 | [49152-65535]) |
 portSpeed=(autoNegotiate | 10 | 25 | 40 | 50 | 100))

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	プロパティを定義するコントローラを指定できます。

パラメータ	説明
「ホストポート」	<p>プロパティを定義するホストポートラベルを指定できます。200 GBのホスト・ポートの場合に限り'physicalまたはvirtualをパラメータとして指定できます</p> <p> 200 GBのホスト・ポート接続に値を指定しない場合、デフォルトでphysicalパラメータが設定されます</p>
「ipv4address」と入力します	アドレスを次の形式で入力できます：(0-255) . (0-255) . (0-255) . (0-255)。
「IPV6LocalAddress」と入力します	アドレスを次の形式で入力できます：(FE80) : (0000) : (0000) : (0000) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF)。
IPv6RouteableAddress	アドレスを次の形式で入力できます：(0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF)。
「IPV6RouterAddress」	アドレスを次の形式で入力できます：(0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF)。
「enableIPv4」と入力します	IPv4を有効にすることができます。
「enableIPv6」	IPv6を有効にすることができます。IPv6アドレスベースは128ビットです。コロンで区切られた8つの16ビット16進ブロックで表されます。
enableIPv4Vlan	IPv4 VLANを有効にすることができます。VLANは、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。
enableIPv6Vlan	IPv6 VLANを有効にすることができます。VLANは、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。

パラメータ	説明
enableIPv4Priority	ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にできます。共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先行に行われたものから順に処理されます。2つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようとすると、両方のステーションがオフになり、再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。
enableIPv6Priority	ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にできます。共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先行に行われたものから順に処理されます。2つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようとすると、両方のステーションがオフになり、再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。
「fecMode」	ホストポートのFECモードを次のいずれかのオプションに設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「auto」と入力します</li> <li>・ 「NONE」</li> <li>・ 「ReedSolomon」</li> <li>・ 「fireCode」</li> </ul>
IPv4ConfigurationMethodを指定します	IPv4の静的アドレスまたはDHCPアドレスを設定できます。
IPv6ConfigurationMethod`	IPv6の静的アドレスまたはDHCPアドレスを設定できます。
'IPv4GatewayIP'	ゲートウェイアドレスを次の形式で入力できます：(0-255) . (0-255) . (0-255) . (0-255) 。
IPv6HopLimit`	IPv6/パケットが経由できるホップの最大数を設定できます。デフォルト値は64です。
IPv6NdDetectDuplicateAddress	IPアドレスが一意であることを確認するために送信する近隣要求メッセージの数を設定できます。

パラメータ	説明
IPv6NdReachableTime	リモートIPv6ノードが到達可能とみなされる時間（ミリ秒）を設定できます。デフォルト値は30000ミリ秒です。
IPv6NdRetransmitTime`	パケットをIPv6ノードに再送信し続ける時間をミリ秒単位で設定できます。デフォルト値は1000ミリ秒です。
IPv6NdTimeOut`	IPv6ノードのタイムアウト値をミリ秒単位で設定できます。デフォルト値は30000ミリ秒です。
「IPv4Priority」のように表示されます	IPv4/パケットのプライオリティ割り当てを設定できます。
IPv6Priority	IPv6/パケットのプライオリティ割り当てを設定できます。
「IPv4SubnetMask」のように指定します	サブネットマスクアドレスを次の形式で入力できます：（0-255）.（0-255）.（0-255）.（0-255）。
'IPv4VlanId'	IPv4 VLAN IDを設定できます
IPv6VlanId	IPv6 VLAN IDを設定できます
maxFramePayload	ネットワークで送信されるパケットまたはフレームの最大サイズを設定できます。標準イーサネットフレームのペイロード部分は1500に、ジャンボイーサネットフレームは9000に設定されます。ジャンボフレームを使用している場合は、ネットワークバス内のすべてのデバイスが大きなフレームサイズを処理できる必要があります。デフォルト値は1500バイト/フレームです。  <span style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 50%; padding: 5px; display: inline-block;">i</span> NVMe over RoCE環境で最大限のパフォーマンスを実現するには、フレームサイズを4200に設定します。
tcpListeningPort	イニシエータからのiSCSIログインをリスンするために使用するTCPポート番号を設定できます。デフォルトポートは3260です。

パラメータ	説明
「portSpeed」	<p>ポートの通信速度をメガビット/秒 (Mb/秒) 単位で設定できます。</p> <p></p> <p>このパラメータは、25GbpsのiSCSIホストインターフェイスカードと100Gbpsのイーサネットホストインターフェイスカードでのみサポートされます。25GbpsのiSCSIホストインターフェイスカードでは、1つのポートの速度を変更すると、カード上の4つのポートすべての速度が変更されます。この場合に使用できるオプションは10または25です。100Gbpsイーサネットホストインターフェイスカードで、リリース8.50で新たに1つのポートの速度を変更しても、カード上の他のポートには影響しません。この場合の選択可能なオプションは、autoNegotiate、10、25、40、50です。100GbEと表示されます。</p>

## ホストポートタイプ別のパラメータサポート状況

パラメータがサポートされるかどうかは、次の表に示すように、ホストポートタイプ (iSCSI、iSER、NVMe over InfiniBand、またはNVMe over RoCE) によって異なります。

パラメータ	iSCSI	iSER	NVMe over InfiniBandの略	NVMe over RoCE
「ipv4address」と入力します	はい。	はい。	はい。	はい。
「IPV6LocalAddress」と入力します	はい。			はい。
IPv6RouteableAddresses	はい。			はい。
「IPV6RouterAddresses」	はい。			はい。
「enableIPV4」と入力します	はい。			はい。
「enableIPV6」	はい。			はい。

パラメータ	iSCSI	iSER	NVMe over InfiniBandの略	NVMe over RoCE
enableIPv4Vlan	はい。			いいえ
enableIPv6Vlan	はい。			いいえ
enableIPv4Priority	はい。			いいえ
enableIPv6Priority	はい。			いいえ
IPv4ConfigurationMethodを指定します	はい。			はい。
IPv6ConfigurationMethod`	はい。			はい。
'IPv4GatewayIP'	はい。			はい。
IPv6HopLimit`	はい。			
IPv6NdDetectDuplicateAddress	はい。			
IPv6NdReachableTime	はい。			
IPv6NdRetransmitTime`	はい。			
IPv6NdTimeOut`	はい。			
「IPv4Priority」のように表示されます	はい。			いいえ
IPv6Priority	はい。			いいえ
「IPv4SubnetMask」のように指定します	はい。			はい。
'IPv4VlanId'	はい。			いいえ
IPv6VlanId	はい。			いいえ

パラメータ	iSCSI	iSER	NVMe over InfiniBandの略	NVMe over RoCE
maxFramePayload	はい。			はい。
tcpListeningPort	はい。			
「portSpeed」	はい。			はい。

## 最小ファームウェアレベル

8.41

8.50 - NVMe over RoCE環境についての情報が追加されました。

11.70.1に'fecMode'パラメータが追加されました

## iSCSI ホストポートのネットワークプロパティを設定する - SANtricity CLI

set controller iscsiHostPortコマンドは'IPv4とIPv6のプロパティ' 'ポート速度' '最大フレームペイロードなど' ホストポートのネットワーク・プロパティを変更します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました コントローラのホストポートのプロパティを設定します コマンドを実行します

### 構文

```
set controller [(a|b)]
  iscsiHostPort [portLabel]
```

```
([IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255)] |
```

```
[IPv6LocalAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-  
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF)] |
```

```
[IPv6RouteableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-  
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF)] |
```

```
[IPv6RouterAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-  
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF)] |
```

```
[enableIPv4=(TRUE | FALSE) | enableIPv6=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[enableIPv4Vlan=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Vlan=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[enableIPv4Priority=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Priority=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[IPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp)] |
```

```
[IPv6ConfigurationMethod=(static | auto)] |
```

```
[IPv4GatewayIP=(TRUE | FALSE)] |
```

```
[IPv6HopLimit=[0-255]] |
```

```
[IPv6NdDetectDuplicateAddress=[0-256]] |
```

```
[IPv6NdReachableTime=[0-65535]] |
```

```
[IPv6NdRetransmitTime=[0-65535]] |
```

```
[IPv6NdTimeOut=[0-65535] ] |
```

```
[IPv4Priority=[0-7] | IPv6Priority=[0-7] ] |
```

```
[IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) ] |
```

```
[IPv4VlanId=[1-4094] | IPv6VlanId=[1-4094] ] |
```

```
[maxFramePayload=[*frameSize*] ] |
```

```
[tcpListeningPort=[3260, 49152-65536] ] |
```

```
[portSpeed=[(10 | 25)]])
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「enableIPV4」と入力します	次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 正しいです</li><li>• いいえ</li></ul>

パラメータ	説明
enableIPv4Priority	<p>ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にする場合は、このオプションを選択します。スライダを使用して優先度を 1 から 7 の間で選択します。</p> <p>共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先に行われたものから順に処理されます。2 つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようとすると、両方のステーションがオフになります。再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1 つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいです</li> <li>いいえ</li> </ul> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
enableIPv4Vlan	<p>VLAN は、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいです</li> <li>いいえ</li> </ul> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
「enableIPv6」	<p>IPv6 アドレススペースは 128 ビットです。コロンで区切られた 8 つの 16 ビット 16 進ブロックで表されます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいです</li> <li>いいえ</li> </ul>

パラメータ	説明
enableIPV6Priority	<p>ネットワークアクセスの優先度を決定するパラメータを有効にする場合は、このオプションを選択します。スライダを使用して優先度を 1 から 7 の間で選択します。</p> <p>共有 LAN 環境（イーサネットなど）では、多数のステーションがネットワークアクセスで競合する可能性があります。アクセスは先に行われたものから順に処理されます。2 つのステーションが同時にネットワークにアクセスしようとすると、両方のステーションがオフになります。再試行するまで待機します。スイッチイーサネットでは、1 つのステーションだけがスイッチポートに接続されるため、このプロセスは最小限に抑えられます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいです</li> <li>いいえ</li> </ul> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
enableIPV6Vlan	<p>VLAN は、同じスイッチ、同じルータ、またはその両方でサポートされる他の物理 LAN（ローカルエリアネットワーク）および仮想 LAN から物理的に分離されたように動作する論理ネットワークです。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>正しいです</li> <li>いいえ</li> </ul> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
「ipv4address」と入力します	次の形式でアドレスを入力します： (0-255) . (0-255) . (0-255) . (0-255)
「IPV4ConfigurationMethod」	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>静的</li> <li>DHCP</li> </ul>

パラメータ	説明
「IPV4GatewayIP」	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいです</li> <li>・いいえ</li> </ul>
「IPV4Priority」	<p>0~7の値を入力します。</p> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
「IPV4SubnetMask」	<p>次の形式でサブネットマスクを入力します： (0-255) . (0-255) . (0-255) . (0-255)</p>
「IPV4VlanId」	<p>1~4094の値を入力します。</p> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
IPV6ConfigurationMethod	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・静的</li> <li>・自動</li> </ul>
「IPV6HopLimit」	<p>このオプションは、IPv6パケットが経由できるホップの最大数を設定します。</p> <p>デフォルト値は「64」です。</p>
「IPV6LocalAddress」と入力します	<p>次の形式でアドレスを入力します： (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF)</p>
「IPV6NdDetectDuplicateAddress」と入力します	<p>0~256の値を入力します。</p>
「IPV6NdReachableTime」	<p>このオプションは、リモートIPv6モードが到達可能とみなされる時間を設定します。0~65535の値をミリ秒で指定します。</p> <p>デフォルト値は30000ミリ秒です。</p>

パラメータ	説明
「IPV6NdtransmitTime」	<p>このオプションは、IPv6ノードにパケットを再送信し続ける時間を設定します。0~65535の値をミリ秒で指定します。</p> <p>デフォルト値は「1000`milliseconds」です。</p>
「IPV6NdTimeOut」	<p>このオプションは、IPv6ノードのタイムアウト値を設定します。0~65535の値をミリ秒で指定します。</p> <p>デフォルト値は30000ミリ秒です。</p>
「IPV6Priority」	<p>0~7の値を入力します。</p> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
「IPV6RoutableAddress」	<p>次の形式でアドレスを入力します： (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF)</p>
「IPV6RouterAddress」	<p>次の形式でアドレスを入力します： (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF) : (0-FFFF)</p>
「IPV6VlanId」	<p>1~4094の値を入力します。</p> <p> このパラメータはNVMe over RoCE環境ではサポートされていません。</p>
maxFramePayload	<p>「maxFramePayload」オプションはIPv4とIPv6で共有され、ネットワークで送信できる最大のパケットまたはフレームです。標準イーサネット・フレームのペイロード部分は1500に設定され、ジャンボ・イーサネット・フレームは9000に設定されます。ジャンボフレームを使用している場合は、ネットワークパス内のすべてのデバイスが大きなフレームサイズを処理できる必要があります。</p> <p>デフォルト値は1500バイト/フレームです。1500~9000 の値を入力する必要があります。</p>

パラメータ	説明
「portSpeed」	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 10.</li> <li>• 25</li> </ul> <p> このオプションは、25Gb/sイーサネットホストインターフェイスカードでのみ有効です。1つのポートの速度を変更すると、カード上の4つのポートすべての速度が変更されます。</p> <p> iscsiHostPortパラメータのportSpeedオプションの値は'メガビット/秒 (Mb/s) 単位です</p>
tcpListeningPort	<p>リスニングポートは、コントローラがホスト iSCSI イニシエータからの iSCSI ログインをリスンするために使用する TCP ポート番号です。デフォルトのリスニングポートは 3260 です。3260、または 49152~65535 の値を入力する必要があります。</p>

## iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort ["ch 2"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります（{キャレット} を使用）。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort ["e0b^|0b"]
```

下位互換性のために、引用符と角かっこではなく角かっこ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。

- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort [3]
```

## 最小ファームウェアレベル

7.15で、新しいiSCSIホストポートオプションが追加されました。

7.60で'portSpeed'オプションが追加されました

8.10で、iSCSIホストポートの識別方法が改定されました。

8.40で、「iscsiHostPort」パラメータの「portSpeed」オプションが改定されました。これは25Gb/sイーサネットホストインターフェイスカードでのみ有効であり、1つのポートの速度を変更するとカード上の4つのポートすべての速度が変更されることに注意してください。

8.41で、このコマンドは廃止されました。

## コントローラのNTP設定を行う - SANtricity CLI

set controller NTPServers'コマンドは、コントローラのNTP設定を設定し、コントローラがSNTP（Simple Network Time Protocol）を使用してクロックを外部ホストと自動的に同期できるようにします。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）

この機能を有効にすると、コントローラは設定されたNTPサーバを定期的に照会し、その結果を使用して内部のクロックを更新します。一方のコントローラだけでNTPが有効になっている場合、代替コントローラのクロ

ックはNTPが有効なコントローラと定期的に同期されます。どちらのコントローラでもNTPが有効になっていない場合は、定期的にコントローラ間で相互にクロックが同期されます。



このコマンドはコントローラ固有です。両方のコントローラでNTPを設定する必要はありませんが、設定しておくことで、ハードウェア障害や通信障害が発生した場合にアレイの同期度が向上します。



完全修飾ドメイン名を使用してNTPを設定する場合、操作が成功するためにはそれらのコントローラにもDNSを設定する必要があります。を参照してください [コントローラのDNS設定を指定します](#) を参照してください。

## 構文

```
set controller(a|b) NTPServers=(disabled|auto|(Address1 [Address2]))
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	NTP設定を変更するコントローラ。有効なコントローラ識別子は、aまたはbです

パラメータ	説明
「NTPサーバ」	<p>このパラメータは、コントローラのNTPサーバを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• NTPサポートをオフにするには'disabled'を指定します</li> <li>• DHCPサーバから提供されるNTPサーバ・アドレスを使用するには'auto'を指定します</li> </ul> <p> このオプションは、コントローラの少なくとも1つの管理ポートがDHCP経由でインターフェイスパラメータを取得するように設定され、かつDHCPサーバにNTPサーバが少なくとも1つ設定されている場合にのみ使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• それ以外の場合は、1つまたは2つのNTPサーバをスペースで区切って指定します。アドレスは、ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスのいずれかで指定できます。複数のアドレスを指定する場合、アドレスタイプが一致している必要はありません。複数のアドレスを指定すると、指定した順にアドレスが使用されます（1番目がプライマリアドレス、2番目がバックアップアドレス）。</li> </ul> <p> 「例」セクションに示すように、NTPサーバ名は引用符で囲む必要があります。</p>
「住所」	"DomainName"
IPv4Address	<p>IPv6Address</p> <p>[NOTE] ===== ドメイン名を指定する場合は、コントローラがサーバのIPアドレスを解決できるようにDNSサーバも設定する必要があります。</p> <p>=====</p>

例

```
set controller[a] NTPServers=disabled;
set controller[a] NTPServers=auto;
set controller[a] NTPServers=("0.pool.ntp.org" "1.us.pool.ntp.org");
set controller[b] NTPServers=(192.168.1.105 "1.us.pool.ntp.org");
set controller[b] NTPServers=(2001:0db8:85a3:0000:0000:8a2e:0370:7334);
```

## 最小ファームウェアレベル

8.25

8.42で、NTP認証用のキークリデンシャルパラメータが追加されました。

## コントローラのサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI

set controllerコマンドは、コントローラトレイまたはコントローラドライブトレイ内のコントローラの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700アレイとE5600アレイを含む個々のストレージアレイの環境を行います。

### コンテキスト (Context)

ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。(電源ファンキャニスターまたはインターフェースコネクタバッテリキャニスターの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするには'set tray serviceAllowedIndicatorコマンドを使用します)



このコマンドは、E2700、E5600、EF560（および他の旧世代のEシリーズまたはEFシリーズのコントローラ）でのみ有効です。E2800コントローラトレイには警告インジケータが1つ付いており、1) 障害が発生した場合、および2) 障害が発生したコンポーネントを安全に取り外すことができる場合にのみ点灯します。

## 構文

```
set controller [(a| b)]
serviceAllowedIndicator=(on | off)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。コントローラを指定しないと、コントローラファームウェアから構文エラーが返されます。
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

## 最小ファームウェアレベル

6.14

## コントローラーの設定 - SANtricity CLI

set controllerコマンドは、コントローラの属性を定義します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```

set controller [(a|b)]
[availability=(online | offline | serviceMode)]
[ethernetPort [(1| 2)] ethernetPortOptions]
[globalNVSRAMByte [nvsramOffset]=(nvsramByteSetting | nvsramBitSetting)]
[hostNVSRAMByte [hostType, nvsramOffset]=(nvsramByteSetting |
nvsramBitSetting)]
[IPv4GatewayIP=ipAddress]
[IPv6RouterAddress=ipv6Address]
[iscsiHostPort [portLabel] iscsiHostPortOptions]
[rloginEnabled=(TRUE | FALSE)]
[serviceAllowedIndicator=(on | off)]

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「controller」と入力します	プロパティを定義するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ ([] )で囲みます。コントローラを指定しないと、コントローラのファームウェアから構文エラーが返されます。
可用性	コントローラのモード。「online」、「offline」、または「serviceMode」(service)に設定できます。
etherenPort`	管理イーサネットポートの属性(オプション)。このパラメータで指定できるエントリについては、このあとの構文要素の表を参照してください。IPアドレス、ゲートウェイアドレス、サブネットマスクアドレスなどの多数の設定を指定できます。
「globalNVSRAMByte」と入力します	コントローラNVSRAMの一部。領域内の開始バイトオフセットを使用して変更する領域と、NVSRAMに格納される新しいデータのバイト値またはビット値を指定します。
「hostNVSRAMByte」と入力します	ホスト固有の領域のNVSRAM。特定のホストのホストインデックス、領域内の開始オフセット、バイト数、およびNVSRAMに格納される新しいデータのバイト値またはビット値を指定します。
'IPv4GatewayIP'	ネットワークへのインターフェイスを提供するノードのIPアドレス。IPv4ゲートウェイのアドレス形式は、* (0 ~ 255) . (0 ~ 255) . (0 ~ 255) . (0 ~ 255) . (0 ~ 255) *です

パラメータ	説明
IPv6RouterAddress	2つ以上の論理サブネットを接続するIPv6ルータのIPアドレス。IPv6ルータのアドレス形式は'(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF)'です
「iscsiHostPort」のように入力します	このパラメータでは、コントローラのiSCSIポートのオプションを設定できます。iSCSIポートのラベルまたは番号を入力し、そのポートのオプションを選択します。 詳細については、以下の「iSCSIホストポートラベルの識別」セクションを参照してください。
rloginEnabled	リモートログイン機能をオンにするかオフにするかの設定。リモートログイン機能をオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。リモートログイン機能をオフにするには、このパラメータをFALSEに設定します。
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンにするかオフにするかの設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

## iSCSIホストポートラベルの特定

ホストポートのラベルを指定する必要があります。ホストポートのラベルを指定する手順は、次のとおりです。

1. iSCSIホスト・ポートのポート・ラベルがわからない場合は、「show controller」コマンドを実行します。
2. 結果のHost interfaceセクションで、選択するホストポートを特定します。



ポート・ラベルは'Port'フィールドに返される完全な値です

3. ポートラベルの値全体を引用符と角かっこで囲みます。["portLabel"]たとえば、ポートラベルが「Ch 2」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort[\"ch 2\"]
```



Windowsのコマンドラインを使用していて、ラベルにパイプ (|) が含まれている場合は、文字をエスケープする必要があります（{キャレット}を使用）。エスケープしない場合は、コマンドと解釈されます。たとえば、ポートラベルが「e0b|0b」の場合は、iSCSIホストポートを次のように指定します。

```
iscsiHostPort [\"e0b^|0b\"]
```

下位互換性のために、引用符と角かっこではなく角かっこ[]で囲まれているiscsiPortNumberも、引き続きE2700、E5600、EF560の各コントローラ（およびEシリーズまたはEFシリーズの他の旧世代コントローラ）に使用できます。これらのコントローラでは、iscsiPortNumberの有効な値は次のとおりです。

- ホストポートが統合されたコントローラの場合、番号は3、4、5、または6です。
- ホストインターフェイスカード上にのみホストポートがあるコントローラの場合、番号は1、2、3、または4です。

以前の構文の例を次に示します。

```
iscsiHostPort [3]
```

## ethernetPortパラメータのオプション

```
enableIPv4=(TRUE | FALSE) |
```

```
enableIPv6=(TRUE | FALSE) |
```

```
IPv6LocalAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
IPv6RoutableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
IPv4ConfigurationMethod=[(static | dhcp)] |
```

```
IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
duplexMode=(TRUE | FALSE) |
```

```
portSpeed=[(autoNegotiate | 10 | 100 | 1000)]
```

## iSCSIHostPortパラメータのオプション

```
IPv4Address=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
IPv6LocalAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-  
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
IPv6RouteableAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-  
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
IPv6RouterAddress=(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF):(0-  
FFFF):(0-FFFF):(0-FFFF) |
```

```
enableIPv4=(TRUE | FALSE) | enableIPv6=(TRUE | FALSE) |
```

```
enableIPv4Vlan=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Vlan=(TRUE | FALSE) |
```

```
enableIPv4Priority=(TRUE | FALSE) | enableIPv6Priority=(TRUE | FALSE) |
```

```
IPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp) |
```

```
IPv6ConfigurationMethod=(static | auto) |
```

```
IPv4GatewayIP=(TRUE | FALSE) |
```

```
IPv6HopLimit=[0-255] |
```

```
IPv6NdDetectDuplicateAddress=[0-256] |
```

```
IPv6NdReachableTime=[0-65535] |
```

```
IPv6NdRetransmitTime=[0-65535] |
```

```
IPv6NdTimeOut=[0-65535] |
```

```
IPv4Priority=[0-7] | IPv6Priority=[0-7] |
```

```
IPv4SubnetMask=(0-255).(0-255).(0-255).(0-255) |
```

```
IPv4VlanId=[1-4094] | IPv6VlanId=[1-4094] |
```

```
maxFramePayload=[*frameSize*] |
```

```
tcpListeningPort=[3260, 49152-65536] |
```

```
portSpeed=[( 10 | 25 )]
```

注：



ファームウェア・バージョン7.75より前の「set controller」コマンドでは、「NVSRAMByte」パラメータがサポートされていました。「NVSRAMByte」パラメータは廃止されており、「hostNVSRAMByte」パラメータまたは「globalNVSRAMByte」パラメータのいずれかに置き換える必要があります。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。すべてのパラメータを使用する必要はありません。

「availability」パラメータを「serviceMode」に設定すると、代替コントローラがすべてのボリュームの所有権を取得します。指定したコントローラはボリュームの割り当てをすべて削除され、ボリュームの所有権の取得を拒否するようになります。サービス・モードは「availability」パラメータが「online」に設定されるまでリセット・サイクルとパワー・サイクルを越えて維持されます

NVS RAM情報を表示するには「show controller NVSRAM」コマンドを使用します。NVS RAMに変更を加える場合

は、事前にテクニカルサポートに連絡して変更可能なNVSRAMの領域を確認してください。

duplexModeオプションをTRUEに設定すると'選択したEthernetポートは全二重に設定されますデフォルト値は半二重です(duplexModeパラメータは'FALSE'に設定されています)

IPv4設定またはIPv6設定が確実に適用されるようにするには'iscsiHostPort'オプションを次のように設定する必要があります

- enableIPV4 ='true'
- enableIPV6=「true」

IPv6アドレススペースは128ビットです。コロンで区切られた8つの16ビット16進ブロックで表されます。

maxFramePayloadオプションは'IPv4とIPv6で共有されます標準イーサネット・フレームのペイロード部分は1500に設定され、ジャンボ・イーサネット・フレームは9000に設定されます。ジャンボフレームを使用している場合は、ネットワークパス内のすべてのデバイスが大きなフレームサイズを処理できる必要があります。

portSpeedオプションは、メガビット/秒（Mb/秒）で表されます。

iscsiHostPortパラメータのportSpeedオプションの値は'メガビット/秒（Mb/s）単位です

次の値は'iscsiHostOptions'のデフォルト値です

- IPv6HopLimit'オプションは64'です。
- IPv6NdReachableTimeオプションは30000ミリ秒です。
- IPv6NdRetransmitTime'オプションは1000ミリ秒です。
- IPv6NdTimeOut'オプションは30000ミリ秒です。
- tcpListeningPortオプションは'326'です

## 最小ファームウェアレベル

7.15で'bootp'パラメータが削除され'新しいEthernetポート・オプションと新しいiSCSIホスト・ポート・オプションが追加されました

7.50で、「IPV4Gateway」パラメータと「IPV6RouterAddress」パラメータがiSCSIホストポートオプションからコマンドに移動されました。

7.60で'iscsiHostPort'パラメータのportSpeedオプションが追加されました

7.75で、「NVSRAMByte」パラメータが廃止されました。

8.10で、iSCSIホストポートの識別方法が改定されました。

## ディスクプールの設定（ディスクプールの変更） - SANtricity CLI

set diskPool'コマンドは'ディスク・プール（Dynamic Capacity ExpansionまたはDCE）に容量を追加するかディスク・プール全体のコントローラ所有権を変更します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

この2つの処理は同時に実行できません。

## 構文

```
set diskPool [<em>diskPoolName</em>]
  (addDrives=[<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
  <em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>] |
  addCapacity=(<em>diskPoolCapacity</em>))
  [owner=(a | b)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	変更するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ（[]）で囲みます。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、名前を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「addDrives」を参照してください	ディスクプールに追加するドライブ。大容量ドライブトレイの場合は、追加するドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、追加するドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。スロットIDの値は'1'～'24'ですトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。   この機能の最大ドライブ数は12本です。

パラメータ	説明
「addCapacity」	ディスクプールに追加するストレージ容量。このパラメータを指定すると、必要な追加容量を満たすドライブが自動的に選択されます。容量は'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます
「owner」をクリックします	ディスクプールを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラです所有者を指定しない場合は、コントローラファームウェアによって所有者が決定されます。

## 注：

ディスクプール内の既存のボリュームは、新しいドライブを追加する間もオンラインのままで、I/O処理が可能です。容量を追加するには、ディスクプールが完了状態である必要があります。ディスク・プールがcomplete状態でない場合は新しいドライブを追加する前にset diskPool completeコマンドを実行します

容量を追加するには'addDrives'パラメータで個のドライブを指定するか'addCapacity'パラメータでドライブ容量を指定します「addDrives」を使用する場合、ホストは、操作を実行する前にドライブセットを検証する必要があります。「addCapacity」パラメータを使用すると、指定した容量が追加する最小容量として使用されます。候補ドライブのうち、サービス品質が最適で、かつ指定した以上の容量を持つドライブが使用されます。最小限の要件を満たす候補がない場合や、指定したドライブを使用できない場合や属性の不一致が検出された場合は、処理が失敗します。

このコマンドを使用して、ディスクプールの所有権をストレージアレイ内のあるコントローラから別のコントローラに変更することもできます。所有権の変更とドライブまたは容量の追加を同時に実行することはできません。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## ディスクプールの設定 - SANtricity CLI

set diskPool'コマンドは'指定したパラメータに基づいてディスク・プールに関連づけられた属性を設定します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set (diskPool [<em>diskPoolName</em>] |
diskPools [<em>diskPoolName1</em> ... <em>diskPoolNameN</em>] |
allDiskPools)
[reservedDriveCount=<em>reservedDriveCountValue</em>]
[warningThreshold=(warningThresholdValue | default)]
[criticalThreshold=(criticalThresholdValue | default)]
[criticalPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[degradedPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[backgroundPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[userLabel=<em>diskPoolName</em>]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「diskPool」	属性を設定するディスクプールの名前。ディスクプール名は角かっこ（[]）で囲みます。ディスクプール名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成される場合は、ディスクプール名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「diskPools」	属性を設定する複数のディスクプールの名前。以下のルールを使用して、ディスクプールの名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none"><li>すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li><li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li></ul> ディスクプール名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。 <ul style="list-style-type: none"><li>すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li><li>各名前は二重引用符（""）で囲みます。</li><li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li></ul>
「allDiskPools」	このパラメータは、ストレージアレイ内のすべてのディスクプールの属性を設定します。
「reservedDriveCount」	このパラメータは、ディスクプール内のすべてのドライブに、障害ドライブの再構築のみに使用されるスペースを確保します。この数の各単位は、1つの障害ドライブをディスクプールの残りのドライブに再構築するための容量を表します。

パラメータ	説明
「warningThreshold」	<p>ディスクプールの容量がこの割合に達すると、ディスクプールの上限に近づいているという警告アラートが表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。最適な操作を行うには、このパラメータの値を「criticalThreshold」パラメータの値よりも小さくする必要があります。</p> <p>有効な値は0~100です。</p> <p>デフォルト値は50です。</p> <p>このパラメータを「0」に設定すると、警告アラートが無効になります。</p> <p>これをデフォルトに設定した場合'警告アラートのしきい値はコントローラファームウェアによって決定されます</p>
「criticalThreshold」です	<p>ディスクプールの容量がこの割合に達すると、ディスクプールの上限に近づいているという重大アラートが表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。最適な操作を行うには'このパラメータの値をwarningThresholdパラメータの値よりも大きくする必要があります</p> <p>有効な値は0~100です。</p> <p>デフォルト値は85%です。</p> <p>このパラメータを「0」に設定すると、警告アラートと重大アラートの両方が無効になります。</p> <p>これをデフォルトに設定した場合'クリティカル・アラートのしきい値はコントローラ・ファームウェアによって決定されます</p>
「criticalPriority」です	<p>ディスクプール上の重大イベントの再構築処理の優先度。たとえば、少なくとも2つのドライブ障害が発生したあとのディスクプールの再構築などです。</p> <p>有効な値は'high' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest' ですデフォルト値は「highest」です。</p>

パラメータ	説明
「degradedPriority」	ディスクプールでデグレードイベントが発生した場合の再構築処理の優先度。たとえば、1つのドライブ障害が発生した後のディスクプールの再構築などです。 有効な値は'high' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest' です デフォルト値は'high'です
「backgroundPriority」	ディスクプール上のバックグラウンド処理の優先度。 有効な値は'high' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest' です デフォルト値は'low'です
「userLabel」のように入力します	ディスクプールに付ける新しい名前。ディスクプール名は二重引用符 ("") で囲みます。

## 注：

ディスクプール名は一意である必要があります。ユーザラベルには、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

任意のディスクプールをセットで指定できます。複数のディスク・プールを選択した場合は'userLabel'の値を設定するとエラーが発生します

オプションパラメータの値を指定しない場合は、デフォルト値が割り当てられます。

## ディスクプールのアラートのしきい値

各ディスクプールには2段階の重大度レベルのアラートがあり、ディスクプールのストレージ容量が上限に近づいたときにユーザに通知します。アラートのしきい値は、ディスクプール内の使用可能な総容量に対する使用済み容量の割合です。アラートは次のとおりです。

- 警告—ディスクプール内の使用済み容量がフルに近づいていることを通知する第1レベルのアラートです。警告アラートのしきい値に達すると、要注意状態が生成され、ストレージ管理ソフトウェアにイベントが送信されます。警告しきい値よりも、重大しきい値のほうが優先されます。デフォルトの警告しきい値は50%です。
- 重大—ディスクプール内の使用済み容量がフルに近づいていることを通知する最も重大なレベルのアラートです。重大アラートのしきい値に達すると、要注意状態が生成され、ストレージ管理ソフトウェアにイベントが送信されます。警告しきい値よりも、重大しきい値のほうが優先されます。重大アラートのデフォルトのしきい値は85%です。

警告アラートの値は常に重大アラートの値より小さくする必要があります。警告アラートの値が重大アラートの値と同じ場合は、重大アラートのみが送信されます。

## ディスクプールのバックグラウンド処理

ディスクプールは次のバックグラウンド処理をサポートします。

- ・再構築
- ・Instant Availability Format (IAF)
- ・の形式で入力し
- ・容量の動的拡張 (DCE)
- ・Dynamic Capacity Reduction (DCR)
- ・Dynamic Volume Expansion (DVE) (ディスクプールの場合、DVEは実際はバックグラウンド処理ではなく、同期処理としてサポートされています)。

ディスクプールでは、バックグラウンドコマンドはキューに配置されません。複数のバックグラウンドコマンドを順次開始できますが、複数のバックグラウンド処理を一度に開始すると、前に開始したコマンドの完了が遅延します。サポートされているバックグラウンド処理の相対的な優先度レベルは次のとおりです。

1. 再構築
2. の形式で入力し
3. IAF
4. DCE/DCR

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## ドライブのホットスペアを設定する - **SANtricity CLI**

set drive hotspareコマンドは1つ以上のドライブをホット・スペアとして割り当てまたは割り当て解除します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
set (drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>] | 
drives [<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>, ]<em>slotID1</em> ... 
<em>trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>, ]<em>slotIDn</em>])
hotSpare=(TRUE | FALSE)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>
「ホットスペア」	ドライブをホットスペアとして割り当てるための設定。ドライブをホット・スペアとして割り当てるには'このパラメータをTRUEに設定しますドライブからホットスペアの割り当てを削除するには'このパラメータをFALSEに設定します

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

## 外部ドライブをネイティブに設定する - SANtricity CLI

「set drive nativeState」コマンドを使用すると、見つからない（外部）ドライブが元のボリュームグループに再び追加され、新しいストレージアレイのボリュームグループに追加されます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイのボリュームグループに属しているドライブは、ネイティブとみなされます。ストレージアレイのボリュームグループに属していないドライブ、またはボリュームグループのドライブが新しいストレージアレイに転送される際に一緒にインポートされなかったドライブは、外部ドライブとみなされます。後者の場合は、新しいストレージアレイに不完全なボリュームグループが作成されます。

この処理は、緊急のリカバリ目的で、1つ以上のドライブのステータスを外部からネイティブに変更して元のボリュームグループ内で元のステータスに戻す必要がある場合にのみ使用します。



データ破損またはデータ損失の可能性--前述した以外の理由でこのコマンドを使用すると、通知なしにデータが失われる可能性があります。

## 構文

```
set (drive=(<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>) |  
drives=(<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>, ]<em>slotID1</em> ...  
<em>trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>, ]<em>slotIDn</em>) |  
allDrives) nativeState
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800、E5700、EF600、およびEF300コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「allDrives」を参照してください	すべてのドライブを選択するための設定。

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

## ドライブの状態を設定する - **SANtricity CLI**

set drive operationalStateコマンドは'ドライブをFailed状態に設定します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々 のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ドライブを最適状態に戻すには'ドライブの再活性化コマンドを使用します

## 構文

```
set drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>]  
operationalState=failed [copyDrive]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p>

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

## 最小ファームウェアレベル

5.20

7.60で'drawerID'ユーザー入力が追加されました

## FIPS ドライブセキュリティ識別子の設定 - SANtricity CLI

set drive securityID コマンドは FIPS ドライブを元の製造元の設定に戻すために使用します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドを E4000、E2800、E5700、EF600、または EF300 のストレージアレイに対して実行するには、Security Admin ロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



このコマンドは、FIPS ドライブをメーカー出荷時の設定にリセットし、既存のドライブデータをすべて消去します。この処理は元に戻すことができません。セキュリティキーが無効または見つからないか、パスフレーズが不明なためにドライブがロックされた場合、この処理が必要になることがあります。既存のドライブデータはすべて消去されます。

FDE ドライブを消去するには 'start secureErase' コマンドを使用します

### 構文

```
set drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>]  
securityID="string"
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「securityID」	<p>消去するドライブのセキュリティIDを文字列形式で指定します。この文字列の最大文字数は32文字です。セキュリティIDの形式は製造元によって異なります。</p> <p> セキュリティIDを確認するには、ドライブを取り外し、キャニスター ラベルのセキュリティIDを確認します。</p>

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

## 例

```
set drive [1,31,4] securityID="V2zdvLTdGWdWyTALGHns";
```

## 最小ファームウェアレベル

8.25

# ドライブサービスアクション許可インジケーターの設定 - **SANtricity CLI**

set drive serviceAllowedIndicatorコマンドは'保守操作可能インジケータライト機能をサポートするドライブトレイ内のドライブで'保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。

## 構文

```
set (drive [<em>trayID</em>, [<em>drawerID</em>, ]<em>slotID</em>] |  
drives[<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>, ]<em>slotID1</em> ...  
<em>trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>, ]<em>slotIDn</em>])  
serviceAllowedIndicator=(on | off)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ドライブ」または「ドライブ」	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ ([]) で囲みます。</p>
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

## 注：

'drive'パラメータは'大容量ドライブトレイと小容量ドライブトレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子 (ID) 、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

## 最小ファームウェアレベル

6.16

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

## ドライブチャネルステータスの設定 - **SANtricity CLI**

set driveChannelコマンドは'ドライブ・チャネルの動作を定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800

、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## 構文

```
set driveChannel [(1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8)]  
status=(optimal | degraded)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
driveChannel	ステータスを設定するドライブチャネルの識別番号。有効なドライブ・チャネル値は'1"2'3'4'5'です '6'7'または'8`ドライブチャネル番号は角かっこ ([]) で囲みます。
ステータス	ドライブチャネルの状態。ドライブ・チャネルのステータスは'optimal'または'degraded'に設定できます

## 注：

最適なオプションを使用して'デグレード状態のドライブ・チャネルを最適状態に戻しますドライブ・チャネルに問題が発生し'ストレージ・アレイがデータ転送にさらに時間を必要とする場合は' degradedオプションを使用します

## 最小ファームウェアレベル

6.10

7.15で、ドライブチャネル識別子の更新が追加されました。

## メール（SMTP）配信方法を指定する - SANtricity CLI

set storageArray AutoSupport smtpiveryMethodコマンドは、AutoSupport メッセージを電子メール（SMTP）に送信するための配信方法を設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray autoSupport deliveryMethod=email  
mailRelayServer="serverAddress"  
senderEmail="emailAddress" destinationAddress="destination1@example.com"  
destinationAddress="destination2@example.com";
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「deliveryMethod」を参照してください	AutoSupportによる収集の配信方法を指定できます。有効な選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• E メール</li><li>• HTTPS</li></ul> <p> Eメール方式が設定されている場合、AutoSupport OnDemandとRemote Diagnosticsは無効になります。</p>
mailRelayServer'	AutoSupport 収集用のメールリレーサーバを指定できます。
「senderEmail」	AutoSupport コレクションの送信メールアドレスを指定できます。
destinationAddress	AutoSupportディスパッチを送信するEメールアドレス。このパラメータを複数回指定すると、ディスパッチを複数のアドレスに送信できます。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportConfig  
deliveryMethod=email mailRelayServer=\"mailserver.company.com\"  
senderEmail=\"user@company.com\";"  
  
SMcli completed successfully.
```

## 検証

「*start storageArray AutoSupport deliveryTest*」コマンドを使用してテストメッセージを送信し、配信方法が正しく設定されていることを確認します。

## 最小ファームウェアレベル

8.40

## 電子メールアラート設定を構成する - SANtricity CLI

*set emailAlert*コマンドは、指定されたテクニカル・サポートまたは組織に電子メールを送信するように電子メールを設定します。Eメールアラートには、イベントの概要、影響を受けるストレージに関する詳細情報、およびお客様の連絡先情報が含まれています。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、およびEF300ストレージアレイに適用されます。ただし、E2700アレイまたはE5600アレイの場合は、スクリプトコマンドではなくSMcliコマンドとして、このコマンドを使用できます。この場合、コマンドは管理ドメイン内のすべてのアレイに適用されます。

### 構文

```
set emailAlert  
  serverAddress="serverAddress" |  
  serverEncryption=none | smt� | starttls |  
  serverPort=port value |  
  serverUsername="username" |  
  serverPassword="password" |  
  senderAddress="emailAddress" |  
  additionalContactInfo="filename" |  
  (recipientAddresses= ("emailAddress1" ...  
  "emailAddressN") |  
  addRecipientAddresses= ("emailAddress1" ...  
  "emailAddressN"))
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「serverAddress」と入力します	Eメールサーバのアドレスを設定できます。Eメールサーバのアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。
「serverEncryption」	サーバとの通信に使用される暗号化。次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>none</i>-暗号化なし</li> <li>• <i>smt�ps</i>- SSL/TLS接続を作成する(暗黙的なTLS)</li> <li>• <i>_STARTTLS</i> -暗号化されていない接続を作成しSSL/TLSセッションを確立します(明示的TLS)</li> </ul>
「サーバポート」	サーバへの接続に使用するTCPポート。デフォルト値は暗号化タイプによって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>none</i>-デフォルトはポート25です</li> <li>• <i>smt�ps</i>-デフォルトはポート465です</li> <li>• <i>_STARTTLS</i> -デフォルトでポート587に設定します</li> </ul>
「serverUsername」と入力します	サーバに認証クレデンシャルを提供するユーザ名。ユーザ名を指定する場合は、パスワードも指定する必要があります。
「serverPassword」と入力します	サーバに認証クレデンシャルを提供するためのパスワード。パスワードを指定する場合は、ユーザ名も指定する必要があります。
「senderAddress」	送信者のEメールアドレスを設定できます。
「additionalContactInfo」	Eメールアラートで使用する追加の連絡先情報が含まれているファイル名を指定できます。
「受信者住所」	受信者Eメールアドレスを設定できます。この設定オプションを使用すると、既存のEメールアドレスが消去されます。すべての名前をかっこで囲みます。各名前は二重引用符 ("") で囲みます。名前はそれぞれスペースで区切ります。

パラメータ	説明
「addRecipientAddressesアドレス」	受信者Eメールアドレスを既存のリストに追加できます。すべての名前をかっこで囲みます。各名前は二重引用符（""）で囲みます。名前はそれぞれスペースで区切ります。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set emailAlert
serverAddress="email.server.domain.com"
serverEncryption=("smtps") |
serverPort="smtps" |
serverUsername="username" |
serverPassword="password" |
senderAddress=no-reply@server.domain.com
additionalContactInfo="C:\additionalInfo.txt"
recipientAddresses=("person1@email.domain.com"
"person2@email.domain.com");"

SMcli -n Array1 -c "set emailAlert
addRecipientAddresses=("person3@netapp.com");"

SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

11.70.1では'serverEncryption' 'ServerPort' 'serverUsername' 'serverPassword' パラメータが追加されています

## イベントアラートフィルタリングの設定 - SANtricity CLI

「set event alert」コマンドは、特定のアラート対象イベントに関する通知を無効または有効にすることによって、アラートイベント通知を管理します。特定のアラート対象イベントに関する通知を無効にするには、次のコマンドを実行します。「ブロック」特定のアラート対象イベントに関する通知を有効にするには、そのイベントのブロックを解除します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700とE5600のストレージアレイにのみ適用されます。

## コンテキスト（Context）



このコマンドはSMcliコマンドであり、スクリプトコマンドではありません。このコマンドはコマンドラインから実行する必要があります。このコマンドは、ストレージ管理ソフトウェア内のスクリプトエディタから実行することはできません

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイを定義する際に、アラートを設定し、イベントアラートの管理方法を定義できます。アラートを送信するようにストレージアレイを設定した場合は、アラート対象イベントが発生したときに指定の受信者に通知が送信されます。通知には、次のいずれかまたはすべての種類を使用できます。

- E メール
- syslog
- SNMP トランプ通知

イベントアラートの設定CLIコマンドは、1つのストレージアレイに対して機能します。あるストレージアレイでこのコマンドを実行すると、そのストレージアレイのみにコマンドが適用されます。CLIコマンドの実行対象でない他のストレージアレイでは、デフォルトの動作が実行されます。



イベントアラートをブロックしても、イベントはシステムイベントログに記録されます。すべてのイベントは引き続きイベントログに記録されます。



このコマンドを使用して、アラート対象でないイベントをアラート対象にすることはできません。

## イベントアラートをブロックする構文

```
set blockEventAlert <em>eventType</em>
```

## イベントアラートをブロック解除する構文

```
set unBlockEventAlert <em>eventType</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
<code>eventType`</code>	<p>このパラメータは、イベントの整数値です。イベント値を16進形式で入力します（0x280Dなど）。値が16進形式であることを示すために、常に「* 0x」で始まるようにしてください。0xを使用しないと、ブロックまたはブロック解除コマンドが適用される前に、値が10進数として解釈されて16進値に変換されます。これにより、原因が誤ったイベントをブロックまたはブロック解除する可能性があります。</p> <p>無効なイベントを入力すると、エラーが表示されます。</p>

## 最小ファームウェアレベル

8.10で

## ホストの設定 - SANtricity CLI

`set host`コマンドは'ホストをホスト・グループに割り当てるか'ホストを別のホスト・グループに移動します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）

このコマンドでは、新しいホストグループを作成し、そのホストグループにホストを割り当てるこどもできます。このコマンドで実行される操作は、ホストに個別のマッピングがあるかどうかによって異なります。

### 構文

```
set host [hostName]
hostGroup=("<em>hostGroupName</em>" | none | defaultGroup)
userLabel="newHostName"
hostType=(<em>hostTypeIndexLabel</em> | <em>hostTypeIndexNumber</em>)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
ホスト	ホストグループに割り当てるホストの名前。ホスト名は角かっこ ([]) で囲みます。ホスト名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ホスト名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「hostGroupName」と入力します	ホストを割り当てるホストグループの名前。（次の表に、ホストに個別のマッピングがあるかどうかに関係なく、コマンドの実行方法を示します）。ホストグループ名は二重引用符 ("") で囲みます。defaultGroupオプションはボリュームがマップされているホストを含むホスト・グループです
「userLabel」のように入力します	新しいホスト名。ホスト名は二重引用符 ("") で囲みます。
「hostType」	ホストポートのホストタイプのインデックスラベルまたはインデックス番号。使用可能なホストタイプ識別子のリストを生成するには、「show storageArray hostTypeTable」コマンドを使用します。ホストタイプに特殊文字が含まれている場合は、ホストタイプを二重引用符 ("") で囲みます。

ホストグループのパラメータ	ホストに個別の割り当てがあります	ホストに個別の割り当てがありません
「hostGroupName」と入力します	ホストは現在のホスト・グループから削除され'hostGroupName'で定義された新しいホスト・グループの下に配置されます	ホストは現在のホスト・グループから削除され'hostGroupName'で定義された新しいホスト・グループの下に配置されます
「NONE」	ホストが独立したパーティションとしてホストグループから削除され、ルートノードに配置されます。	ホストが現在のホストグループから削除され、デフォルトグループに配置されます。
defaultGroup	コマンドが失敗します。	ホストが現在のホストグループから削除され、デフォルトグループに配置されます。

注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30

文字です。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

# ホストチャネルの設定 - SANtricity CLI

set hostChannelコマンドは'ホスト・チャネルのループIDを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set hostChannel [<em>hostChannelNumber</em>]  
preferredID=<em>portID</em>
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ホストチャネル」	ループIDを設定するホストチャネルの識別番号。ホストチャネルの識別番号は角かっこ(())で囲みます。  使用するコントローラモデルに適したホストチャネル値を使用してください。コントローラトレイは、1つのホストチャネルまたは最大8つのホストチャネルをサポートします。有効なホスト・チャネル値は'A1' 'A2'A3'"'A4'A5'です A6` , A7 , A8, B1 , B2 ` , 「B3」、「B4」、「B5」、「B6」、「B7」、または「B8」。
「preferredID」	指定したホストチャネルのポート識別子。ポートIDの値は0~127です

## 最小ファームウェアレベル

6.10

6.14で、ホストチャネル識別子の更新が追加されました。

7.15で、ホストチャネル識別子の更新が追加されました。

## ホストグループの設定 - SANtricity CLI

set hostGroupコマンドは'ホスト・グループの名前を変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

構文

```
set hostGroup [<em>hostGroupName</em>]  
userLabel="<em>newHostGroupName</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「hostGroup」と入力します	名前を変更するホストグループの名前。ホストグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。ホストグループ名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ホストグループ名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「userLabel」のように入力します	ホストグループの新しい名前。新しいホストグループ名は二重引用符（""）で囲みます。

注：

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

最小ファームウェアレベル

6.10

# ホストポートの設定 - SANtricity CLI

set HostPortコマンドは'ホスト・ポートのプロパティを変更します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）



iSCSI環境では、ホストポートがイニシエータとみなされるため、このコマンドは機能しません。代わりに'set iscsilInitiatorコマンドを使用しますを参照してください [iSCSIイニシエータを設定する](#)。

構文

```
set hostPort [<em>portLabel</em>] userLabel=<em>newPortLabel</em>
[host=<em>hostName</em>]
```

パラメータ

パラメータ	説明
「ホストポート」	ホストタイプを変更するホストポートの名前、または新しい名前を作成するホストポートの名前。ホストポート名は角かっこ（[]）で囲みます。ホストポート名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ホストポート名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲みます。
「userLabel」のように入力します	ホストポートに付ける新しい名前。ホストポートの新しい名前は二重引用符（""）で囲みます。
ホスト	HBAまたはHCAホストポートを定義するホストの名前。ホスト名は二重引用符（""）で囲みます。

注：

ユーザラベルには、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

# イニシエータの設定 - SANtricity CLI

set initiatorコマンドは'イニシエータ・オブジェクトを更新します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止されたを置き換えます [iSCSIイニシエータを設定する](#) コマンドを実行します



このコマンドは、iSCSI、iSER、NVMe over RoCE、NVMe over InfiniBand、NVMe over Fibre Channelに対してのみ使用できます。

構文

```
set initiator (["initiatorName"] | <"initiatorQualifiedName">)
([userLabel="newInitiatorName"] |
[host="newHostName"] | [chapSecret="newSecurityKey"])
```

パラメータ

パラメータ	説明
イニシエータ	プロパティを設定するイニシエータIDを指定できます。名前は二重引用符("")で囲みますさらに、値がユーザラベルである場合は名前を角かっこ ([] ) で、値が修飾名 (iqnやnqnなど) である場合は名前を山かっこ (<>) で囲む必要があります。
「userLabel」のように入力します	イニシエータオブジェクトの新しいユーザラベルを入力できます。新しいユーザラベルは二重引用符 ("") で囲みます。

パラメータ	説明
ホスト	ホストポートを接続する新しいホストを入力できます。ホスト名は二重引用符 ("") で囲みます。
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用する新しいセキュリティキーを入力できます。セキュリティキーは二重引用符 ("") で囲みます。このパラメータは'iSCSI'およびiSERのホスト・インターフェイス・タイプにのみ適用できます

## 最小ファームウェアレベル

8.41

## iSCSIイニシエーターの設定 - SANtricity CLI

set iscsilInitiatorコマンドは'iSCSIイニシエータの属性を設定します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [イニシエータの設定](#) コマンドを実行します

### 構文

```
set iscsiInitiator (["<em>initiatorUserLabel</em>"] | 
"<_iscsiInitiatorName_>")
(userLabel="<em>newName</em>" | 
host="<em>newHostName</em>" | 
chapSecret="<em>newSecurityKey</em>")
```

### パラメータ

パラメータ	説明
<p>「initiatorUserLabel」のように入力します</p>	<p>属性を設定するiSCSIイニシエータのユーザラベル。iSCSIイニシエータのユーザラベルは、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p></p> <p>イニシエータのユーザラベルの先頭には、ホストポートが接続されているホスト名を指定します。ホストにはホストポート識別子が複数存在する可能性があるため、ホストポートIDには一意のサフィックスを使用します。ホスト名がICTM1590S02H1の場合、イニシエータラベルは次のようにになります。</p> <pre data-bbox="856 665 1199 739">set iscsiInitiator ["ICTM1590S02H1_AA"]</pre>
<p>「iscsilInitiatorName」のように指定します</p>	<p>属性を設定するイニシエータの名前。「iscsilInitiatorName」は、二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（&lt;&gt;）で囲みます。</p> <p></p> <p>「iscsilInitiatorName」は、iSCSI Qualified Name (iqn) です。次に例を示します。</p> <pre data-bbox="856 1151 1452 1256">set iscsiInitiator &lt;"iqn.2016-11.com.vmware.iscsi:ictm1509s02h1"&gt;</pre>

パラメータ	説明
「userLabel」のように入力します	iSCSIイニシエータに使用する新しいユーザラベル。新しいユーザラベルは二重引用符（""）で囲みます。  イニシエータユーザラベルは、ホストポートが接続されているホスト名で始める事を推奨します。ホストにはホストポート識別子が複数存在する可能性があるため、ホストポートIDには一意のサフィックスを使用します。ホスト名がICTM1590S02H1の場合、イニシエータのユーザラベルの例を次に示します。  <pre>set iscsiInitiator ["ICTM1590S02H1_AA"]</pre>
ホスト	ホストポートを接続する新しいホストの名前。ホスト名は二重引用符（""）で囲みます。次に例を示します。  <pre>["ICTM1590S02H2"]</pre>
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用するセキュリティキー。セキュリティキーは二重引用符（""）で囲みます。

## 注：

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) は、接続のピアを認証するプロトコルです。CHAPは、\_secret\_を共有するピアに基づいています。シークレットとは、パスワードのようなセキュリティキーのことです。

相互認証を必要とするイニシエータのセキュリティ・キーを設定するには'chapSecret'パラメータを使用しますCHAPシークレットは12~57文字で指定する必要があります。次の表に、有効な文字を示します。

スペース	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	
,	-	。	/	0	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
8.	9.	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C

D	E	F	G	h	私	J	K	L	M	N	o
P	Q	R	s	t	U	V	W	X	Y	Z	[
\	]	^	_	'	A	B	C	D : \	E	F	G
h	私	J	K	L	M	N	o	P	Q	R	s
t	U	V	W	X	Y	Z	{			}	~

## 最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

## iSCSI ターゲットのプロパティを設定する - SANtricity CLI

set iscsiTargetコマンドはiSCSIターゲットのプロパティを定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ターゲットのプロパティを設定します](#) コマンドを実行します

### 構文

```
set iscsiTarget ["<em>userLabel</em>"]
authenticationMethod=(none | chap) |
chapSecret=<em>securityKey</em> |
targetAlias="<em>userLabel</em>"
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「iscsiTarget」と入力します	プロパティを設定するiSCSIターゲット。「userLabel」は二重引用符（""）で囲みます。また、ユーザー・ラベルがターゲット・エイリアスである場合は'userLabel'を角かっこ（[]）で囲む必要があります。ユーザー・ラベルがiSCSI Qualified Name (IQN)である場合は山かっこ（<>）で囲む必要があります。
「authenticationMethod」を指定します	iSCSIセッションを認証する手段。
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用するセキュリティキー。
targetAlias	ターゲットに使用する新しい名前。名前は二重引用符（""）で囲みます。

## 注：

チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) は、接続のピアを認証するプロトコルです。CHAPは、\_secret\_を共有するピアに基づいています。シークレットとは、パスワードのようなセキュリティキーのことです。

相互認証を必要とするイニシエータのセキュリティ・キーを設定するには'chapSecret'パラメータを使用します。CHAPシークレットは12~57文字で指定する必要があります。次の表に、有効な文字を示します。

スペース	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	
,	-	。	/	0	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
8.	9.	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C
D	E	F	G	h	私	J	K	L	M	N	o
P	Q	R	s	t	U	V	W	X	Y	Z	[
\	]	^	_	'	A	B	C	D : \	E	F	G
h	私	J	K	L	M	N	o	P	Q	R	s
t	U	V	W	X	Y	Z	{			}	~

## 最小ファームウェアレベル

7.10

8.41で、このコマンドは廃止されました。

## iSERターゲットの設定 - SANtricity CLI

set iserTargetコマンドはiSERターゲットのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイ環境 SMcliパッケージがすべてインストールされていれば、EF600およびEF300アレイ

ロール

このコマンドをE2800、E5700、EF600、またはEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。



このコマンドは廃止され、で置き換えられました [ターゲットのプロパティを設定します](#) コマンドを実行します

構文

```
set iserTarget ["<em>userLabel</em>"]
authenticationMethod=(none | chap) |
chapSecret=<em>securityKey</em> |
targetAlias="<em>userLabel</em>"
```

パラメータ

パラメータ	説明
「iserTarget」と入力します	プロパティを設定するiSERターゲット。「userLabel」は二重引用符 ("") で囲みます。また'ユーザー・ラベルがターゲット・エイリアスである場合は'userLabel'を角かっこ ([]) で囲む必要がありますユーザー・ラベルがiSCSI Qualified Name (IQN) である場合は'山かっこ (<>) で囲む必要があります
「authenticationMethod」を指定します	iSCSIセッションを認証する手段。
「チャプターシークレット」	ピア接続の認証に使用するセキュリティキー。
targetAlias	ターゲットに使用する新しい名前。名前は二重引用符 ("") で囲みます。

## 注：

チャレンジハンドシェイク認証プロトコル (CHAP) は、接続のピアを認証するプロトコルです。CHAP は、\_secret\_を共有するピアに基づいています。シークレットとは、パスワードのようなセキュリティキーのことです。

相互認証を必要とするイニシエータのセキュリティ・キーを設定するには'chapSecret'パラメータを使用しますCHAPシークレットは12~57文字で指定する必要があります。次の表に、有効な文字を示します。

スペー ス	!	"	#	\$	%	&	'	(	)	*	
,	-	。	/	0	1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.
8.	9.	:	;	<	=	>	?	@	A	B	C
D	E	F	G	h	私	J	K	L	M	N	o
P	Q	R	s	t	U	V	W	X	Y	Z	[
\	]	^	_	'	A	B	C	D : \	E	F	G
h	私	J	K	L	M	N	o	P	Q	R	s
t	U	V	W	X	Y	Z	{			}	~

## 最小ファームウェアレベル

8.20で

8.41で、このコマンドは廃止されました。

## セッションの設定 - SANtricity CLI

「set session errorAction」コマンドは、現在のスクリプトエンジンセッションの実行方法を定義します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、Security Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

このコマンドでは、セッションはコマンドの実行期間に限定されます。ストレージアレイに対してパラメータが永続的に設定されるわけではありません。

## 構文

```
set session errorAction=(stop | continue)
password="storageArrayPassword"
performanceMonitorInterval=intervalValue
performanceMonitorIterations=iterationValue
```

```
set session errorAction=(stop | continue)
password="storageArrayPassword"
userRole=(admin | monitor)
performanceMonitorInterval=intervalValue
performanceMonitorIterations=iterationValue
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「errorAction」	処理中にエラーが発生した場合のセッションの応答方法。エラーが発生した場合にセッションを停止するか、セッションを続行するかを選択できます。デフォルト値は「stop」です。（このパラメータは、構文エラーではなく実行エラーに対する処理を定義します。エラー条件によっては、「continue」の値が無効になる場合があります）。
「password」と入力します	ストレージアレイのパスワード。パスワードは二重引用符（""）で囲みます。   クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合、このパラメータは使用されません。パスワードはCLIコマンドスクリプトの実行前に指定する必要があります、スクリプトの実行中は変更できません。

パラメータ	説明
'performanceMonitorInterval'	<p>パフォーマンスデータを収集する頻度。データをキャプチャするポーリング間隔の整数値を秒単位で入力します。値の範囲は'3'~ 3600秒ですデフォルト値は「5秒」です。</p> <p></p> <p>クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'このパラメータは使用されませんデフォルトの間隔を変更するには、代わりに影響を受ける個々のコマンドでこのパラメータを使用します。このコマンドは'save storageArray performanceStatsおよびshow drive performanceStatsです</p>
'performanceMonitorIterations'	<p>キャプチャするサンプルの数。整数値を入力します。キャプチャされるサンプルの値の範囲は'1'~3600ですデフォルト値は「5」です。</p> <p></p> <p>クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'このパラメータは使用されませんデフォルトのイテレーション値を変更するには、代わりに影響を受ける個々のコマンドでこのパラメータを使用します。このコマンドは'save storageArray performanceStatsおよびshow drive performanceStatsです</p>

## 注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

パスワードは、管理ドメイン内の各ストレージアレイに保存されます。以前にパスワードが設定されていない場合は、パスワードは必要ありません。パスワードは、最大30文字の英数字を任意に組み合わせて指定できます。（ストレージアレイのパスワードは、「set storageArray」コマンドを使用して定義できます）。

指定したポーリング間隔とサンプル数は、セッションを終了するまで有効です。セッションを終了すると、ポーリング間隔とサンプル数がデフォルト値に戻ります。

## 最小ファームウェアレベル

5.20

8.40 - クライアント・タイプがhttpsに設定されている場合'password'UserRole"performanceMonitorInterval'および'performanceMonitorIterations'パラメータを廃止しました

# スナップショットグループのスケジュールを設定する - SANtricity CLI

set snapGroup enableScheduleコマンドは'スナップショット・グループのスナップショット・イメージを取得するスケジュールを定義します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"]
enableSchedule=(TRUE | FALSE)
schedule (immediate | snapshotSchedule)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	プロパティを設定するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([] ) で囲みます。
「enableSchedule」	このパラメータを使用して、Snapshot処理のスケジュール機能をオンまたはオフにします。スナップショットのスケジュール設定をオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますスナップショットのスケジュール設定をオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア (\_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

enableScheduleパラメータとscheduleパラメータを使用すると'スナップショット・グループのスナップショット・イメージの作成をスケジュールできますこれらのパラメータを使用すると、日単位、週単位、または月単位（曜日単位または日付単位）でSnapshotをスケジュールできます。enableScheduleパラメータは'スナップショットをスケジュールする機能をオンまたはオフにしますスケジューリングをイネーブルにする場合は'schedule'パラメータを使用して'スナップショットをいつ実行するかを定義します

次に'schedule'パラメータのオプションの使用方法を示します

- ・「immediate」 --コマンドを入力すると'スナップショット・イメージが作成され'コピー・オン・ライト・オペレーションが開始されます
- ・startDate --スナップショットイメージを作成してcopy-on-write操作を実行する特定の日付日付の入力形式は「MM : DD : YY」です。開始日を指定しない場合は、現在の日付が使用されます。このオプションの例は'startDate=06:27:11'です
- ・scheduleDay --スナップショットイメージを作成してcopy-on-write処理を実行する曜日を指定します。これらの値は'Monday'Tuesday"Tuesday"Wednesday"Thursday'Friday', 「土曜日」、「日曜日」、「すべて」。このオプションの例は'scheduleDay=wednesday'です
- ・startTime --スナップショットイメージを作成し'コピー・オン・ライト操作を開始する時刻時刻の入力形式は「HH:MM」です。「HH」は時間、「MM」は時間を過ぎた分です。24時間制を使用します。たとえば、午後2：00は14：00です。このオプションの例は'startTime=14:27'です
- ・scheduleInterval- copy-on-write処理の間に最小値を設定する時間（分単位）。コピー処理の実行時間によっては、複数のcopy-on-write処理が重複して実行されるようなスケジュールが作成される可能性があります。このオプションを使用すると、copy-on-write処理が間隔を空けて実行されるようになります。「scheduleInterval」オプションの最大値は1440分です。このオプションの例は「\*scheduleInterval=180 \*」です。
- ・endDate --スナップショットイメージの作成を停止してcopy-on-write操作を終了する特定の日付日付の入力形式は「MM : DD : YY」です。このオプションの例は'endDate=11:26:11'です
- ・noEndDate--スケジュールされたcopy-on-write操作を終了させない場合は'このオプションを使用します後でコピー・オン・ライト操作を終了する場合は'set snapGroupコマンドを再入力し'終了日を指定する必要があります
- ・timesPerDay-スケジュールを1日に実行する回数このオプションの例は'timesPerDay=4'です
- ・timezone-ストレージアレイが動作しているタイムゾーンを定義するには、このパラメータを使用します。タイムゾーンは次の2つの方法のいずれかで定義できます。
  - 'GMT±HH:mm'-- GMTからのタイムゾーンオフセット。オフセットを時間と分で入力します。たとえば、GMT-06 : 00は米国の中央タイムゾーンです。
  - テキスト文字列—標準的なタイムゾーンのテキスト文字列。たとえば、「America/Chicago」または「Australia/Brisbane」と入力します。タイムゾーンのテキスト文字列では大文字と小文字が区別されます。誤ったテキスト文字列を入力すると、GMT時間が使用されます。テキスト文字列は二重引用符で囲みます。

スケジュールを定義するためのコード文字列の例を次に示します。

```
enableSchedule=true schedule startTime=14:27
```

```
enableSchedule=true schedule scheduleInterval=180
```

```
enableSchedule=true schedule timeZone=GMT-06:00
```

```
enableSchedule=true schedule timeZone="America/Chicago"
```

「scheduleInterval」オプションも使用する場合、ファームウェアでは、2つのオプションの最小値を選択することにより、「timesPerDay」オプションと「scheduleInterval」オプションの間が選択されます。ファームウェアは、「scheduleInterval」オプションの値を設定した「scheduleInterval」オプションの値で1440を割ることによって、「scheduleInterval」オプションの整数値を計算します。たとえば、 $1440/180 = 8$ のようになります。ファームウェアは'timesPerDay'の整数値と'計算されたscheduleInterval'の整数値を比較し'より小さい値を使用します

スケジュールを削除するには'schedule'パラメータを指定してdelete volumeコマンドを使用します'schedule'パラメータを指定してdelete volumeコマンドを実行すると'スケジュールのみが削除され'スナップショット・ボリュームは削除されません

## 最小ファームウェアレベル

7.83

7.86で、「scheduleDate」オプションおよび「month」オプションが追加されました。

## スナップショットグループリポジトリボリューム容量の設定 - SANtricity CLI

set snapGroup increase/decreaseRepositoryCapacityコマンドは'スナップショット・グループのリポジトリ・ボリュームの容量を増減します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 容量を増やすための構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"] increaseRepositoryCapacity  
(repositoryVolumes="repos_xxxx" |  
repositoryVolumes=((<em>volumeGroupName</em>  
[capacity=<em>capacityValue</em>])) |  
repositoryVolumes=((<em>diskPoolName</em>  
[capacity=<em>capacityValue</em>])))
```

## 容量を減らす場合の構文

```
set snapGroup ["snapGroupName"]
decreaseRepositoryCapacity
count=numberOfVolumes
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	容量を増減するSnapshotグループの名前。Snapshot グループ名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かつ こ（[]）で囲みます。

パラメータ	説明
リポジトリボリューム	<p>容量を拡張するリポジトリボリュームの名前。使用可能な標準ボリュームがリポジトリボリュームに追加され、リポジトリボリュームの容量が拡張されます。</p> <p>リポジトリボリュームの名前を定義する方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存のリポジトリボリュームの名前を使用します</li> <li>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成します</li> </ul> <p>既存のリポジトリボリュームの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「repos」という用語</li> <li>ストレージ管理ソフトウェアがリポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子</li> </ul> <p>既存のリポジトリボリュームの名前は二重引用符（""）で囲みます。</p> <p>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、リポジトリボリュームを含めるボリュームグループまたはディスクプールの名前を入力する必要があります。必要に応じて、リポジトリボリュームの容量を定義することもできます。容量を定義する場合は、次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベースボリュームの容量の割合を表す整数値</li> <li>ベースボリュームの容量の割合を表す小数値</li> <li>リポジトリボリュームの具体的なサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</li> </ul> <p>容量オプションを使用しない場合は、ストレージ管理ソフトウェアによって、ベースボリュームの容量の20%に設定されます。</p> <p>このコマンドを実行すると、ストレージ管理ソフトウェアによって、Snapshotボリューム用のリポジトリボリュームが作成されます。</p>
「count」	Snapshotグループから削除するリポジトリボリュームの数。整数値を使用します。

## 注：

ユーザラベルには、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

リポジトリボリュームの名前は、新しいSnapshotグループを作成するときに、ストレージ管理ソフトウェアおよびファームウェアによって自動的に作成されます。リポジトリボリュームの名前は変更できません。名前を変更すると、Snapshotイメージとのリンクが切断されます。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つの要素だけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、その要素の容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、標準のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは、次の合計サイズの最小容量要件を満たす必要があります。

- 32MB：Snapshotグループのオーバーヘッドを固定し、copy-on-write処理に使用できるようになりました。
- ロールバック処理用の容量。ベースボリュームの容量の1/5000です。

この最小容量は、コントローラファームウェアとストレージ管理ソフトウェアによって適用されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## スナップショットグループのメディアスキャンを設定する - **SANtricity CLI**

set snapGroup mediaScanEnabledコマンドは'スナップショット・グループ上でメディア・スキャンを実行します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```

set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"]
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	メディアスキャンを実行するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([] ) で囲みます。
mediaScanEnabled	ボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア (\_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## スナップショットグループ属性の設定 - SANtricity CLI

set snapGroupコマンドはスナップショット・グループのプロパティを定義します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set snapGroup ["<em>snapGroupName</em>"]  
[userLabel="<em>snapGroupName</em>"] |  
[repositoryFullPolicy=(failBaseWrites | purgeSnapImages)] |  
[repositoryFullLimit=<em>percentValue</em>] |  
[autoDeleteLimit=<em>numberOfSnapImages</em>] |  
[rollbackPriority=(lowest | low | medium | high | highest)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapGroup」	プロパティを設定するSnapshotグループの名前。Snapshotグループ名は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。
「userLabel」のように入力します	Snapshotグループに付ける新しい名前。このパラメータは、Snapshotグループの名前を変更する場合に使用します。新しいSnapshotグループ名は二重引用符 ("") で囲みます。
repositoryFullPolicy	Snapshotイメージグループのリポジトリボリュームが上限に達している場合にSnapshotイメージ処理をどのように続行するかを指定します。ベースボリュームへの書き込みを停止する (failBaseWrites) か、Snapshotイメージを削除 (ページ) する (purgeSnapImages) かを選択できます。デフォルトのアクションはpurgeSnapImagesです
repositoryFullLimit	リポジトリボリュームの容量がこの割合に達すると、Snapshotイメージのリポジトリボリュームの上限に近づいているという警告が表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。デフォルト値は75です。
'autoDeleteLimit'	リポジトリフルポリシーのSnapshotイメージのページを選択した場合に自動的に削除するSnapshotイメージの最大数。整数値を使用します。デフォルト値は32です。

パラメータ	説明
「rollBackPriority」を参照してください	このパラメータを使用して、システムパフォーマンスを犠牲にしてシステムリソースをロールバック処理に割り当てるかどうかを決定します。有効な値は'high'"medium'"low'"low'"low'"low"ですは'ロールバック操作が他のすべてのホストI/Oより優先されることを示しますlowestの値は'ホストI/Oへの影響を最小限に抑えてロールバック操作を実行することを示します

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

このコマンドではパラメータを1つ以上指定できます。ただし、すべてのパラメータを使用する必要はありません。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## 読み取り専用スナップショットボリュームを読み取り/書き込みボリュームに設定する - SANtricity CLI

set snapVolume convertToReadWriteコマンドは'読み取り専用ボリュームであるスナップショット・ボリュームを'読み取り/書き込みボリュームであるスナップショット・ボリュームに変更します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

このコマンドを使用して、読み取り/書き込みボリュームに新しいリポジトリボリュームを指定したり、リポジトリボリュームのフルの警告レベルを設定したりすることもできます。

## 構文

```

set snapVolume ["<em>snapImageVolumeName</em>"] convertToReadWrite
[(repositoryVolume="repos_xxxx" |
repositoryVolume=(<em>volumeGroupName</em>)
[capacity=<em>capacityValue</em>])
repositoryVolume=(<em>diskPoolName</em>)
[capacity=<em>capacityValue</em>]]
[repositoryFullLimit=<em>percentValue</em>]

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	読み取り専用から読み取り/書き込みに変更するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの識別子は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([]) で囲みます。

パラメータ	説明
リポジトリボリューム	<p>読み取り/書き込みボリュームに使用するリポジトリボリュームの名前。</p> <p>リポジトリボリュームの名前を定義する方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存のリポジトリボリュームの名前を使用します</li> <li>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成します</li> </ul> <p>既存のリポジトリボリュームの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「repos」という用語</li> <li>ストレージ管理ソフトウェアがリポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子</li> </ul> <p>既存のリポジトリボリュームの名前は二重引用符（""）で囲みます。</p> <p>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、リポジトリボリュームを含めるボリュームグループまたはディスクプールの名前を入力する必要があります。必要に応じて、リポジトリボリュームの容量を定義することもできます。容量を定義する場合は、次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベースボリュームの容量の割合を表す整数値</li> <li>ベースボリュームの容量の割合を表す小数値</li> <li>リポジトリボリュームの具体的なサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</li> </ul> <p>容量オプションを使用しない場合は、ストレージ管理ソフトウェアによって、ベースボリュームの容量の20%に設定されます。</p> <p>このコマンドを実行すると、ストレージ管理ソフトウェアによって、Snapshotボリューム用のリポジトリボリュームが作成されます。</p>
repositoryFullLimit	リポジトリボリュームの容量がこの割合に達すると、Snapshotイメージのリポジトリボリュームの上限に近づいているという警告が表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。デフォルト値は75です。

## 注：

ユーザラベルには、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。ユーザラベルの最大文字数は30文字です。

リポジトリボリュームの名前は、新しいSnapshotグループを作成するときに、ストレージ管理ソフトウェアおよびファームウェアによって自動的に作成されます。リポジトリボリュームの名前は変更できません。名前を変更するとSnapshotイメージとのリンクが切断されます。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つの要素だけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、その要素の容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、標準のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能なリポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは、次の合計サイズの最小容量要件を満たす必要があります。

- 32MB：Snapshotグループのオーバーヘッドを固定し、copy-on-write処理に使用できるようになりました。
- ロールバック処理用の容量。ベースボリュームの容量の1/5000です。

この最小容量は、コントローラファームウェアとストレージ管理ソフトウェアによって適用されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## スナップショットボリュームのリポジトリボリューム容量を設定する - **SANtricity CLI**

`set snapVolume increase/decreaseRepositoryCapacity`コマンドは'スナップショット・ボリュームのリポジトリ・ボリュームの容量を増減します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 容量を増やすための構文

```
set snapVolume["snapVolumeName"] increaseRepositoryCapacity  
(repositoryVolumes="repos_xxxx" |  
repositoryVolumes=(<em>volumeGroupName</em>) |  
[capacity=<em>capacityValue</em>] |  
repositoryVolumes=(<em>diskPoolName</em>)  
[capacity=<em>capacityValue</em>] )
```

## 容量を減らす場合の構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"] decreaseRepositoryCapacity  
count=<em>numberOfVolumes</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	プロパティを設定するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの識別子は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([] ) で囲みます。

パラメータ	説明
リポジトリボリューム	<p>容量を拡張するリポジトリボリュームの名前。使用可能な標準ボリュームがリポジトリボリュームに追加され、リポジトリボリュームの容量が拡張されます。</p> <p>リポジトリボリュームの名前を定義する方法は2つあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存のリポジトリボリュームの名前を使用します</li> <li>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成します</li> </ul> <p>既存のリポジトリボリュームの名前は次の2つの部分で構成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「repos」という用語</li> <li>リポジトリボリューム名に割り当てる4桁の数値識別子</li> </ul> <p>既存のリポジトリボリュームの名前は二重引用符（""）で囲みます。</p> <p>このコマンドを実行するときに新しいリポジトリボリュームを作成する場合は、リポジトリボリュームを含めるボリュームグループまたはディスクプールの名前を入力する必要があります。必要に応じて、リポジトリボリュームの容量を定義することもできます。容量を定義する場合は、次の値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベースボリュームの容量の割合を表す整数値</li> <li>ベースボリュームの容量の割合を表す小数値</li> <li>リポジトリボリュームの具体的なサイズ。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</li> </ul> <p>容量オプションを使用しない場合は、ストレージ管理ソフトウェアによって、ベースボリュームの容量の20%に設定されます。</p> <p>新しいリポジトリボリュームの名前は丸かっこで囲みます。</p>
「count」	削除するボリュームの数。整数値を使用します。

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

Snapshotリポジトリボリュームは拡張可能なボリュームで、標準ボリュームエンティティを最大16個まで接続することで構成されます。拡張可能なリポジトリボリュームは、最初は1つの要素だけで構成されます。その時点でのリポジトリボリュームの容量は、その要素の容量と同じです。リポジトリボリュームの容量は、標準のリポジトリボリュームを接続することで拡張できます。その後、複数の要素で構成された拡張可能リポジトリボリュームの容量は、接続されたすべての標準ボリュームの合計容量になります。

Snapshotグループのリポジトリボリュームは、次の合計サイズの最小容量要件を満たす必要があります。

- 32MB：Snapshotグループのオーバーヘッドを固定し、copy-on-write処理に使用できるようになりました。
- ロールバック処理用の容量。ベースボリュームの容量の1/5000です。

この最小容量は、コントローラファームウェアとストレージ管理ソフトウェアによって適用されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## スナップショットボリュームのメディアスキャンを設定する - **SANtricity CLI**

「set snapVolume mediaScanEnabled」コマンドは、スナップショットボリュームに使用されているドライブ上でメディアスキャンを実行します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）

必要に応じて、データの冗長性チェックを実行することもできます。

### 構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"]
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE) [redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	プロパティを設定するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの識別子は、二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこ ([] ) で囲みます。
mediaScanEnabled	Snapshotボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します

## 注：

名前には、英数字、アンダースコア (\_) 、ハイフン (-) 、シャープ (#) を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## スナップショットボリュームの名前変更 - SANtricity CLI

set snapVolumeコマンドは既存のスナップショット・ボリュームの名前を変更します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"]
userLabel="<em>snapImageVolumeName</em>"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「SnapVolume」	名前を変更するSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリューム名は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「userLabel」のように入力します	Snapshotボリュームに付ける新しい名前。新しいSnapshotボリューム名は二重引用符（""）で囲みます。

注：

名前には、英数字、アンダースコア（\_）、ハイフン（-）、シャープ（#）を任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## SNMPコミュニティの更新 - SANtricity CLI

「set snmpcommunity」コマンドは、既存の簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）コミュニティに新しい名前を作成します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### 構文

```
set snmpCommunity communityName="snmpCommunityName"  
newCommunityName="newSnmpCommunityName"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「CommunityName」の略	名前を変更する既存のSNMPコミュニティの名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符 ("") で囲みます。
「newCommunityName」と入力します	SNMPコミュニティに付ける新しい名前。SNMPコミュニティ名は二重引用符 ("") で囲みます。

## 最小ファームウェアレベル

8.30

## SNMP MIB II システムグループ変数の更新 - SANtricity CLI

set snmpSystemVariablesコマンドは、簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）のシステム変数を変更します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）

次のシステム変数は、Management Information Base II（MIB-II）データベースで管理されています。

- ・システムの名前
- ・システム担当者の名前
- ・システムの場所

### 構文

```
set snmpSystemVariables
[sysName=<em>newSystemName</em>]
[sysContact=<em>contactName</em>]
[sysLocation=<em>systemLocation</em>]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「sysName」と入力します	SNMPシステムに付ける新しい名前。システム名には、SNMPおよびMIBの標準の規則を使用します。SNMPシステム名は角かっこ ([]) で囲みます。
「sysContact」と入力します	管理下システムの担当者の名前と、この担当者への連絡方法に関する情報。SNMP担当者名は角かっこ ([]) で囲みます。
「sysLocation」と入力します	システムの物理的な場所（「3rd FLR」など）。SNMPシステムの場所は角かっこ ([]) で囲みます。

## 最小ファームウェアレベル

8.30

## SNMPトラップの送信先を更新する - SANtricity CLI

set snmpTrapDestination trapReceiveripコマンドを使用すると、SNMPトラップの送信先に関する認証エラーメッセージの送信をオンまたはオフにできます。エラーは、SNMPエージェントがSNMPマネージャからメッセージを受信したが、メッセージに無効なコミュニティ名またはユーザ名が含まれている場合に発生します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### 構文

```
set snmpTrapDestination trapReceiverIP=ipAddress  
(communityName="communityName" | (userName="userName"  
[engineId=(local | engineId)]))  
[sendAuthenticationFailureTraps=(TRUE | FALSE)]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「trapReceiverIP」と入力します	トラップメッセージの送信先であるSNMPマネージャのIPアドレス。
「CommunityName」の略	トラップメッセージを送信するSNMPコミュニティの名前。
「ユーザ名」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザの名前。
「engineID」	トラップメッセージを送信するSNMPユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定する値は、「local」です。ローカルSNMPエージェントは、権限のあるエージェントであるか、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定する16進数の文字列です。
「sendAuthenticationFailureTraps」	このパラメータは、SNMPマネージャへの認証エラーメッセージの送信をオンまたはオフにします。認証失敗メッセージを送信するには、パラメータを「true」に設定します。認証失敗メッセージを送信しないようにするには、パラメータをFALSEに設定します。デフォルトは「true」です。

## 最小ファームウェアレベル

8.30

## SNMPv3 USMユーザーの更新 - SANtricity CLI

set snmpUser usernameコマンドは、既存の簡易ネットワーク管理プロトコル（SNMP）USMユーザを更新します。ユーザ名を持つユーザが1人だけの場合は、変更するUSMユーザがユーザ名で識別されます。ユーザ名とエンジンIDが同じでないユーザが複数ある場合、そのユーザはユーザ名とエンジンIDで識別されます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## 構文

```
set snmpUser userName="snmpUserName" [engineId=(local | engineId)]  
[newUserName="newSnmpUserName"] [newEngineId=(local | engineId)]  
[authProtocol=(none | sha | sha256 | sha512) authPassword="authPassword"]  
[privProtocol=(none | aes128) privPassword="privPassword"]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「ユーザ名」	更新するSNMP USMユーザの名前。SNMP USMユーザ名を二重引用符（" "）で囲みます。
「engineID」	更新するSNMP USMユーザのエンジンID。同じユーザ名を使用するUSMユーザが複数ある場合は、エンジンIDが必要です。ローカルSNMPエージェントを指定する値は'local'である場合もあれば、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定するための16進数の数値文字列である場合もあります
「newSnmpUserName」を選択します	SNMPユーザに付ける新しい名前。SNMPユーザ名は二重引用符（" "）で囲みます。デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義されたユーザ名です。
「newEngineId」	ユーザの信頼できるSNMPエンジンIDの識別子として使用する新しいエンジンID。ローカルSNMPエージェントを権限のあるエージェントに指定する場合は「[.code] local」、リモートSNMPエージェントエンジンIDを指定する場合は16進数の文字列を指定する場合は「[.code] local」となります。デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義されたエンジンIDです。
「authProtocol」	ユーザに使用するHMAC（認証プロトコル）。次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 'none'- SNMPメッセージの認証なし（デフォルト）</li><li>• sha`SHA-1認証</li><li>• 「SHA256」 -SHA-256認証を使用します</li><li>• 「SHA512`-SHA-512認証」を参照してください</li></ul> デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義された認証プロトコルです。

パラメータ	説明
「authPassword」	ユーザの認証に使用するパスワード。認証プロトコルがSHA、SHA256、またはSHA512の場合に指定する必要があります
「プライベートプロトコル」	ユーザに使用されるプライバシープロトコル（暗号化）。次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 'none'- SNMPメッセージの暗号化なし（デフォルト）</li> <li>• aes128-aes-18暗号化</li> </ul> デフォルト値は、ユーザに対して以前に定義されたプライバシープロトコルです。
「プライベートパスワード」	ユーザのプライバシー/暗号化に使用するパスワード。プライバシープロトコルが「aes128」の場合は、この値を指定する必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

8.72

## ストレージアレイの自動ロードバランシングを有効または無効に設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray autoLoadBalancingEnableコマンドは、自動ロードバランシング機能を有効または無効にします。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
set storageArray autoLoadBalancingEnable=(TRUE | FALSE)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「storageArray storageArray storageArray」	このパラメータがストレージアレイに対して機能することを示します。
autoLoadBalancingEnable	このパラメータは、コントローラの自動ロードバランシングをオンまたはオフにします。自動ロードバランシングをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。自動ロードバランシングをオフにするには、パラメータをFALSEに設定します。

### 自動ロードバランシングとは何ですか？

自動ロードバランシング機能を使用すると、負荷の変化に動的に対応してボリュームのコントローラ所有権が自動的に調整されるため、コントローラ間でワークロードが移動する際の負荷の不均衡が解消され、I/Oリソースの管理が強化されます。

各コントローラのワークロードは継続的に監視され、ホストにインストールされたマルチパスドライバとの連携により、必要に応じて自動的に負荷を分散できます。ワークロードがコントローラ間で自動的に再分散されるため、ストレージアレイの負荷の変化に合わせてボリュームのコントローラ所有権を手動で調整する必要がなくなり、ストレージ管理者の負担が軽減されます。

自動ロードバランシングを有効にすると、次の機能が実行されます。

- ・コントローラのリソース利用率を自動的に監視して負荷を分散します。
- ・ボリュームのコントローラ所有権が必要に応じて自動的に調整され、ホストとストレージアレイの間のI/O帯域幅が最適化されます。

### 自動ロードバランシングの有効化と無効化

自動ロードバランシングは、SANtricity OS（コントローラソフトウェア）8.30以降に付属のすべてのストレージアレイでデフォルトで有効になります。Linux、Windows、VMwareのマルチパスドライバでは、自動ロードバランシング機能を使用できます。コントローラをSANtricity OS（コントローラソフトウェア）8.25以前から8.30以降にアップグレードした場合、自動ロードバランシングはストレージアレイでデフォルトで無効になります。

自動ロードバランシングは、ストレージアレイの状況に応じて無効にすることができます。たとえば、次のような場合です。

- ・特定のボリュームのコントローラ所有権については、ワークロードを分散するために自動的に変更されないようにする場合。
- ・高度に調整された環境で、コントローラ間の負荷分散が特定の要件を満たすように意図的に設定されている。

SANtricity Storage Managerで、個別のストレージアレイの自動ロードバランシング機能を有効または無効にするには、ストレージアレイ>\*構成\*>\*自動ロードバランシング\*メニューオプションを選択します。

SANtricity システムマネージャで、**Settings>\*System\***を選択し、\*Additional Settings\*セクションまで下にスクロールして、Eイネーブル/ディセーブル自動ロードバランシングリンクをクリックし、**Enable/Disable automatic load balancing** チェックボックスを選択して、個々のストレージアレイの機能をイネーブルまたはディセーブルにします。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoLoadBalancingEnable=true;"  
SMcli completed successfully.
```



「ドライブがプライマリパスを喪失」状態がアクティブな場合、自動ロードバランシングがワークロードを分散することができません。自動ロードバランシング機能でワークロードが分散されるためには、この状態が非アクティブである必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

8.30

# AutoSupport メッセージ収集スケジュールの設定 - SANtricity CLI

`set storageArray autoschedule`' AutoSupport コマンドは、AutoSupport メッセージを送信する毎日および毎週の時間と曜日を設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

- AutoSupport が有効な場合、管理ソフトウェアは日単位のAutoSupport メッセージと週単位のAutoSupport メッセージの両方を送信します。
- 管理ドメイン内のストレージアレイについて、毎日および毎週のどのタイミングでメッセージを送信するかの範囲（時間単位）を指定できます。
- 週次スケジュールの場合は、AutoSupport による収集と送信を優先する曜日を選択します。

## 構文

```
set storageArray autoSupport schedule dailyTime=<em>startTime-endTime</em>
[dayOfWeek=(Sunday Monday Tuesday Wednesday Thursday Friday Saturday)]
weeklyTime=<em>startTime-endTime</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「dailyTime」	<'startTime'>-<'endTime'>-すべてのストレージアレイのAutoSupport データの収集を開始および終了する時刻を指定します startTime と endTime は24時間形式のHH : 00で、時刻を指定する必要があります。たとえば、午後9時などです「21 : 00」と入力する必要があります。
「DayOfWeek」	(Sunday
Monday	Tuesday
Wednesday	Thursday
Friday	Saturday) AutoSupport バンドル収集データの収集を優先する曜日（日曜~土曜）を指定します（複数可）。 「DayOfWeek」 パラメータは、括弧で囲み、スペースで区切る必要があります。
「weeklyTime」	<'startTime'>-<'endTime'>-選択した曜日ごとにAutoSupport バンドル収集データの収集を開始および終了する時刻を指定します。「startTime」と「endTime」はHH : MM[am]

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport schedule dailyTime=14:00-15:00 weeklyTime=1:00-5:00;"  
  
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupport schedule dailyTime=14:00-15:00 dayOfWeek=(Monday Friday) weeklyTime=1:00-5:00;"  
  
SMcli completed successfully.
```

## 検証

スケジュールの変更結果を確認するには、「show storageArray autoSupport AutoSupport」コマンドを使用します。

## 最小ファームウェアレベル

8.40

# AutoSupport メンテナンス ウィンドウを有効または無効にする - SANtricity CLI

set storageArray autoSupportMaintenanceWindowコマンドは、AutoSupport メンテナンス ウィンドウ機能をオンまたはオフにします。

メンテナンス期間を使用して、エラーイベント発生時に自動でチケットが作成されないようにします。通常運用モードでは、問題がある場合、ストレージアレイはAutoSupport を使用してテクニカルサポートにケースをオープンします。AutoSupport がメンテナンス期間に入ると、この機能は抑制されます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray autoSupportMaintenanceWindow (enable | disable)
emailAddresses=("emailAddress1" "emailAddress2" ...)
[duration=<duration_in_hours>];
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「メールアドレス」	メンテナンス期間の要求が処理されたときに確認のEメールを受け取るEメールアドレスのリスト。Eメールアドレスは5つまで指定できます。
「期間」	任意。メンテナンス期間を有効にする期間（時間数）。省略した場合、サポートされる最大期間（72時間）が使用されます。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportMaintenanceWindow enable  
emailAddresses=\\"me@company.com\\" duration=5;"  
  
SMcli completed successfully.
```

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportMaintenanceWindow enable  
emailAddresses=(\\"me1@company.com\\" \\"me2@company.com\\");"  
  
SMcli completed successfully.
```

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportMaintenanceWindow disable  
emailAddresses=(\\"me1@company.com\\" \\"me2@company.com\\"  
\\"me3@company.com\\"  
\\"me4@company.com\\" \\"me5@company.com\\");"  
  
SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.42

# AutoSupport OnDemand 機能を有効または無効にする - SANtricity CLI

`set storageArray autoSupportOnDemand` コマンドは、AutoSupport OnDemand機能をオンまたはオフにします。この機能を使用すると、テクニカルサポートはAutoSupport データ送信を調整でき、不足しているサポートデータの再送信を要求できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

この機能を有効にする前に、まずストレージアレイでAutoSupport 機能を有効にする必要があります。この機能を有効になると、必要に応じてAutoSupport リモート診断機能を有効にすることができます。

## 構文

```
set storageArray autoSupportOnDemand (enable | disable)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
'enable	disable

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportOnDemand enable;"  
SMcli completed successfully.
```

## 検証

show storageArray storageArray autoSupport AutoSupport コマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の2行には、AutoSupport 機能とAutoSupport OnDemand機能の有効ステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport is enabled on this storage array.  
The AutoSupport OnDemand feature is enabled on this storage array.  
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is enabled on this storage  
array.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

## AutoSupportリモート診断機能を有効または無効にする - SANtricity CLI

set storageArray autoSupportRemoteDiagコマンドは、AutoSupport OnDemand Remote Diagnostics機能をオンまたはオフにします。この機能により、テクニカルサポートは、サポートデータを要求して問題をリモートで診断できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

この機能を有効にする前に、まずAutoSupport機能、次にAutoSupport OnDemand機能をストレージアレイ上で有効にします。

3つの機能は、次の順序で有効にする必要があります。

1. AutoSupport を有効にします
2. AutoSupport OnDemandを有効にします
3. AutoSupport Remote Diagnosticsを有効にします

## 構文

```
set storageArray autoSupportRemoteDiag (enable | disable)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
'enable	disable

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray autoSupportRemoteDiag enable;"  
SMcli completed successfully.
```

## 検証

show storageArray storageArray autoSupport AutoSupport コマンドを使用して、この機能を有効にしているかどうかを確認します。表示される出力の最初の3行には、AutoSupport機能とAutoSupport OnDemand機能およびAutoSupport Remote Diagnostics機能の有効ステータスが順番に表示されます。

```
The AutoSupport feature is enabled on this storage array.  
The AutoSupport OnDemand feature is enabled on this storage array.  
The AutoSupport Remote Diagnostics feature is enabled on this storage array.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

## ストレージアレイを設定してキャッシュミラーデータアシュアランスチェックを有効または無効にする - SANtricity CLI

set storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnableコマンドを使用すると、キャッシュミラーのData Assuranceチェックを有効または無効にできます。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

### 構文

```
set storageArray cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable=(TRUE | FALSE)
```

### パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

8.41で、コマンドパラメータが新しくなりました。

## ストレージアレイコントローラのヘルスイメージの上書きを許可する設定 - SANtricity CLI

set storageArray controllerHealthImageAllowOverWriteコマンドは、コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージアレイで、新しいコントローラヘルスイメージによって既存のコントローラヘルスイメージが上書きされるようにするフラグをコントローラに設定します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイがコントローラヘルスイメージ機能をサポートしていない場合、コマンドはエラーを返します。



ファームウェア・バージョン8.20で'coreDumpAllowOverWrite'パラメータが'controllerHealthImageAllowOverWrite'パラメータに置き換えされました

## 構文

```
set storageArray controllerHealthImageAllowOverWrite
```

## パラメータ

なし

## 注：

コントローラヘルスイメージが取得されると、「allow overwrite」フラグが設定されます。コントローラヘルスイメージが取得されない場合、イメージは48時間で期限切れになり、その後「allow overwrite」フラグが設定されます。「set storageArray controllerHealthImageAllowOverWrite」コマンドを使用して「allow overwrite」フラグを設定すると、イメージが取得された場合と同様に、48時間の期限が適用されなくなります。

## 最小ファームウェアレベル

7.86

8.20で'\*coreDumpAllowOverWrite \*'パラメータが'controllerHealthImageAllowOverWrite'パラメータに置き換えられました

## ストレージアレイディレクトリサーバの役割マッピングを設定する - SANtricity CLI

set storageArray DirectoryServer rolesコマンドでは、指定したディレクトリサーバのロールマッピングを定義できます。ロールマッピングは、各種のSMcliコマンドを実行しようとするユーザを認証するために使用されます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 必要なもの

マッピングできるロールは次のとおりです。

- \* Storage admin --ストレージ・オブジェクト（ボリュームやディスク・プールなど）への読み取り/書き込みのフル・アクセス。セキュリティ構成へのアクセスはありません。
- \* Security admin --アクセス管理、証明書管理、監査ログ管理のセキュリティ構成へのアクセス、および従来の管理インターフェイス（SYMBOL）のオン/オフの切り替え機能。
- \* Support admin --ストレージアレイのすべてのハードウェアリソース、障害データ、MELイベント、およびコントローラファームウェアアップグレードへのアクセス。ストレージオブジェクトやセキュリティ設定にはアクセスできません。
- \*Monitor --すべてのストレージオブジェクトへの読み取り専用アクセスが可能ですが、セキュリティ設定へのアクセスはありません。

## 構文

```
set storageArray directoryServer [ "<em>domainId</em>" ]  
    groupDN="groupDistinguishedName"  
    roles=("<em>role1</em>"..."<em>roleN</em>")
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「DirectoryServer」を参照してください	ロールマッピングを設定するドメインをIDで指定できます。
「groupDN」	マッピングリストに追加するグループの識別名（DN）を指定できます。
「役割」	定義したグループ内のユーザに1つ以上のロールを指定できます。複数のロールを入力する場合は、値をスペースで区切ります。有効な選択肢は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 「storage.monitor」</li><li>• 「storage.admin」</li><li>• 「security.admin」と入力します</li><li>• 「support.admin」と入力します</li></ul>

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
    groupDN="CN=ng-hsg-bc-madridsecurity,OU=Managed,
    OU=MyCompanyGroups,DC=hq,DC=mycompany,DC=com"
    roles=("storage.monitor" "security.admin"
"storage.admin");"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
    groupDN="CN=ng-epg-engr-manageability,OU=Managed,
    OU=MyCompanyGroups,DC=hq,DC=mycompany,DC=com"
    roles=("support.admin");"

SMcli completed successfully.
```

## ストレージアレイディレクトリサーバーの設定 - SANtricity CLI

`set storageArray DirectoryServer``コマンドは、ディレクトリサーバの設定を更新します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

### 構文

```
set storageArray directoryServer ["domainId"]
(domainNames=("<em>domainName1</em>"..."<em>domainNameN</em>") |
 addDomainNames=("<em>domainName1</em>"..."<em>domainNameN</em>") |
 serverUrl="serverUrl" |
 bindAccount="username" bindPassword="password" |
 searchBaseDN="distinguishedName" |
 usernameAttribute="attributeName" |
 groupAttributes=("<em>attrName1</em>"..."<em>attrNameN</em>") |
 addGroupAttributes=("<em>attrName1</em>"..."<em>attrNameN</em>"))
[skipConfigurationTest={true | false}]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「DirectoryServer」を参照してください	設定を更新するドメインIDを指定できます。
「ドメイン名」	ディレクトリサーバに対して有効なドメイン名を1つ以上設定できます。複数の名前を入力する場合は、値をスペースで区切ります。この設定オプションを使用すると、既存のドメイン名が消去されます。
「addDomainNames」	ディレクトリサーバに対して有効なドメイン名を1つ以上追加できます。複数の名前を入力する場合は、値をスペースで区切ります。
「serverURL」	サーバのURLを指定できます。
bindAccount	バインドアカウントとして使用するユーザ名を指定できます。
bindPassword	バインドパスワードとして使用するパスワードを指定できます。
「SearchBaseDN」	グループメンバーシップを判断するためにLDAPユーザオブジェクトを検索する検索ベース識別名を指定できます。
「ユーザ名属性」	グループメンバーシップを判断するためのユーザオブジェクトの検索に使用する属性を指定できます。指定した場合'文字列には'ログイン時に使用されるユーザー名に置き換えられる変数'{uid}'を含める必要があります例:sAMAccountName={uid}'
「groupAttributes」を参照してください	グループの識別名の検索に使用するグループ属性を設定できます。識別名は、ロールマッピングのグループメンバーシップを判断するために使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li> 複数のグループを入力する場合は、値をスペースで区切ります。</li> <li> このパラメータを使用すると、既存のグループが消去されます。</li> </ul>

パラメータ	説明
「addGroupAttributes」を参照してください	グループの識別名の検索に使用するグループ属性を追加できます。識別名は、ロールマッピングの目的でグループメンバーシップを判断するために使用されます。
skipConfigurationTest	設定が保存される前に、設定テストをスキップできます。デフォルトは「false」です。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
serverUrl="ldaps://hqldap.eng.mycompany.com:636";"

SMcli -n Array1 -c "set storageArray directoryServer ["domain1"]
bindAccount="bindDN2" bindPassword="thePassword2"
searchBaseDN="OU=_Users,DC=hq,DC=mycompany,DC=com"
usernameAttribute="sAMAccountName"
groupAttributes=("memberOf");"

SMcli completed successfully.
```

## 外部キー管理設定の設定 - SANtricity CLI

set storageArray externalKeyManagementコマンドは、外部キー管理サーバのアドレスとポート番号を設定します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



このコマンドは、外部キー管理にのみ適用されます。

## 構文

```
set storageArray externalKeyManagement  
serverAddress=<em>serverAddress</em>  
serverPort=<em>portNumber</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「serverAddress」と入力します	外部キー管理サーバのアドレスを指定できます。サーバアドレスは、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスのいずれかで指定できます。
「サーバポート」	外部キー管理サーバのポート番号を指定できます。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray externalKeyManagement  
serverAddress=192.0.2.1 serverPort=8081;"  
  
SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

## ホスト接続レポートの有効化または無効化 - SANtricity CLI

set storageArray hostConnectivityReporting'コマンドは、コントローラでホスト接続レポートを有効または無効にします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray hostConnectivityReporting (enable | disable)
```

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイでホスト接続レポートを有効にすると、ストレージアレイでは、ストレージアレイのコントローラと設定されているホストの間の接続が引き続き監視され、ケーブルの緩み、損傷、欠落またはホストに関するその他の問題によって接続が中断された場合にアラートが表示されます。ストレージアレイでホストタイプが正しく指定されていない場合（フェイルオーバーで問題が発生する可能性があります）も通知されます。

- i ホスト接続レポートを無効にするには、まず自動ロードバランシングを無効にする必要があります。
- i 自動ロードバランシングが無効な場合も、ホスト接続レポートは有効にしておくことができます。
- i ホスト接続レポートおよび自動ロードバランシングは、Linux DHALUA、Windows / Windows クラスタ、およびVMwareの各ホストタイプでのみ機能します。

## パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

8.42新しいコマンドパラメータ。

## ストレージアレイのICMP応答を設定する - SANtricity CLI

set storageArray icmpPingResponse'コマンドは'セッションと接続のネゴシエーション可能な設定のデフォルト値を返しますこのデフォルト値は'ストレージ・アレイのネゴシエーション開始点を表します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray icmpPingResponse=(TRUE | FALSE)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「icmpPingResponse」	このパラメータは、エコー要求メッセージをオンまたはオフにします。エコー要求メッセージをオンにするには、パラメータを「true」に設定します。エコー要求メッセージをオフにするには、パラメータをFALSEに設定します。

## 注：

Internet Control Message Protocol (ICMP) は、ネットワーク内のオペレーティングシステムが、要求されたサービスを使用できない、ホストまたはルータにアクセスできないなど、IPに関連するエラーメッセージ、テストパケット、および情報メッセージを送信するために使用されます。ICMP応答コマンドは、ICMPエコー要求メッセージを送信し、ICMPエコー応答メッセージを受信して、ホストに到達できるかどうか、およびそのホストとのパケットの送受信にかかる時間を判断します。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

## ストレージアレイの iSNS サーバーの IPv4 アドレスを設定する - SANtricity CLI

set storageArray isIPv4ConfigurationMethodコマンドは、IPv4 Internet Storage Name Service (iSNS) の設定方法とアドレスを設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray isnsIPv4ConfigurationMethod=(static | dhcp)
isnsIPv4Address=<em>ipAddress</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「isnsIPv4ConfigurationMethod」を参照してください	iSNSサーバ設定を定義する方法。IPv4 iSNSサーバのIPアドレスを入力するには'static'を選択しますIPv4の場合'dhcp'と入力することにより'Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)サーバがiSNSサーバのIPアドレスを選択するように選択できますDHCPを有効にするには'isnsIPv4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります
「isnsIPv4Address」と入力します	iSNSサーバに使用するIPアドレス。このパラメータは、IPv4設定の「static」値とともに使用します。DHCPサーバでIPv4インターネットiSNSサーバのIPアドレスを設定する場合は'isnsIPv4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります

## 注：

iSNSプロトコルは、TCP / IPネットワーク上のiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの自動検出、管理、および設定を支援します。iSNSは、Fibre Channelネットワークと同等のインテリジェントなストレージ検出/管理サービスを提供します。これにより、ストレージエリアネットワークとほぼ同じ容量で機能する汎用IPネットワークが実現します。また、iSNSは、Fibre ChannelファブリックサービスをエミュレートしてiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの両方を管理する機能によって、IPネットワークとFibre Channelネットワークのシームレスな統合を支援します。

DHCPサーバは、ネットワークアドレスなどの設定パラメータをIPノードに渡します。クライアントは、必要なすべてのIP設定パラメータをDHCPから取得できます。再利用可能なネットワークアドレスを自動的に割り当てることができます。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

## ストレージアレイの iSNS サーバの IPv6 アドレスを設定する - SANtricity CLI

set storageArray isnsIPv6Addressコマンドは、iSNSサーバのIPv6アドレスを設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800

、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray isnsIPv6Address=<em>ipAddress</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「isnsIPv6Address」	iSNSサーバに使用するIPv6アドレス。

## 注：

iSNSプロトコルは、TCP / IPネットワーク上のiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの自動検出、管理、および設定を支援します。iSNSは、Fibre Channelネットワークと同等のインテリジェントなストレージ検出/管理サービスを提供します。これにより、ストレージエリアネットワークとほぼ同じ容量で機能する汎用IPネットワークが実現します。また、iSNSは、Fibre ChannelファブリックサービスをエミュレートしてiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの両方を管理する機能によって、IPネットワークとFibre Channelネットワークのシームレスな統合を支援します。iSNSは、iSCSIデバイス、Fibre Channelデバイス、またはその組み合わせで構成されるストレージネットワークで価値を発揮します。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

# ストレージアレイの iSNS サーバーのリスニングポートを設定する - SANtricity CLI

set storageArray isnsListeningPortコマンドは、iSNSサーバのリスニングポートを設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray isnsListeningPort=<em>listeningPortIPAddress</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「isnsListeningPort」	<p>iSNSサーバのリスニングポートに使用するIPアドレス。リスニング・ポートの値の範囲は'49152'～65535ですデフォルト値は「53205」です。</p> <p>リスニングポートはサーバ上で次のアクティビティを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>受信するクライアント接続要求を監視します</li><li>サーバへのトラフィックを管理します</li></ul> <p>クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。</p>

## 注：

リスニングポートはデータベースサーバ上で次のアクティビティを実行します。

- 受信するクライアント接続要求をリスン（監視）しています
- サーバへのトラフィックの管理

クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

## ストレージアレイの iSNS 登録を設定する - SANtricity CLI

set storageArray isnsRegistrationコマンドを使用するとIPv4またはIPv6のInternet Storage Name Service (iSNS) サーバのいずれかにストレージ・アレイを一覧表示できます

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## IPv4の構文

```
set storageArray isnsRegistration=(TRUE | FALSE)
isnsIPv4ConfigurationMethod=[static | dhcp]
isnsIPv4Address=<em>ipAddress</em>
[isnsListeningPort]
```

## IPv6の構文

```
set storageArray isnsRegistration=(TRUE | FALSE)
isnsIPv6Address=<em>ipAddress</em>
[isnsListeningPort]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「isnsRegistration」	<p>iSNSサーバにiSCSIターゲットを登録するかどうか。iSCSIターゲットを一覧表示するには'パラメータをTRUEに設定します</p> <p>このパラメータを「true」に設定した場合、IPv4設定にも次のパラメータを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「isnsIPv4ConfigurationMethod」</li> <li>・ 「isnsIPv4Address」と入力します</li> </ul> <p>このパラメータを「true」に設定した場合、IPv6設定にも次のパラメータを使用する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「isnsIPv6Address」</li> </ul> <p>オプションで'isnsListeningPort'パラメータを使用してポートモニタを定義しサーバへのトラフィックを管理することもできます</p> <p>iSNSサーバからストレージアレイの登録を削除するには、このパラメータをFALSEに設定します。</p>
「isnsIPv4ConfigurationMethod」を参照してください	iSNSサーバ設定を定義する方法。IPv4 iSNSサーバのIPアドレスを入力するには'static'を選択しますIPv4の場合'dhcp'と入力することにより'Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)サーバがiSNSサーバのIPアドレスを選択するように選択できますDHCPを有効にするには'isnsIPv4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります
「isnsIPv4Address」と入力します	iSNSサーバへの接続に使用するIPv4アドレス。このパラメータは、IPv4設定の「static」値とともに使用します。DHCPサーバでIPv4インターネットiSNSサーバのIPアドレスを設定する場合は'isnsIPv4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります
「isnsIPv6Address」	iSNSサーバへの接続に使用するIPv6アドレス。

パラメータ	説明
「isnsListeningPort」	<p>iSNSサーバのリスニングポートに使用するポート番号。リスニング・ポートの値の範囲は'49152'～65535ですデフォルト値は「3205」です。</p> <p>リスニングポートはサーバ上で次のアクティビティを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受信するクライアント接続要求を監視します</li> <li>サーバへのトラフィックを管理します</li> </ul> <p>クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。</p>

## 注：

iSNSプロトコルは、TCP / IPネットワーク上のiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの自動検出、管理、および設定を支援します。iSNSは、Fibre Channelネットワークと同等のインテリジェントなストレージ検出/管理サービスを提供します。これにより、ストレージエリアネットワークとほぼ同じ容量で機能する汎用IPネットワークが実現します。また、iSNSは、Fibre ChannelファブリックサービスをエミュレートしてiSCSIデバイスとFibre Channelデバイスの両方を管理する機能によって、IPネットワークとFibre Channelネットワークのシームレスな統合を支援します。

DHCPサーバは、ネットワークアドレスなどの設定パラメータをIPノードに渡します。クライアントは、必要なすべてのIP設定パラメータをDHCPから取得できます。再利用可能なネットワークアドレスを自動的に割り当てることができます。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

## ストレージアレイの iSNS サーバーの更新を設定する - SANtricity CLI

set storageArray isnsServerRefreshコマンドは、iSNSサーバのネットワークアドレス情報を更新します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

このコマンドはIPv4に対してのみ有効です。

## 構文

```
set storageArray isnsServerRefresh
```

## パラメータ

なし

## 注：

DHCPサーバがフル機能で動作していない場合やDHCPサーバが応答しない場合は、更新処理に2~3分かかることがあります。

設定方法をDHCPに設定していない場合は、「set storageArray isnsServerRefresh」コマンドによってエラーが返されます。設定方法をDHCPに設定するには、「set storageArray isnsIPV4ConfigurationMethod」コマンドを使用します。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

## ストレージアレイコントローラのバッテリ学習サイクルを設定する - SANtricity CLI

set storageArray learnCycleDate controllerコマンドは、コントローラのバッテリ学習サイクルを設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされいれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

- ① ストレージアレイの各コントローラに別々の学習サイクルを設定するには、両方のコントローラにこのコマンドを送信します。
- ① 学習サイクルはリンクされないため、一方のコントローラのバッテリ学習サイクルが中断しても、もう一方のコントローラのバッテリ学習サイクルには影響しません。
- ① 学習サイクルの完了には数時間かかることがあります。

## 構文

```
set storageArray learnCycleDate (controller[(a| b)] )  
(daysToNextLearnCycle=<em>numberOfDays</em> |  
day=<em>dayOfTheWeek</em>) time=<em>HH:MM</em>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「* controller *」と入力します	<p>バッテリ学習サイクルを指定するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですコントローラの識別子は角かっこ（[]）で囲みます。コントローラを指定しないと、コントローラファームウェアから構文エラーが返されます。</p> <p>① このパラメータを省略すると、デュアルコントローラアレイの両方のコントローラのバッテリ学習サイクルが設定されます。</p>
「daysToNextLearnCycle」	有効な値は'0'~'7'ですここで'0'はすぐに'7'は7日以内です「daysToNextLearnCycle」パラメータは、次の学習サイクルのあと7日以内に実行されます。
日	'day'パラメータの有効な値は曜日です('Sunday', 'Monday', 'Tuesday', 'Wednesday', 'Thursday', 'Friday', and 'Saturday')。曜日を設定すると、現在スケジュールされている学習サイクルのあと、指定した曜日に次の学習サイクルがスケジュールされます。

パラメータ	説明
「time」	24時間形式の時刻。たとえば、午前8：00などです「08：00」と入力します。午後9時「21：00」と入力し、午後9：30と入力します「21：30」と入力します。

## 例

```
set storageArray learnCycleDate controller [a] daysToNextLearnCycle=4
time=08:30;
```

## 注：

学習サイクルは、7日間に1回だけ実行されるように設定できます。

'time'パラメータは'学習サイクルを実行する特定の時刻を選択します値を入力しない場合、コマンドはデフォルト値の「00：00」（深夜0時）を使用します。

指定した日時が過去の場合、次の学習サイクルは指定した次の曜日に実行されます。

## 最小ファームウェアレベル

7.15

8.30で'controller'パラメータが追加されました

## ストレージアレイのローカルユーザー/パスワードまたはSYMBOLパスワードを設定する - SANtricity CLI

set storageArray localUsernameコマンドとset storageArray symbolコマンドを使用すると、特定のロールにローカルユーザ名/パスワードまたはSYMBOLパスワードを設定できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Admin、Support Admin、Security Admin、またはStorage Monitorロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray (localUsername={<em>admin</em> | <em>storage</em> |
<em>security</em> | <em>support</em> | <em>monitor</em>}
| symbol [userRole={admin | monitor}])
password="string" adminPassword="string"
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「localUsername」と入力します	パスワードを変更するユーザを指定できます。有効な選択肢は、「admin」、「storage」、「support」、「monitor」、「security」です。
「symbol」	SYMBOL/パスワードを変更できます。有効な選択肢は「admin」と「monitor」です。  ○ これは、非推奨の「set storageArray password'コマンドに代わるコマンドです。
「password」と入力します	ロールのパスワードを指定できます。
「adminPassword」のように入力します	adminパスワードを指定できます。adminパスワードは新しいパスワードを設定する際に必要です。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray localUsername=storage
password="newPassword" adminPassword="theAdminPassword";"
SMcli -n Array1 -c "set storageArray localUsername=admin
password="newAdminPassword" adminPassword="theAdminPassword";"
SMcli -n Array1 -c "set storageArray symbol userRole=admin
password="newSymbolPassword" adminPassword="theAdminPassword";"

SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40で、コマンドが追加されました。

# ストレージアレイのログインbannerを設定する - SANtricity CLI

`set storageArray loginBanner` コマンドを使用すると'ログインbannerとして使用するテキスト・ファイルをアップロードできますバナーテキストはユーザがSANtricity System Managerでセッションを確立する前またはコマンドを実行する前に表示されるもので、注意と同意を求めるメッセージを含めることができます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray loginBanner file="path_to_login_banner"
```

## コンテキスト (Context)

テキストファイルをロードすると、ファイルがストレージアレイに保存されます。バナーテキストは、SANtricity System Managerのログイン画面の前またはコマンドを実行する前に表示されます。

## パラメータ

パラメータ	説明
'file'	ログインbannerのテキストファイルが格納されているファイルパスとファイル名。   ログインバナーファイルは空にできません。また、サイズは5KB以下である必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

8.41

# ストレージアレイ管理インターフェースの設定 - SANtricity CLI

`set storageArray ManagementInterface` コマンドは、コントローラの管理インターフェイスを変更します。ストレージアレイとその管理ソフトウェア間の機密性を確保したり、

外部ツールにアクセスしたりするには、管理インターフェイスのタイプを変更します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray managementInterface restOnly={true | false}
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「リストア専用」	trueに設定するとRESTfulインターフェイスのみが使用可能な管理インターフェイスになりますこのインターフェイスでは、ストレージアレイと管理ソフトウェアの間の接続が暗号化されます。  falseに設定するとストレージ・アレイと管理ソフトウェア間の従来のインターフェースが許可されますこのインターフェイスは暗号化されません。  従来の管理インターフェイス（SANtricity SMI-SプロトコルやOnCommand Insight（OCI）など）と直接通信するツールには、「restOnly」パラメータを「false」に設定しないかぎり機能しません。詳細については、テクニカルサポートにお問い合わせください。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray managementInterface restOnly=true;"  
  
SMcli completed successfully.
```

## ODX を有効化または無効化する - SANtricity CLI

set storageArray odxEnabledコマンドは、ストレージアレイのオフロードデータ転送

(ODX) をオンまたはオフにします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイではもともとODXがオンになっています。ODXを実行しない場合や、ODXが原因でストレージアレイに問題が発生している場合は、このコマンドを使用してODXをオフにします。影響を受けるストレージアレイは、コマンドの実行元のストレージアレイのみです。

## 構文

```
set storageArray odxEnabled=(TRUE | FALSE)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「odxEnabled」	ODXをオンまたはオフにするための設定。ODXをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。ODXをオフにするには、このパラメータをFALSEに設定します。デフォルト設定では、ODXはオンになっています。

## 注：

ODXを使用すると、バッファ読み取りとバッファ書き込みの処理を使用せずにデータを転送できます。データ転送処理にホストが直接関与する必要はありません。ODXが有効にならない場合、ソースストレージからホストにデータが読み取られ、ホストからターゲットストレージに書き込まれます。ODXが有効な場合は、データ転送処理はストレージインフラによって直接管理されます。データはホストを経由せずに、ソースストレージからターゲットストレージに直接移動されます。

## 最小ファームウェアレベル

8.20で

# ストレージアレイのパスワードの長さを設定する - SANtricity CLI

set storageArray passwordLengthコマンドを使用すると、adminユーザはストレージアレイのすべての新規または更新されたパスワードに最小長を設定できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray passwordLength=<INTEGER>
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「パスワードの長さ」	すべての新規または更新されたパスワードの最小文字数を設定できます。
「整数」	すべての新規または更新されたパスワードに最低限必要な文字数を0~30で設定できます。

## 例

```
SMcli <array_ip> -u <username> -p <password> -c "set storageArray  
passwordLength=0;"  
  
SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.41で、コマンドが追加されました。

# 再構築時にストレージアレイのPQ検証を設定する - SANtricity CLI

set storageArray pqValidateOnReconstructコマンドは、再構築時のストレージアレイのP/Q検証状態を設定します。この機能を有効にすると、データ+Pとデータ+Qの両方を使用してデータが再構築され、再構築結果の整合性がチェックされたうえで、続行方法が決定されます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

この機能には、環境ディスクプールと、デュアルパリティを備えたRAID 6ボリュームグループがあります。この場合、1本のドライブで障害が発生してもボリュームグループまたはディスクプールでの冗長性が確保されるため、再構築時にデータとパリティの整合性をチェックすることができます。再構築時に不整合が検出された場合、ボリュームでData Assuranceが有効になっていれば、不整合の発生源を特定し、残りのドライブを使用してデータを再構築することができます。この機能が有効で、ボリュームでData Assuranceが有効にならない場合、あるいは不整合が複数のドライブにまたがる場合、再構築されるブロックは読み取り不能とマークされます。

SSDドライブでは検証によって再構築時間が長くなる可能性があるため、この機能はメディアタイプに応じて有効または無効にすることができます。特定のメディアタイプに対してこの機能を有効にすると、そのメディアタイプを使用するすべてのプールおよびRAID 6ボリュームグループに適用されます。

## 構文

```
set storageArray pqValidateOnReconstruct (enable | disable)
driveMediaType=(hdd | ssd | allMedia)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
pqValidateOnReconstruct`	再構築時のP/Q検証を変更します。
「enable」または「disable」	再構築時のP/Q検証を有効または無効にします。

パラメータ	説明
driveMediaType	<p>再構築時のP/Q検証を設定するドライブメディアタイプ。次のドライブメディアタイプがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「hdd」は、ハードディスクドライブの検証状態を設定することを示します</li> <li>「ssd」は、ソリッド・ステート・ディスク上で検証状態を設定することを示します</li> <li>allMediaはストレージ・アレイ内のすべてのメディアに対して検証状態を設定することを示します</li> </ul>

## ドライブメディアタイプにハードディスクドライブを指定する例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray pqValidateOnReconstruct enable
driveMediaType=hdd;"

SMcli completed successfully.
```

## ドライブメディアタイプにソリッドステートドライブを指定する例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray pqValidateOnReconstruct disable
driveMediaType=ssd;"

SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.42

## ストレージアレイの冗長モードを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray redundancyModeコマンドはストレージ・アレイの冗長モードをシンプルレックスまたはデュプレックスに設定します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray redundancyMode=(simplex | duplex)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「冗長性モード」	コントローラが1台しかない場合は' simplex' モードを使用します。コントローラが2台ある場合は、「 duplex」 モードを使用します。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

## ストレージアレイリソースのプロビジョニングされたボリュームを設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray resourceProvisionedVolumes コマンドは'DULBE機能を無効にします

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、EF600およびEF300アレイを含むすべてのストレージアレイを環境します。

## ロール

このコマンドをEF600およびEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

リソースプロビジョニングは、大容量のボリュームを迅速に初期化するための機能です。

リソースプロビジョニングボリュームは、SSDボリュームグループまたはプール内のシックボリュームです。ボリュームの作成時にドライブ容量が割り当てられます（ボリュームに割り当てられます）、ドライブブロックの割り当てが解除されます（マッピングが解除されます）。リソースプロビジョニングボリュームでは、時間制限付きのバックグラウンド初期化は実行されません。代わりに、各RAIDストライプは、ストライプ内のボリュームブロックへの最初の書き込み時に初期化されます

リソースプロビジョニングボリュームはSSDボリュームグループおよびプールでのみサポートされます。グル

ープまたはプール内のすべてのドライブでNVMe Deallocated or Unwritten Logical Block Error Enable (DULBE) エラーリカバリ機能がサポートされます。リソースでプロビジョニングされたボリュームを作成すると、そのボリュームに割り当てられていたすべてのドライブブロックが割り当て解除（マッピング解除）されます。ブロックの割り当てを解除すると、SSDの消耗度が改善され、書き込みパフォーマンスが最大化されます。向上率はドライブのモデルと容量によって異なります。

## 構文

```
set storageArray resourceProvisionedVolumes=(enable|disable)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
resourceProvisionedVolumes	<p>リソースプロビジョニング機能が有効かどうかを指定する設定。リソースのプロビジョニングを無効にするにはこのパラメータを disable に設定しますデフォルト値は「enable」です。</p> <p> この値を変更するのは、今後作成される環境 ボリュームグループおよびプールだけです。既存のボリュームグループやプールの値は変更されません。</p>

## 最小ファームウェアレベル

8.63

## 証明書失効チェック設定の設定 - SANtricity CLI

set storageArray revocationCheckSettingsコマンドを使用すると、失効チェックを有効または無効にしたり、Online Certificate Status Protocol (OCSP) サーバを設定したりできます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

OCSPサーバは、スケジュールされた有効期限よりも前に認証局（CA）によって取り消された証明書がないかどうかをチェックします。CAによる証明書の発行に問題がある場合や、秘密鍵が侵害された場合は、失効チェックを有効にすることができます。



OCSPサーバの完全修飾ドメイン名を使用できるようにするために、両方のコントローラにDNSサーバが設定されていることを確認してください。

失効チェックを有効にすると、ストレージアレイは失効した証明書を使用したサーバへの接続を拒否します。

## 構文

```
set storageArray revocationCheckSettings ([revocationCheckEnable =  
boolean] &| [ocspResponderUrl=stringLiteral])
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「revocationCheckEnable」と入力します	証明書失効チェックを有効にするには'true'に設定します
「ocspResponderUrl」	証明書失効チェックに使用するOCSPレスポンダサーバのURL。  OCSPレスポンダアドレスを指定すると、証明書ファイル内のOCSPアドレスが指定したアドレスで上書きされます。

## 最小ファームウェアレベル

8.42

## 内部ストレージアレイのセキュリティキーを設定する - SANtricity CLI

set storageArray securityKeyコマンドは、ドライブセキュリティ機能を実装するためにストレージアレイ全体で使用されるセキュリティキーを設定します。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイ内のセキュリティ対応ドライブをセキュリティ保護されたボリュームグループまたはディスクプールに割り当てると、そのドライブはセキュリティキーを使用してセキュリティ有効ドライブになります。セキュリティキーを設定する前に、「create storageArray securityKey」コマンドを使用してセキュリティキーを作成する必要があります。



このコマンドは、内部キー管理にのみ適用されます。

## 構文

```
set storageArray securityKey
```

## パラメータ

なし

## 注：

セキュリティ対応ドライブには暗号化処理を高速化するハードウェアが搭載されており、それに固有のドライブキーがあります。セキュリティ対応ドライブは、セキュリティ保護されたボリュームグループに追加されるまで他のドライブと同じように動作し、追加された時点でセキュリティ有効ドライブになります。

セキュリティ有効ドライブは、電源がオンになるたびにコントローラから正しいセキュリティキーを取得する必要があります。取得するまではデータの読み取りや書き込みを実行できません。つまり、セキュリティ有効ドライブは2つのキーを使用します。1つはデータの暗号化と復号化を行うドライブキー、もう1つは暗号化プロセスと復号化プロセスを許可するセキュリティキーです。set storageArray securityKeyコマンドはストレージ・アレイ内のすべてのコントローラとセキュリティ対応ドライブにセキュリティ・キーをコミットしますFull Disk Encryption機能により、セキュリティ有効ドライブがストレージアレイから物理的に取り外された場合、セキュリティキーがわからないかぎりそのドライブのデータを他のデバイスから読み取ることはできません。

## 最小ファームウェアレベル

7.50

## ストレージアレイのSyslog構成の更新 - SANtricity CLI

set storageArray syslog'コマンドを使用すると、syslogサーバのアドレス、プロトコル、またはポート番号を変更できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray syslog id=<id>
serverAddress=<address>
port=<port> protocol=("udp" | "tcp" | "tls")
components=(componentName=("auditLog") ...)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「serverAddress」と入力します	syslog受信側のホスト名またはIPアドレス。
「PORT」	syslog受信側のポート番号。
「プロトコル」	syslogの転送プロトコル。指定できる値はUDP、TCP、またはTLSです。
「コンポーネント」	syslogサーバに記録されるコンポーネントエントリのリスト。現時点では、監査ログのみがサポートされています。
「componentName」	コンポーネント名。現時点では「auditLog」のみがサポートされています。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set storageArray syslog
id=\"331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e\""
serverAddress=\"192.168.2.1\" port=514 protocol=\"udp\"
components=(componentName=\"auditLog\");"
ID: 331998fe-3154-4489-b773-b0bb60c6b48e Server Address: 192.168.2.1
Port: 514 Protocol: udp
Components
1. Component Name: auditLog
SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.42

## ストレージアレイの時間を設定する - **SANtricity CLI**

set storageArray timeコマンドは、コントローラのクロックをこのコマンドを実行するホストのクロックと同期することによって、ストレージアレイ内の両方のコントローラのクロックを設定します。

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
set storageArray time
```

## パラメータ

なし

## 最小ファームウェアレベル

6.10

# ストレージアレイトレイの位置を設定する - SANtricity CLI

set storageArray trayPositionsコマンドは、ストレージアレイ内のトレイの位置を定義します。このコマンドには、ストレージアレイ内のすべてのトレイを含める必要があります。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## 構文

```
set storageArray trayPositions=(controller | <em>trayID</em> ...  
<em>trayIDn</em>)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「トレイポジション」	すべてのトレイIDのリスト。リストでのトレイIDの順序によって、ストレージアレイ内のコントローラトレイとドライブトレイの位置が定義されます。有効な値は「0」～「99」です。トレイIDの値はスペースで区切って入力します。トレイID値のリストは丸かっこで囲みます。コントローラトレイに有効なトレイ位置の範囲外の識別子が定義されているストレージアレイの場合は' controller値を使用します

## 注：

このコマンドでは、トレイIDの「trayPositions」リスト内の位置によって、ストレージアレイ内のトレイの位置を定義します。たとえば、IDが84のコントローラトレイとIDが1、12のドライブトレイがある場合、そして50、「trayPositions」シーケンス(84 1 12 50)は、コントローラトレイを1番目の位置に、ドライブトレイ1を2番目の位置に、ドライブトレイ12を3番目の位置に、ドライブトレイ50を4番目の位置にそれぞれ配置します。trayPositionsシーケンス(1 84 50 12)は'コントローラトレイを2番目の位置に'ドライブトレイ1を1番目の位置に'ドライブトレイ50を3番目の位置に'ドライブトレイ12を4番目の位置に配置します



ストレージアレイ内のすべてのトレイは、trayPositionsパラメータで定義されているリストに含める必要があります。リストのトレイ数がストレージアレイのトレイの総数と一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。



管理ソフトウェアでは、最初の位置が上に、以降の位置が下から順に表示されます。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

6.14と6.16では'controller'は有効な値ではありません

## ストレージアレイの名前なし検出セッションを設定する - SANtricity CLI

`set storageArray unnamedDiscoverySession`'コマンドを使用すると'ストレージアレイは名前のない検出セッションに参加できます

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### 構文

```
set storageArray unnamedDiscoverySession=(TRUE | FALSE)
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「unnamedDiscoverySession」	このパラメータは、名前のない検出セッションをオンまたはオフにします。名前のない検出セッションをオンにするには、パラメータを「true」に設定します。名前のない検出セッションをオフにするにはパラメータをFALSEに設定します

### 注：

検出は、イニシエータが使用可能なターゲットを判別するプロセスです。検出は、電源投入/初期化時に実行されます。また、バストポロジが変更された場合（追加デバイスが追加された場合など）も実行されます。

名前のない検出セッションは、ログイン要求でターゲットIDを指定せずに確立される検出セッションです。名前のない検出セッションでは、ターゲットのターゲットIDもターゲットポータルグループIDも使用できません。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

# ストレージアレイのユーザーセッションの設定 - SANtricity CLI

set storageArray userSession'コマンドを使用すると、System Managerでタイムアウトを設定して、非アクティブなユーザセッションを指定した時間が経過すると切断することができます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Security Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

次のいずれかの処理を実行するには、このコマンドを使用します。

- ユーザセッションのタイムアウトを秒単位で設定します。最小タイムアウト値は900秒（15分）です。
- 0に設定して、セッションタイムアウトをオフにします。

## パラメータ

なし

## 構文

```
set storageArray userSession sessionTimeout=n
```

## 最小ファームウェアレベル

8.41

# VAAI を有効化または無効化する - SANtricity CLI

set storageArray vaaiEnabledコマンドは、ストレージアレイのVMware vStorage API Array Architecture (VAAI) をオンまたはオフにします。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイでは最初からVAAIがオンになっています。VAAIを実行しない場合や、VAAIが原因でストレージアレイに問題が発生している場合は、このコマンドを使用してVAAIをオフにします。影響を受けるストレージアレイは、コマンドの実行元のストレージアレイのみです。

## 構文

```
set storageArray vaaiEnabled=(TRUE | FALSE)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「vaaiEnabled」	VAAIをオンまたはオフにするための設定。VAAIをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。VAAIをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。デフォルト設定では、VAAIはオンになっています。

## 注：



VAAIを使用すると、一部のストレージタスクがサーバハードウェアからストレージアレイにオフロードされます。ストレージタスクをストレージアレイにオフロードすると、ホストで実行する必要のあるタスクが削減されるため、ホストのパフォーマンスが向上します。



「show storageArray odxSetting」名を使用してVAAI設定を表示します。

## 最小ファームウェアレベル

8.20で

## ストレージアレイの設定 - SANtricity CLI

set storageArrayコマンドはストレージ・アレイのプロパティを定義します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）



ファームウェア・バージョン8.10で'cacheFlushStop'パラメータが廃止されましたストレージ管理ソフトウェアの今後のリリースで削除される予定です

## 構文

```

set storageArray
([autoLoadBalancingEnable=(TRUE | FALSE)] |
[autoSupportMaintenanceWindow AutoSupport Maintenance Window parameters] |
[autoSupport schedule AutoSupport Schedule Parameters] |
[autoSupportConfig (enable | disable)] |
[autoSupportOnDemand (enable | disable)] |
[autoSupportRemoteDiag (enable | disable)] |
[cacheBlockSize=cacheBlockSizeValue] |
[cacheFlushStart=cacheFlushStartSize] |
[cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable=(TRUE | FALSE)] |
[controllerHealthImageAllowOverWrite] |
[defaultHostType=("hostTypeName" | "hostTypeIdentifier")] |
[directoryServer directory server parameters] |
[externalKeyManagement external key management parameters] |
[failoverAlertDelay=delayValue] |
[hostConnectivityReporting (enable | disable)] |
[icmpPingResponse=(TRUE | FALSE)] |
[isnsIPv4ConfigurationMethod isns IPv4 Config Method Parameters] |
[isnsIPv6Address=ipAddress] |
[isnsListeningPort=listeningPortIPAddress] |
[isnsRegistration=(TRUE | FALSE)] |
[learnCycleDate learn cycle parameters] |
[localUsername=local user name parameters] |
[loginBanner file="path_to_login_banner"] |
[managementInterface restOnly={true | false}] |
[mediaScanRate=(disabled | 1-210)] |
[odxEEnabled=(TRUE | FALSE)] |
[password="password"] |
[passwordLength=<INTEGER>] |
[pqValidateOnReconstruct P/Q Validate on Reconstruct parameters] |
[redundancyMode=(simplex | duplex)] |
[revocationCheckSettings revocation check settings parameters] |
[securityKey] |
[symbol SYMbol user name and password parameters] |
[syslog syslog parameters] |
[time] |
[trayPositions=(controller | trayID ... trayIDn)] |
[unnamedDiscoverySession=(TRUE | FALSE)] |
[userLabel="storageArrayName"] |
[userSession sessionTimeout=n] |
[vaaEnabled=(TRUE | FALSE)])

```

## パラメータ

パラメータ	説明
autoLoadBalancingEnable	<p>このパラメータは、コントローラの自動ロードバランシングを有効にします。オプションを有効にするには'このパラメータをTRUEに設定しますこのオプションを無効にするには'このパラメータをFALSEに設定します</p> <p> 自動ロードバランシング機能を有効にすると、ホスト接続レポート機能も有効になります。</p>
AutoSupport スケジュール	AutoSupport メッセージを送信する毎日の時間帯および毎週の時間帯と曜日を設定します。
'autoSupportConfig'	<p>ファームウェアで重大なMELイベントが検出されたびにサポートデータを自動収集するかどうかの設定。このパラメータには次の値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>enable --サポートデータの収集をオンにします</li> <li>disable --サポートデータの収集をオフにします</li> </ul> <p>このパラメータは、次の場合にのみ使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストレージアレイでAutoSupport (ASUP) 機能を使用できません</li> <li>以前にこのパラメータを使用していたストレージアレイの設定をサポートするため</li> </ul> <p> このパラメータはASUPコマンドと一緒に使用することはできません。</p>
「autoSupportMaintenanceWindow」	AutoSupport メンテナンス期間をオンまたはオフにし、設定します。
「cacheBlockSize」	コントローラがキャッシュの管理に使用するキャッシュブロックサイズ。有効な値は'4'(4KB)'8'(8KB)'16'(16KB)'または32'(32KB)です
cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable`	このパラメータは、コントローラでのキャッシュミラーData Assuranceチェックを有効にします。オプションを有効にするには'このパラメータをTRUEに設定しますこのオプションを無効にするには'このパラメータをFALSEに設定します

パラメータ	説明
「cacheFlushStart」を参照してください	キャッシング内の書き込み前のデータがこの割合に達すると、キャッシングフラッシュが発生します。0から100までの整数値を使用してパーセンテージを定義します。デフォルト値は'80'です
「cacheFlushStop」	<span style="color: blue; border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px 5px;">i</span> このパラメータは廃止予定で、今後のリリースで削除される予定です。  キャッシュ内の書き込み前のデータがこの割合まで下がると、キャッシングフラッシュが停止します。0から100までの整数値を使用してパーセンテージを定義します。この値は'cacheFlushStart'パラメータの値より小さくする必要があります
controllerHealthImageAllowOverWrite	コントローラヘルスイメージ機能をサポートするストレージアレイで、新しいコントローラヘルスイメージによる既存のコントローラヘルスイメージの上書きを許可するフラグをコントローラに設定します。
defaultHostType	コントローラが接続されている未設定のホストポートに割り当てられるデフォルトのホストタイプ。ストレージアレイの有効なホストタイプのリストを生成するには、「show storageArray hostTypeTable」コマンドを実行します。ホストタイプは名前または数値で識別されます。ホストタイプ名は二重引用符 ("") で囲みます。ホストタイプが数値IDの場合、二重引用符で囲まないでください。
「DirectoryServer」を参照してください	ロールマッピングを含むディレクトリサーバ設定を更新します。
「externalKeyManagement」と入力します	外部キー管理サーバのアドレスとポート番号を設定します
FailoverAlertDelay	フェイルオーバーアラートの遅延時間（分単位）。遅延時間の有効値は0~60分です。デフォルト値は「5」です。

パラメータ	説明
「hostConnectivityReporting」のように入力します	<p>このパラメータは、コントローラのホスト接続レポートを有効にします。オプションを有効にするには、このパラメータをenableに設定します。オプションを無効にするには、このパラメータをdisableに設定します。</p> <p> 自動ロードバランシングが有効なときにホスト接続レポートを無効にしようとすると、エラーが発生します。自動ロードバランシング機能を無効にしてから、ホスト接続レポート機能を無効にしてください。</p> <p> 自動ロードバランシングが無効な場合も、ホスト接続レポートは有効にしておくことができます。</p>
「icmpPingResponse」	このパラメータは、エコー要求メッセージをオンまたはオフにします。エコー要求メッセージをオンにするには、パラメータを「true」に設定します。エコー要求メッセージをオフにするには、パラメータをFALSEに設定します。
「isnsIPv4ConfigurationMethod」を参照してください	iSNSサーバ設定を定義する方法。IPv4 iSNSサーバのIPアドレスを入力するには'static'を選択します。IPv4の場合'dhcp'と入力することにより'Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)サーバがiSNSサーバのIPアドレスを選択するように選択できます。DHCPを有効にするには'isnsIPv4Address'パラメータを0.0.0.0に設定する必要があります。
「isnsIPv6Address」	iSNSサーバに使用するIPv6アドレス。

パラメータ	説明
「isnsListeningPort」	<p>iSNSサーバのリスニングポートに使用するIPアドレス。リスニング・ポートの値の範囲は'49152'～65535ですデフォルト値は「53205」です。</p> <p>リスニングポートはサーバ上で次のアクティビティを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受信するクライアント接続要求を監視します</li> <li>サーバへのトラフィックを管理します</li> </ul> <p>クライアントがサーバとのネットワークセッションを要求すると、リスナーが実際の要求を受信します。クライアントの情報がリスナーの情報と一致した場合は、リスナーがデータベースサーバへの接続を許可します。</p>
「isnsRegistration」	<p>このパラメータは、ストレージアレイをiSCSIターゲットとしてiSNSサーバに登録します。iSNSサーバにストレージ・アレイを登録するにはこのパラメータをTRUEに設定しますiSNSサーバからストレージアレイを削除するには、このパラメータをFALSEに設定します。</p> <p> set storageArrayコマンドを実行しているときは、他のパラメータとともに「isnsRegistration」パラメータを使用することはできません。</p> <p>iSNS登録の詳細については' set storageArray isnsRegistrationコマンドを参照してください</p>
learnCycleDate	コントローラのバッテリ学習サイクルを設定します。
「localUsername」と入力します	特定のロールのローカルユーザパスワードまたはSYMbolicパスワードを設定できます。
「loginBanner」	ログインbannerとして使用するテキストファイルをアップロードできます。バナーテキストはユーザーがSANtricity System Managerでセッションを確立する前またはコマンドを実行する前に表示されるもので、注意と同意を求めるメッセージを含めることができます

パラメータ	説明
「管理インターフェイス」	コントローラの管理インターフェイスを変更します。ストレージアレイとその管理ソフトウェア間の機密性を確保したり、外部ツールにアクセスしたりするには、管理インターフェイスのタイプを変更します。
mediaScanRate	メディアスキャンを実行する日数。有効な値は、（メディアスキャンをオフにする）、または`day` to `210 days`（`day`は最速のスキャン速度、`210` daysは最も遅いスキャン速度）です。 `disabled`または`1~210`以外の値を指定すると`disabled`、メディアスキャンは機能しません。
「odxEabled」	ストレージアレイのオフロードデータ転送（ODX）をオンまたはオフにします。
「password」と入力します	ストレージアレイのパスワード。パスワードは二重引用符（""）で囲みます。  <span style="color: blue; font-size: 2em;">i</span> このパラメータは8.40リリースで廃止されました。代わりに'localUsername'またはシンボルの'symbol'パラメータを'password'または'adminPassword'パラメータとともに使用します
'passwordLength'	すべての新規または更新されたパスワードの最小文字数を設定できます。0~30の値を指定します。
pqValidateOnReconstruct`	再構築時のP/Q検証を変更します。
「冗長性モード」	コントローラが1台しかない場合は' simplexモードを使用しますコントローラが2台ある場合は、「 duplex」モードを使用します。
「revocationCheckSettings」	失効チェックを有効または無効にすることができます。また、Online Certificate Status Protocol (OCSP) サーバを設定できます。

パラメータ	説明
「securityKey」	<p>ドライブセキュリティ機能を実装するためにストレージアレイ全体で使用される内部セキュリティキーを設定します。</p> <p> 内部セキュリティキーに使用されます。外部キー管理サーバを使用する場合は、「create storageArray securityKey」コマンドを使用します。</p>
「symbol」	特定のロールのSYMBOL/パスワードを設定できます。
「syslog」	syslogサーバのアドレス、プロトコル、またはポート番号を変更できます。
「time」	コントローラのクロックをこのコマンドを実行するホストのクロックと同期することで、ストレージアレイの両方のコントローラのクロックを設定します。
「トレイポジション」	<p>すべてのトレイIDのリスト。リストでのトレイIDの順序によって、ストレージアレイ内のコントローラトレイとドライブトレイの位置が定義されます。有効な値は「0」～「99」です。トレイIDの値はスペースで区切って入力します。トレイID値のリストは丸かっこで囲みます。コントローラトレイに有効なトレイ位置の範囲外の識別子が定義されているストレージアレイの場合は' controller'値を使用します</p> <p> 'controller'オプションは'ファームウェア・リリース6.14以降は有効ではありません</p>
「unnamedDiscoverySession」	ストレージアレイを名前のない検出セッションの対象にします。
「userLabel」のように入力します	ストレージアレイの名前。ストレージアレイ名は二重引用符 ("") で囲みます。
「userSession」	非アクティブな状態が一定の時間続いたユーザセッションは切断されるよう、System Managerでタイムアウトを設定できます。
「vaaiEnabled」	ストレージアレイのVMware vStorage API Array Architecture (VAAI) をオンまたはオフにします

## 注：

「isnsRegistration」を除き、このコマンドを使用する場合は、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

## AutoSupportデータ



このパラメータはASUPコマンドと一緒に使用することはできません。

set storageArray autoSupportConfigコマンドをイネーブルにすると、重大なメジャーイベントログ（MEL）イベントが検出されるたびに、ストレージアレイのすべての設定および状態情報が返されます。設定と状態の情報はオブジェクトグラフの形式で返されます。オブジェクトグラフには、関連するすべての論理オブジェクトと物理オブジェクト、およびストレージアレイでのそれらの関連する状態情報が表示されます。

set storageArray autoSupportConfigコマンドは次のように構成情報と状態情報を収集します

- ・ 設定と状態の情報は72時間ごとに自動的に収集されます。設定と状態の情報はストレージアレイのzipアーカイブファイルに保存されます。アーカイブファイルには、アーカイブファイルの管理に使用されるタイムスタンプが記録されます。
- ・ ストレージアレイごとに2つのzipアーカイブファイルが保持されます。zipアーカイブファイルはドライブに保存されます。72時間後、最も古いアーカイブファイルが新しいサイクルで上書きされます。
- ・ このコマンドを使用して設定と状態の情報の自動収集を有効にすると、最初の情報収集が開始されます。問題コマンドの実行後に情報が収集されることにより、アーカイブファイルが1つ作成され、タイムスタンプサイクルが開始されます。

set storageArray autoSupportConfigコマンドは、複数のストレージアレイで実行できます。

## キャッシュブロックサイズ

キャッシュブロックサイズを定義する場合は、一般に小さくてランダムなI/Oストリームを必要とするストレージアレイに4KBのキャッシュブロックサイズを使用します。大半のI/Oストリームが4KBより大きく8KBより小さい場合は、8KBのキャッシュブロックサイズを使用します。大規模なデータ転送、シーケンシャルI/O、または高帯域幅のアプリケーションを必要とするストレージアレイには、16KBまたは32KBのキャッシュブロックサイズを使用します。

「cacheBlockSize」パラメータは、ストレージアレイ内のすべてのボリュームでサポートされるキャッシュブロックサイズを定義します。すべてのコントローラタイプがすべてのキャッシュブロックサイズをサポートするわけではありません。冗長構成の場合は、ストレージアレイ内の両方のコントローラが所有するすべてのボリュームがこのパラメータの対象となります。

## キャッシュフラッシュが開始されます

キャッシュフラッシュを開始するための値を定義するときに低すぎると、ホスト読み取りに必要なデータがキャッシュに存在しない可能性が高くなります。また、キャッシュレベルを維持するために必要なドライブ書き込み回数が増えるため、システムオーバーヘッドが増大してパフォーマンスが低下します。

## デフォルトのホストタイプ

ストレージパーティショニングが有効になっているホストタイプを定義する場合、デフォルトのホストタイプはデフォルトグループにマッピングされているボリュームのみに適用されます。ストレージパーティショニ

グが有効になっていない場合は、ストレージアレイに接続されているすべてのホストが同じオペレーティングシステムを実行していて、デフォルトのホストタイプと互換性がある必要があります。

## メディアスキャンの速度

メディアスキャンは、ストレージアレイ内の最適なステータスで、変更処理が実行中ではなく、「mediaScanRate」パラメータが有効になっているすべてのボリュームで実行されます。「mediaScanRate」パラメータをイネーブルまたはディセーブルにするには、「set volume」コマンドを使用します。

## パスワード

パスワードは各ストレージアレイに保存されます。保護を最適化するには、パスワードが次の基準を満たしている必要があります。

- ・パスワードは8~30文字で指定する必要があります。
- ・大文字を1つ以上含む。
- ・小文字を1つ以上含む。
- ・数字を1つ以上含む。
- ・パスワードには、英数字以外の文字（<>@+など）を少なくとも1文字含める必要があります。



ストレージアレイでFull Disk Encryptionドライブを使用している場合は、ストレージアレイのパスワードに次の基準を使用する必要があります。



暗号化されたフルディスク暗号化ドライブのセキュリティキーを作成するには、ストレージアレイのパスワードを設定する必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

5.00で'defaultHostType'パラメータが追加されました

5.40では'failoverAlertDelay'パラメータが追加されています

6.10に、「redundancyMode」、「trayPositions」、「time」パラメータが追加されています。

6.14で'alarm'パラメータが追加されました

7.10で、「icmpPingResponse」、「unnamedDiscoverySession」、「isnsIPv6Address」、および「isnsIPv4ConfigurationMethod」パラメータが追加されました。

7.15で、キャッシュブロックサイズと「learnCycleDate」パラメータが追加されました。

7.86では'alarm'パラメータが使用されなくなったので削除され'coreDumpAllowOverWrite'パラメータが追加されました

8.10で、「cacheFlushStop」パラメータが廃止されました。

8.20で'odxEnabled'および'veaiEnabled'パラメータが追加されました。

8.20で、「cacheBlockSize」パラメータが更新され、「cacheBlockSizeValue」が4（4KB）に追加されました。

8.20で、coreDumpAllowOverWriteパラメータが「controllerHealthImageAllowOverWrite」パラメータに置き換えられました。

8.30で'autoLoadBalancingEnable'パラメータが追加されました

8.40で'localUsername'パラメータが追加されました(ユーザ名変数と'password'または'adminPassword'パラメータで使用されます)また'symbol'パラメータ(ユーザ名変数と'password'または'adminPassword'パラメータとともに使用されます)も追加されます

8.40で、「password」および「UserRole」スタンドアロンパラメータが廃止されました。

8.40で、「ManagementInterface」パラメータが追加されました。

8.40で、「externalKeyManagement」パラメータが追加されました。

8.41で、「cacheMirrorDataAssuranceCheckEnable」、「DirectoryServer」、「userSession」、「passwordLength」、および「loginBanner」パラメータが追加されました。

8.42で'pqValidateOnReconstruct'syslog'hostivConnectivityReporting'revocationCheckSettings'パラメータが追加されました

## 同期ミラーリングの設定 - SANtricity CLI

set SyncMirror コマンドはリモート・ミラー・ペアのプロパティを定義します

サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイに適用されます。

ロール

このコマンドをE2800またはE5700のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



このコマンドの以前のバージョンでは、機能識別子は「remoteMirror」でした。この機能識別子は有効ではなくなり' SyncMirror に置き換えられます

### 構文

```

set syncMirror (localVolume [<em>volumeName</em>] |
localVolumes [<em>volumeName1 ... volumeNameN</em>])
[role=(primary | secondary)]
[syncPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[autoResync=(enabled | disabled)]
[writeOrder=(preserved | notPreserved)]
[writeMode=(synchronous | asynchronous)]
[force=(TRUE | FALSE)]

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「localVolume」です	<p>プロパティを定義するローカルボリュームの名前。プライマリボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。プライマリボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、プライマリボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。</p>
「localVolumes」を参照してください	<p>プロパティを定義する複数のローカルボリュームの名前。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li> <li>各名前は二重引用符（""）で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>
「役割」	<p>ローカルボリュームをプライマリボリュームまたはセカンダリボリュームとして機能させるための設定。ボリュームをプライマリ・ボリュームとして定義するにはこのパラメータをprimaryに設定しますボリュームをセカンダリ・ボリュームとして定義するにはこのパラメータをsecondaryに設定しますこのパラメータは、ボリュームがミラー関係にある場合にのみ適用されます。</p>

パラメータ	説明
「syncPriority」	ホストI/Oアクティビティに対する完全同期の優先度。有効な値は'highest' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest'です
「autoResync」	リモートミラーペアのプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間の自動再同期の設定。このパラメータには次の値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• [enabled]--自動再同期がオンになっています何もしなくとも、プライマリボリュームとセカンダリボリュームは再同期されます。</li> <li>• disabled --自動再同期がオフになっていますプライマリ・ボリュームとセカンダリ・ボリュームを再同期化するには'resume SyncMirror コマンドを実行する必要があります</li> </ul>
「writeOrder」です	このパラメータは、プライマリボリュームとセカンダリボリュームの間のデータ転送の書き込み順序を定義します。有効な値は「preserved」または「notPreserved」です。
「writeMode」です	このパラメータは、プライマリボリュームからセカンダリボリュームへの書き込み方法を定義します。有効な値は「synchronous」または「asynchronous」です。
「フォース」	ストレージアレイ間の通信リンクがダウンすると、強制的にロールが反転されるため、ローカル側で昇格または降格を行うと、プライマリまたはセカンダリが二重で存在する状態になります。ロール反転を強制的に実行するにはこのパラメータをTRUEに設定しますデフォルト値は'FALSE'です <div style="margin-top: 20px;">  「force」パラメータは、「role」パラメータを使用する場合にのみ使用してください。         </div>

## 注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

同期優先度によって、ミラー関係のプライマリボリュームとセカンダリボリュームの間のデータの同期に使用されるシステムリソースの量が定義されます。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してデータの完全同期が実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

「writeOrder」パラメータは非同期書き込みモードにのみ適用され、整合グループの一部になります。「writeOrder」パラメータを「preserved」に設定すると、リモート・ミラー・ペアは、ホストからプラ

イマリ・ボリュームへの書き込みと同じ順序で、プライマリ・ボリュームからセカンダリ・ボリュームへデータを送信します。送信リンクに障害が発生した場合、完全な同期が行われるまで、データはバッファされます。この処理では、バッファされたデータを維持するために追加のシステムオーバーヘッドが必要になる可能性があるため、処理が遅くなります「writeOrder」パラメータを「notPreserved」に設定すると、システムはバッファ内のデータを維持する必要がなくなりますが、セカンダリボリュームのデータがプライマリボリュームと同じになるように、完全な同期を強制的に実行する必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

6.10

# Syslog設定を構成する - SANtricity CLI

set syslog'コマンドは'syslogアラート情報を設定しますアラート対象のイベントが発生するたびにsyslogサーバにアラートを送信するように、イベントモニタを設定できます。

## サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

- syslogサーバのアドレスを確認しておく必要があります。このアドレスは、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスのいずれかで指定できます。
- syslogサーバのUDPポート番号を確認しておく必要があります。通常は514です。

## 構文

```
set syslog [defaultFacility=<em>facilityNumber</em>]
| [defaultTag=<em>defaultTag</em>]
| [syslogFormat=<em>rfc3164</em>|<em>rfc5424</em>]
| (serverAddresses=(<em>serverAddress:portNumber ...
serverAddress:portNumber</em>)
| addServerAddresses=(<em>serverAddress:portNumber ...
serverAddress:portNumber</em>))
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「defaultFacility」	任意。デフォルトのファシリティ番号を指定できます。デフォルトのファシリティは、0~23の数値で指定します。
defaultTag	任意。デフォルトのタグを指定できます。文字列は引用符で囲みます。
'syslogFormat'	syslogメッセージに使用されるメッセージング形式。次のいずれかの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• rfc3164`- RFC 3164準拠フォーマット</li> <li>• rfc5424`- RFC 5424準拠のフォーマット</li> </ul>
「serverAddresses」と入力します	1つ以上のsyslogサーバアドレスを、関連付けられているポート番号とともに設定できます。この設定オプションを使用すると、既存のサーバアドレスが消去されます。syslogサーバのアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。UDPポートは、0~65535の数値で指定します。通常は、syslogのUDPポートは514です。すべてのアドレスをかっこで囲みます。複数のアドレスを入力する場合は、それぞれスペースで区切ります。
「addServerAddresses」と入力します	1つ以上のsyslogサーバアドレスを、関連付けられているポート番号とともに追加できます。この設定オプションを使用しても、既存のサーバアドレスは消去されません。syslogサーバのアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。UDPポートは、0~65535の数値で指定します。通常は、syslogのUDPポートは514です。すべてのアドレスをかっこで囲みます。複数のアドレスを入力する場合は、それぞれスペースで区切ります。

## 例

```
SMcli -n Array1 -c "set syslog
serverAddresses=("ICTM1402S02H2.company.com:22");"

SMcli -n Array1 -c "set syslog
addServerAddresses=("serverName1.company.com:514"
"serverName2.company.com:514");"

SMcli completed successfully.
```

## 最小ファームウェアレベル

8.40

11.70.1では、syslogメッセージ形式を指定するための「syslogFormat」パラメータが追加されました。

## ターゲットプロパティの設定 - SANtricity CLI

set target'コマンドは'認証方式やエイリアス名など'iSCSI/iSERターゲットのプロパティを変更します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300の個々のストレージアレイに適用されます。E2700またはE5600のストレージアレイに対しては機能しません。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはStorage Monitorロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



このコマンドは、廃止されたを置き換えます [iSERターゲットを設定します](#) および [iSCSIターゲットのプロパティを設定します](#) コマンド

### 構文

```
set target ([ "targetAliasName" ] | <"targetQualifiedName">)
(authenticationMethod=(none | chap chapSecret="newSecurityKey") |
targetAlias="newAliasName")
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	設定するターゲットを指定できます。ターゲットのエイリアス名または修飾名 (iqnなど) を指定できます。ターゲット識別子は二重引用符 ("") で囲みます。また、識別子がエイリアスである場合は角かっこ ([] ) 、修飾名である場合は山かっこ (<>) で囲む必要があります。
「authenticationMethod」を指定します	セッションの認証方法を設定できます。有効な選択肢は「none」または「chap」です。

パラメータ	説明
「チャプターシークレット」	ピア接続を認証するためのセキュリティキーを入力できます。これは、「authenticationMethod」が「CHAP」に設定されている場合にのみ該当します。
targetAlias	ターゲットの新しいエイリアス名を指定できます。名前は二重引用符（""）で囲みます。

## 最小ファームウェアレベル

8.41

## シンボリュームの属性を設定する - **SANtricity CLI**

set volumeコマンドは'シン・ボリュームのプロパティを定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (**Context**)

パラメータを使用して、1つ以上のシンボリュームのプロパティを定義できます。

### 構文

```
set (volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)  
[newCapacity=<em>capacityValue</em>]  
[repositoryMaxCapacity=<em>capacityValue</em>]  
[repositoryExpansionPolicy=(automatic|manual)]  
[warningThresholdPercent=<em>warningThresholdPercentValue</em>]  
[addRepositoryCapacity=capacity-spec] [hostReportingPolicy=(standard |  
thin)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	プロパティを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	プロパティを定義するボリュームのWorld Wide Identifier（WWID）。WWIDは二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。
「ボリューム」	<p>プロパティを定義する複数のボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>ボリューム名が特殊文字を含んでいる場合または数字のみで構成されている場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ（[]）で囲みます。</li> <li>各名前は二重引用符（""）で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>
「newCapacity」です	<p>このパラメータは、シンボリュームの仮想容量を拡張します。仮想容量は、ボリュームにマッピングされているホストにボリュームが報告する値です。既存の容量以下の値を指定すると、エラーが原因されます。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されます</p> <p>最小仮想容量は32MBです。</p> <p>最大仮想容量は256TBです。</p>
repositoryMaxCapacity *	<p>このパラメータは、リポジトリボリュームの最大容量を設定します。リポジトリボリュームの物理容量よりも小さい値は指定できません。新しい値を指定した結果、容量が警告しきい値よりも少なくなる場合、コマンドからエラーが返されます。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">(i)</span> <span>repositoryMaxCapacityコマンド は'repositoryExpansionPolicy=automatic'と連携します</span> </div>

パラメータ	説明
repositoryExpansionPolicy *	このパラメータは'拡張ポリシーをautomaticまたはmanualに設定します'ポリシーをautomaticからmanualに変更すると'最大容量値（クオータ）'はリポジトリボリュームの物理容量に変わります
「warningThresholdPercent」	<p>シンボリュームの容量がこの割合に達すると、シンボリュームの上限に近づいているという警告アラートが表示されます。整数値を使用します。たとえば、70という値は70%を意味します。</p> <p>有効な値は1~100です。</p> <p>このパラメータを100に設定すると、警告アラートは無効になります。</p>
「addRepositoryCapacity」を参照してください	<p>このパラメータは、ディスクプールの空きエクステントから容量を割り当てます。十分なスペースがない場合、コマンドは失敗します。</p> <p> コマンド「addRepositoryCapacity」は、「repositoryExpansionPolicy=manual」と連動します。</p>
「hostReportingPolicy」	このパラメータは、シンボリュームのホストへの報告方法を変更します。有効な値は「standard」または「thin」です。

## 注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

次の表に、シンボリュームの容量制限を示します。

容量のタイプ	サイズ
最小仮想容量	32 MB
最大仮想容量	256 TB
最小物理容量	4 GB
最大物理容量	257TB

シンボリュームでは、標準ボリュームで行われるすべての処理がサポートされます。ただし、次の例外があります。

- ・シンボリュームのセグメントサイズは変更できません。
- ・シンボリュームでは読み取り前冗長性チェックを有効にできません。
- ・ボリュームコピーでは、シンボリュームをターゲットボリュームとして使用できません。
- ・同期ミラーリング処理ではシンボリュームを使用できません。

シンボリュームを標準ボリュームに変更する場合は、ボリュームコピー処理を使用してシンボリュームのコピーを作成します。ボリュームコピーのターゲットは常に標準ボリュームです。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## トレイ属性の設定 - SANtricity CLI

set trayコマンドはトレイのユーザー定義属性を設定します

### 構文

```
set tray [<em>trayID</em>] (chassisName | assetTag)="<em>userID</em>"
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	属性を設定する特定のトレイを指定します。トレイIDの値は、0 ~ 99です。エンクロージャIDの値の前後に括弧 ([]) を挿入する必要があります。
「chassisName」	新しいエンクロージャに指定するシャーシの名前または番号。シャーシ名には、最大32文字の英数字を任意に組み合わせて使用できます。大文字と小文字のどちらも使用できます。アンダースコア文字 (_) とハイフン (-) も使用できます。シャーシ名にはスペースを使用できません。シャーシ名は引用符 ("") で囲む必要があります。
「assetTag」	新しいエンクロージャに指定する資産タグの名前または番号。資産タグは、最大10文字の英数字を任意に組み合わせて指定できます。大文字と小文字のどちらも使用できます。アンダースコア文字 (_) とハイフン (-) も使用できます。アセットタグ名にスペースは使用できません。資産タグ名の前後に引用符 ("") を挿入する必要があります。

## 最小ファームウェアレベル

6.16

# ドロワーサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI

set tray drawerコマンドはドライブを格納するドロワーの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

ドロワーは大容量ドライブトレイで使用されます。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。このコマンドは、ドロワーを使用するドライブトレイのみに使用します。ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。

## 構文

```
set tray [<em>trayID</em>] drawer [<em>drawerID</em>]  
serviceAllowedIndicator=(on | off | forceOnWarning)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	ドロワーが配置されているトレイ。トレイIDの値は'0～99ですトレイIDの値は角かっこ ([] ) で囲みます。トレイIDの値を入力しない場合は、コントローラトレイのトレイIDがデフォルト値となります。
「ドロワー」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするドロワーの場所。ドロワーIDの値は「1」～「5」です。ドロワーID値は角かっこ ([] ) で囲みます。

パラメータ	説明
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	<p>保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。</p> <p>「forceOnWarning」の使用方法については、「Notes」を参照してください。</p>

## 注：

このコマンドを入力するには、ドライブトレイが次の条件を満たしている必要があります。

- ・ドライブトレイが高温状態でないこと。
- ・ファンのステータスが最適である必要があります。
- ・ドライブトレイのコンポーネントがすべて設置されている。
- ・ドライブドロワー内のボリュームがデグレード状態でないこと。ボリュームがデグレード状態のときにドライブドロワーからドライブを取り外すと、ボリュームで障害が発生する可能性があります。



上記の条件を1つでも満たしていない場合は、このコマンドを実行しないでください。問題

コマンドが送信される前に、対象のドライブドロワー内のドライブを使用するすべてのボリュームがチェックされて、ボリュームがドロワー損失から保護されているかどうかが確認されます。ボリュームがドロワー損失から保護されている場合は、ボリュームへのI/Oアクティビティを停止することなく保守操作可能設定コマンドが続行されます。

該当するドロワーにドロワー損失から保護されないボリュームがある場合は、それらのボリュームへのI/Oアクティビティを停止する必要があります。警告が表示され、このコマンドを完了するべきではないことが示されます。

大容量ドライブトレイ全体の保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするには' set tray serviceAllowedIndicatorコマンドを使用します

## forceOnWarningパラメータの使用

コンポーネントを取り外す準備をしていて、ボリュームがドロワー損失から保護されないことを通知する警告を無視するには、次のパラメータを入力します。

```
serviceAllowedIndicator=forceOnWarning
```

forceOnWarningパラメータは'コンポーネントをコントローラファームウェアに削除する準備をする要求を送信し' set drawer serviceAllowedIndicatorコマンドを強制的に続行します



このパラメータを指定するとドロワー内のすべてのドライブにアクセスできなくなるため、ボリュームが使用停止になる場合があり、ホストのリブートが必要になるなど、リカバリが複雑になる可能性があります。このパラメータを使用するときは注意してください。

## 最小ファームウェアレベル

7.60

## トレイ識別の設定 - SANtricity CLI

set trayコマンドは'ストレージ・アレイ内のコントローラ・トレイ'コントローラ・ドライブ・トレイ'またはドライブ・トレイのトレイIDを設定します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、E2700、E5600、E2800、E5700を含む個々のストレージアレイ環境 SMcliパッケージがすべてインストールされれば、EF600およびEF300アレイ

### ロール

このコマンドをE2800、E5700、EF600、またはEF300ストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

このコマンドは、トレイIDをコントローラファームウェアから設定可能なコントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイにのみ有効です。トレイIDをスイッチで設定するコントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイには使用できません。

### 構文

```
set tray ["<em>serialNumber</em>"] id=<em>trayID</em>
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	トレイIDを設定するコントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイのシリアル番号。シリアル番号には、英数字を任意に組み合わせて指定できます。文字数に制限はありません。シリアル番号は二重引用符（""）で囲みます。

パラメータ	説明
「id」	<p>コントローラトレイ、コントローラドライブトレイ、またはドライブトレイのトレイIDの値。トレイIDの値は'0'~'9'または'10'~'99'です</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① DE5600、DE1600、DE6600の各エンクロージャの場合は、シリアル番号の前にテキスト「SN」とスペースを付加します。たとえば、「SN SV23802522」と入力します。</li> <li>② トレイIDの値はかっこで囲む必要はありません。</li> <li>③ 「00」から「09」までのトレイ値は、コントローラによって拒否されます。これらの値を指定するには'0~9を使用します</li> </ul>

## 注：

このコマンドは、当初CE6998コントローラトレイをサポートしていましたCE6998シリーズのコントローラトレイはさまざまなドライブトレイに接続でき、これにはトレイIDがスイッチで設定されるドライブトレイも含まれます。CE6998シリーズのコントローラトレイをスイッチで設定されたトレイに接続する場合、コントローラトレイの有効なトレイID値は「80~99」です。これにより、接続されたドライブトレイのトレイIDとの競合を回避できます。

## トレイサービスアクション許可インジケーターの設定 - SANtricity CLI

set tray serviceAllowedIndicatorコマンドは'電源ファンキャニスター'相互接続バッテリキャニスター'または環境サービスモジュール(ESM)キャニスターの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにします

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage AdminまたはSupport Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

ストレージアレイが保守操作可能インジケータライト機能をサポートしていない場合、このコマンドはエラーを返します。ストレージアレイがこのコマンドをサポートしていてもインジケータライトをオンまたはオフにできない場合、このコマンドはエラーを返します。

コントローラキャニスターの保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするには'set controller serviceAllowedIndicator'コマンドを使用します

## 構文

```
set tray [<em>trayID</em>]
(powerFan [(left | right | top | bottom)] |
interconnect |
esm [(left | right | top | bottom)] |
battery [(left | right)] |
fanCanister [(left | right)] |
powerCanister [(top | bottom)] |
serviceAllowedIndicator=(on | off)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「tray」	電源ファンキャニスター、インターネットキャニスター、ESMキャニスター、またはバッテリキャニスターが取り付けられているトレイ。トレイIDの値は'0~99'ですトレイIDの値は角かっこ ([] )で囲みます。トレイIDの値を入力しない場合は、コントローラトレイのトレイIDがデフォルト値となります。
「パワーファン」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにする電源ファンキャニスター。有効な電源ファン・キャニスター識別子は'left'right'top"bottom'です電源ファンキャニスター識別子は角かっこ ([] )で囲みます。
相互接続	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするインターネットバッテリキャニスター。
「ESM」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするESMキャニスター。有効なESMキャニスター識別子は'left'right'top"bottom'です
「バッテリ」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするバッテリ。有効なバッテリ識別子は'left'またはrightです

パラメータ	説明
「fanCanister」の略	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするファンキャニスター。有効なファン・キャニスター識別子は'left'またはrightです
「パワーキャニスタ」	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにする電源キャニスター。有効な電源キャニスター識別子は'top'またはbottom'です
「serviceAllowedIndicator」というメッセージが表示されます	保守操作可能インジケータライトをオンまたはオフにするための設定。保守操作可能インジケータライトをオンにするには、このパラメータを「オン」に設定します。保守操作可能インジケータライトをオフにするには、このパラメータを「オフ」に設定します。

## 注：

このコマンドは、CE6998コントローラトレイで使用するために定義されたコマンドですCE6998コントローラトレイの発売前に出荷されたコントローラトレイではサポートされません

## 例

次のコマンドは、IPアドレス155.155.155.155のトレイ5に取り付けられている左側のESMの保守操作可能インジケータライトをオンにします。

```
SMcli 123.145.167.214 123.145.167.215 -c "set tray [5]
ESM [left] serviceAllowedIndicator=on;"
```

## 最小ファームウェアレベル

6.14で、次のパラメータが追加されました

- ・「パワーファン」
- ・相互接続

6.16で、次のパラメータが追加されました

- ・「tray」
- ・「ESM」

7.60で'top'とbottom'の識別子が追加されます

7.60で'powerCanisterおよびfanCanister'パラメータが追加されました

# ボリュームグループ内のボリュームのボリューム属性を設定する - SANtricity CLI

set volumeコマンドは、ボリューム・グループ内のボリュームのプロパティを定義します  
サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、  
E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト (Context)

ほとんどのパラメータでは、1つ以上のボリュームのプロパティを定義できます。一部のパラメータでは、1つのボリュームのプロパティのみを定義することもできます。構文の定義は、複数のボリュームに適用できるパラメータと、1つのボリュームにしか適用できないパラメータを、別々に示しています。



ボリュームグループ内のボリューム数が32を超える構成では、このコマンドの実行中にタイムアウトとなり、ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリブートが発生する可能性があります。ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリブートが発生した場合は、ホストI/Oを休止し、処理をやり直してください。

## 1つ以上のボリュームに適用される構文

```
set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |  
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)  
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>  
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)  
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)  
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)  
owner=(a|b)  
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)  
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)  
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)  
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

```
set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

```
set (allVolumes | volume ["<em>volumeName</em>"] |
volumes ["<em>volumeName1</em>" ... "<em>volumeNameN</em>"] | volume
<"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

```
set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)
```

```

set (allVolumes | volume ["<em>volumeName</em>"] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume
<"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)

```

```

set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em>
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE)
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE)
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
modificationPriority=(highest | high | medium | low | lowest)
owner=(a|b)
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
cacheReadPrefetch=(TRUE | FALSE)
reservedFutureOption1=(TRUE | FALSE)

```

## 1つのボリュームのみに適用される構文

```

set (volume [<em>volumeName</em>] | volume <wwID>)
addCapacity=<em>volumeCapacity</em>
[addDrives=(<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>)]
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
userLabel=<em>volumeName</em>
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)

```

```

set (volume ["<em>volumeName</em>"] | volume <wwID>)
addCapacity=<em>volumeCapacity</em>
[addDrives=(<em>trayID1</em>,<em>drawerID1</em>,<em>slotID1</em>
... <em>trayIDn</em>,<em>drawerIDn</em>,<em>slotIDn</em>) ]
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
userLabel=<em>volumeName</em>
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)

```

```

set (volume [<em>volumeName</em>] | volume <wwID>)
addCapacity=<em>volumeCapacity</em>
[addDrives=(<em>trayID1</em>,<em>slotID1</em> ...
<em>trayIDn</em>,<em>slotIDn</em>) ]
redundancyCheckEnabled=(TRUE | FALSE)
segmentSize=<em>segmentSizeValue</em>
userLabel=<em>volumeName</em>
preReadRedundancyCheck=(TRUE | FALSE)

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージアレイ内のすべてのボリュームのプロパティを設定します。
「volume」	プロパティを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	プロパティを定義するボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 ("") で囲んだ上で山かっこ (<>) で囲みます。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <span style="border: 1px solid blue; border-radius: 50%; padding: 5px; margin-right: 10px;"></span>           このコマンドを実行するときは、WWIDにコロンは使用しないでください。         </div>

パラメータ	説明
「ボリューム」	<p>プロパティを定義する複数のボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。</li> <li>各名前は二重引用符 ("") で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>
「cacheFlushModifier」	ボリュームのデータが物理ストレージにフラッシュされる前にキャッシングに保持される最大時間。有効な値については、「メモ」セクションを参照してください。
「cacheWithoutBatteryEnabled」	バッテリなしのキャッシングをオンまたはオフにするための設定。バッテリなしのキャッシングをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。バッテリなしのキャッシングをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。
mediaScanEnabled	ボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。
「mirrorCacheEnabled」	ミラーキャッシュをオンまたはオフにするための設定。ミラー・キャッシュをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますミラー・キャッシュをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定します
「modificationPriority」	ストレージアレイが稼働している間のボリューム変更の優先度。有効な値は'highest' 'high' 'high' 'medium' 'low' 'low' 'lowest' です

パラメータ	説明
「owner」をクリックします	ボリュームを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですこのパラメータは、ボリュームの所有者を変更する場合にのみ使用します。
「preReadRedundancyCheck」	<p>読み取り前冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。読み取り前冗長性チェックをオンにすると、読み取りデータを含むストライプに対してRAID冗長性データの整合性が検証されます。読み取り前冗長性チェックは読み取り処理でのみ実行されます。読み取り前冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します読み取り前冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">i</span> <p>RAID 0ボリュームなどの非冗長ボリュームでは、このパラメータを使用しないでください。</p> </div>
readCacheEnabled	読み取りキャッシュをオンまたはオフにするための設定。リード・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますリード・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「writeCacheEnabled」を使用します	書き込みキャッシュをオンまたはオフにするための設定。ライト・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますライト・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「cacheReadPrefetch」 というメッセージが表示されます	キャッシュ読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシュ読み取りプリフェッチをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定しますキャッシュ読み取りプリフェッチをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します

パラメータ	説明
<p>「dataAssuranceDisabled」</p>	<p>特定のボリュームのData Assuranceをオフにするための設定。</p> <p>このパラメータは、ボリュームがData Assuranceに対応している場合にのみ有効です。このパラメータは、Data Assuranceをサポートするボリュームが、Data Assuranceをサポートできないボリュームに変更します。</p> <p> このオプションを有効にできるのは、ドライブがDAをサポートする場合のみです。</p> <p>Data AssuranceをサポートするボリュームからData Assuranceを削除するには、このパラメータを「true」に設定します。</p> <p> いったんData Assuranceを削除したボリュームでは、Data Assuranceをリセットすることはできません。</p> <p>Data Assuranceを削除したボリューム上のデータに対してData Assuranceをリセットするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボリュームからデータを削除します。</li> <li>2. ボリュームを削除します。</li> <li>3. 削除したボリュームのプロパティを使用して新しいボリュームを再作成します。</li> <li>4. 新しいボリュームに対してData Assuranceを設定します。</li> <li>5. データを新しいボリュームに移動します。</li> </ol>
<p>「addCapacity」</p>	<p>プロパティを定義するボリュームのストレージサイズ（容量）を増やすための設定。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されますデフォルト値は「bytes」です。</p>

パラメータ	説明
「addDrives」を参照してください	<p>大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。</p> <p>スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。</p> <p>トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。</p> <p>新しいサイズに対応する追加のドライブを指定する必要がある場合は、このパラメータを「addCapacity」パラメータとともに使用します。</p>
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「segmentSize」のように表示されます	コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータ量（KB）を指定します。有効な値は'8'16'32'64'128'です「256」または「512」。
「userLabel」のように入力します	既存のボリュームに付ける新しい名前。新しいボリューム名は二重引用符（""）で囲みます。
「preReadRedundancyCheck」	読み取り処理中にストライプのRAID冗長性データの整合性をチェックするための設定。RAIDレベル0などの非冗長ボリュームには、この処理を使用しないでください。冗長性の整合性をチェックするには'このパラメータをTRUEに設定しますストライプ・チェックを行わない場合は'このパラメータをFALSEに設定します

## 注：

ボリューム数が32を超えるボリュームグループでは、ホストI/Oエラーが発生する可能性があります。また、この処理の完了前にタイムアウトとなり、内部コントローラのリブートが発生する可能性もあります。この問題が表示された場合は、ホストI/Oを休止し、処理をやり直してください。

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

これらのパラメータは、一度に1つのボリュームのみに適用できます。

- ・「addCapacity」
- ・「segmentSize」のように表示されます
- ・「userLabel」のように入力します
- ・「logicalUnitNumber」と入力します

## 容量の追加、ドライブの追加、およびセグメントサイズの確認

「addCapacity」パラメータ、「addDrives」パラメータ、または「segmentSize」パラメータを設定すると、長時間実行される処理が開始され、途中で停止することはできません。長時間の処理はバックグラウンドで実行され、他のコマンドの実行が妨げられることはありません。長時間実行中の処理の進捗状況を表示するには、「show volume actionProgress」コマンドを使用します。

## キャッシングフラッシュ修飾子

次の表に、キャッシングフラッシュ修飾子の有効な値を示します。

値	説明
「即時」	データはキャッシングに配置され次第フラッシュされます。
「.25」	データは250ミリ秒後にフラッシュされます。
5.	データは500ミリ秒後にフラッシュされます。
「.75」	データは750ミリ秒後にフラッシュされます。
「1」	データは1秒後にフラッシュされます
1.	データは1500ミリ秒後にフラッシュされます。
2.	データは2秒後にフラッシュされます
「5」	データは5秒後にフラッシュされます
「10」	データは10秒後にフラッシュされます
「20歳」	データは20秒後にフラッシュされます
「60」	データは60秒（1分）後にフラッシュされます。

値	説明
120	データは120秒（2分）後にフラッシュされます。
300`	データは300秒（5分）後にフラッシュされます。
「1200」	データは1200秒（20分）後にフラッシュされます。
「3600」	データは3600秒（1時間）後にフラッシュされます。
「無限」	キャッシング内のデータには、年齢や時間の制約はありません。データは、コントローラによって管理されるその他の条件に基づいてフラッシュされます。



「cacheFlushModifier」パラメータの値を10秒以上に設定しないでください。テストを目的とした場合は例外です。「cacheFlushModifier」パラメータの値を10秒以上に設定したテストを実行した後、「cacheFlushModifier」パラメータの値を10秒以下に戻します。

## バッテリなしのキャッシングを有効にしました

バッテリなしの書き込みキャッシングを有効にすると、コントローラのバッテリが完全に放電されている場合、フル充電されていない場合、または取り付けられていない場合でも書き込みキャッシングが続行されます。無停電電源装置（UPS）やその他のバックアップ電源がない場合にこのパラメータを「true」に設定すると、ストレージアレイへの給電が停止した場合にデータが失われる可能性があります。書き込みキャッシングが無効になっている場合、このパラメータは効果がありません。

## 修正の優先順位

変更優先度は、ボリュームのプロパティを変更する際に使用されるシステムリソースの量を定義します。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してボリュームの変更が実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

## キャッシング読み取りプリフェッチ

「cacheReadPrefetch」パラメータを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをドライブから読み取ってキャッシングにコピーする間、追加のデータブロックをキャッシングにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシングから処理できる可能性が高くなります。キャッシング読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。使用するストレージアレイの設定によって、コントローラがキャッシングに読み込む追加のデータブロックの数が決まります。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。

## セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時に対応できます。

ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ（マルチメディアなど）を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。（データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます）。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

## 最小ファームウェアレベル

5.00で「addCapacity」パラメータが追加されました。

7.10で、「preReadRedundancyCheck」パラメータが追加されました。

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

7.75で、「dataAssuranceDisabled」パラメータが追加されました。

8.10で、キャッシュフラッシュテーブルの「cacheFlushModifier」パラメータの値が修正されました。

## ボリュームマッピングの設定 - SANtricity CLI

set volume logicalUnitNumber'コマンドは'ボリュームとホストまたはホストグループ間の論理ユニット番号(LUN)またはネームスペースID (NSID )マッピングを定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

このコマンドは、ボリュームグループまたはディスクプール内のボリュームに対して使用できます。



オンラインボリュームコピーで使用されているSnapshotボリュームには、このコマンドは使用できません。

## 構文

```
set (volume [<em>volumeName</em>] | volume <"wwID"> | accessVolume)
logicalUnitNumber=<em>lun</em>
(host="<em>hostName</em>" |
hostGroup=("<em>hostGroupName</em>" | defaultGroup)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	LUNを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	LUNを定義するボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。
「accessVolume」のようになります	アクセスボリュームの論理ユニット番号。LUNは、アクセスボリュームに設定できる唯一のプロパティです。
「logicalUnitNumber」と入力します	特定のホストにマッピングするLUNまたはネームスペースID。このパラメータは、ホストをホストグループにも割り当てます。  ① LUNまたはネームスペースIDには、ホストオペレーティングシステムでサポートされる範囲内の未使用の値を指定する必要があります。ホストでサポートされないLUNまたはネームスペースIDにボリュームをマッピングした場合、エラーは発生しませんが、ホストはボリュームにアクセスできなくなります。
ホスト	ボリュームのマッピング先であるホストの名前。ホスト名は二重引用符（""）で囲みます。
「hostGroup」と入力します	ボリュームのマッピング先であるホストグループの名前。ホストグループ名は二重引用符（""）で囲みます。defaultGroupはボリュームがマッピングされているホストを含むホスト・グループです

## 注：

ホストグループはオプションのトポロジ要素であり、同じボリュームへのアクセスを共有する一連のホストを指定するかどうかを定義できます。ホストグループは論理エンティティです。ホストグループは、同じボリュームへのアクセスを共有できるホストが複数ある場合にのみ定義してください。

名前には、英数字、ハイフン、アンダースコアを任意に組み合わせて使用できます。名前の最大文字数は30文字です。

アクセスボリュームは、ストレージ管理ソフトウェアとストレージアレイコントローラの間のインバンド通信に使用されるSAN環境内のボリュームです。このボリュームはLUNアドレスまたはNSIDアドレスを使用し、アプリケーションデータストレージには使用できない20MBのストレージスペースを使用します。アクセスボリュームは、インバンド管理されるストレージアレイでのみ必要です。「accessVolume」パラメータを指定した場合、設定できる唯一のプロパティは「logicalUnitNumber」パラメータです。

## 最小ファームウェアレベル

7.83で、ディスクプールのSnapshotボリュームが追加されました。

## ボリュームの SSD キャッシュを設定する - SANtricity CLI

set volume ssdCacheEnabledコマンドは、特定のボリュームのSSDキャッシュ機能を使用したキャッシュのオン/オフを切り替えます

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Support Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)

ボリュームは次のいずれかです。

- 標準ボリューム。名前またはWWIDで識別されます
- Snapshotボリューム
- 整合性グループのSnapshotボリューム

### 標準ボリュームに適用される構文

```
set volume ([<em>volumeName</em>] | <"WWID">) ssdCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
```

## Snapshotボリュームに適用される構文

```
set snapVolume ["<em>snapVolumeName</em>"] ssdCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
```

## 整合性グループのSnapshotボリュームに適用される構文

```
set cgSnapVolume ["<em>cgSnapVolumeName</em>"] ssdCacheEnabled=(TRUE | FALSE)
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volume」	SSDキャッシングをオンまたはオフにする標準ボリュームの名前。ボリュームの名前は角かっこ（[]）で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲む必要があります。
「volume」	SSDキャッシングをオンまたはオフにする標準ボリュームのWorld Wide Identifier（WWID）。WWIDは二重引用符（""）で囲んだ上で山かっこ（<>）で囲みます。
「SnapVolume」	SSDキャッシングをオンまたはオフにするSnapshotボリュームの名前。Snapshotボリュームの名前は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
cgSnapVolume	SSDキャッシングをオンまたはオフにする整合性グループのSnapshotボリュームの名前。整合性グループのSnapshotボリュームの名前は、二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこ（[]）で囲みます。
「ssdCacheEnabled」を入力します	SSDキャッシングをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。SSDキャッシングをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。

## 注：

SSDキャッシングは、一度に1つのボリュームに対してオンまたはオフにすることができます。

ボリュームのSSDキャッシングをオフにすると、そのボリュームのSSDキャッシングがページされます。

## 最小ファームウェアレベル

7.84

11.80で、EF600およびEF300アレイのサポートが追加されました。

## ボリュームコピーの設定 - SANtricity CLI

set VolumeCopy targetコマンドは'ボリューム・コピー・ペアのプロパティを定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト (Context)



ファームウェア・バージョン7.83では'copyType=(online | offline)パラメータは使用されなくなりました

このコマンドは、Snapshotボリュームコピーペアに対して有効です。

### 構文

```
set volumeCopy target [<em>targetName</em>]
source [<em>sourceName</em>]
[copyPriority=(highest | high | medium | low | lowest)]
[targetReadOnlyEnabled=(TRUE | FALSE)]
```

### パラメータ

パラメータ	説明
「target」と入力します	データのコピー先となるボリュームの名前。ターゲットボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ターゲットボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ターゲットボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。

パラメータ	説明
「source」を参照してください	データのコピー元のボリュームの名前。ソースボリューム名は角かっこ（[]）で囲みます。ソースボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ソースボリューム名を二重引用符（""）で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「copyPriority」	ホストのI/Oアクティビティに対するボリュームコピーの優先度。有効な値は'highest'high'medium'low'lowest'です
targetReadOnlyEnabled	ターゲットボリュームへの書き込みを可能にするか、ターゲットボリュームからの読み取りのみを可能にするかを選択する設定。ターゲット・ボリュームに書き込むには'このパラメータをFALSEに設定しますターゲット・ボリュームに書き込みできないようにするには'このパラメータをTRUEに設定します
「copyType」	 このパラメータは廃止されました。

## 注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

## 最小ファームウェアレベル

5.40

7.83で'copyType=(online | offline)'パラメータが削除されました

## ボリュームグループの強制状態を設定する - **SANtricity CLI**

set volumegroup forcedState'コマンドは'ボリュームグループを強制状態に移行します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）

start volumeGroup importコマンドを使用してボリュームグループをインポート済みの状態に移行しない場合、またはハードウェアエラーのためにインポート操作が機能しない場合は、このコマンドを使用します。強制状態のボリュームグループはインポート可能です。インポート後にハードウェアエラーを特定できます。

## 構文

```
set volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>] forcedState
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	強制状態に移行するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。

## 注：

ボリュームグループを構成するドライブを、あるストレージアレイから別のストレージアレイに移動できます。CLIには、ドライブを移動するためのコマンドが3つあります。コマンドは'start volumeGroup export'、'start volumeGroup import'および'set volumeGroup forcedState'です

強制状態のボリュームグループにはインポート処理を実行できます。

## 最小ファームウェアレベル

7.10

## ボリュームグループの設定 - SANtricity CLI

set volumegroupコマンドはボリューム・グループのプロパティを定義します

## サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

## ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

## コンテキスト（Context）



1つのコマンドで実行できる処理（ドライブの追加、RAIDレベルの変更、またはボリュームグループ所有権の変更）は1つだけです。1つのコマンドで複数の処理を実行することはできません。

## 構文

```
set volumeGroup [<em>volumeGroupName</em>]  
[addDrives=(<em>trayID1</em>, [<em>drawerID1</em>, ]<em>slotID1</em> ...  
<em>trayIDn</em>, [<em>drawerIDn</em>, ]<em>slotIDn</em>) ] |  
[raidLevel=(0 | 1 | 3 | 5 | 6) ] |  
[owner=(a|b) ]
```

## パラメータ

パラメータ	説明
「volumeGroup」のように指定します	プロパティを設定するボリュームグループの名前。ボリュームグループ名は角かっこ（[]）で囲みます。
「addDrives」を参照してください	ボリュームグループに追加するドライブの場所。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値を指定します。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブのトレイIDの値とスロットIDの値を指定します。トレイIDの値は'0~99'ですドロワーIDの値は「1」～「5」です。  スロットIDの最大値はすべて24です。スロットIDの値は、トレイのモデルに応じて0または1で始まります。E2800コントローラおよびE5700コントローラと互換性があるドライブトレイのスロットID番号は0から始まります。E2700およびE5600コントローラと互換性のあるドライブトレイのスロットID番号は1から始まります。  トレイIDの値、ドロワーIDの値、およびスロットIDの値は角かっこ（[]）で囲みます。
raidLevel	ボリュームグループのRAIDレベル。有効な値は'0'1'3'5'または'6'です
「owner」をクリックします	ボリュームグループを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですこのパラメータは、ボリュームグループの所有者を変更する場合にのみ使用します。

## 注：

ボリューム数が32を超えるボリュームグループでは、ホストI/Oエラーが発生する可能性があります。また、ボリュームグループ定義が設定される前にタイムアウト時間が終了したために、内部コントローラのリブートが発生する場合もあります。この問題が表示された場合は、ホストI/O処理を休止し、もう一度コマンドを実行します。

このコマンドではパラメータを1つしか指定できません。



'addDrives'パラメータまたは'raidLevel'パラメータを指定すると'長時間実行される処理が開始され'停止することはできません

'addDrives'パラメータは'大容量ドライブ・トレイと小容量ドライブ・トレイの両方をサポートします大容量ドライブトレイには、ドライブを格納するドロワーがあります。ドロワーをドライブトレイから引き出して、ドライブへのアクセスを提供します。小容量ドライブトレイにはドロワーはありません。大容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイの識別子（ID）、ドロワーのID、ドライブが配置されているスロットのIDを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合は、ドライブトレイのIDと、ドライブが格納されているスロットのIDだけを指定する必要があります。小容量ドライブトレイの場合、ドライブトレイのIDを指定し、ドロワーのIDを「0」に設定し、ドライブが格納されているスロットのIDを指定する方法もあります。

## トラブルシューティング

ドライブを追加して大容量のボリュームグループを拡張しようとすると、Dynamic Capacity Expansion (DCE；動的容量拡張)とも呼ばれ、処理に失敗する場合があります。次のメッセージが表示されます。

リターン・コード：エラー26 - ボリューム・グループ内のドライブ数と関連ボリュームのセグメント・サイズが原因で、変更処理を完了できません。セグメントサイズの変更オプションを使用して、ボリュームグループ内のすべてのボリュームのセグメントサイズを128KB以下に縮小します。次に操作を再試行します

7.35.xx.xxファームウェアを実行するシステムでは、上記のメッセージではなく次のメッセージが表示されて処理が失敗する場合があります。

リターン・コード：エラー462 - ファームウェアが十分なキャッシュ・メモリを割り当てられなかつたため'SYMBOL手順を実行できませんでしたエラー発生時の操作：proc\_startVolum

上記のメッセージに加えて、DCE処理を実行するための十分なキャッシュがないことを通知するメジャーイベントログ（MEL）イベントが発生する場合があります。

この問題は、7.xxファームウェアを実行しているコントローラで発生する可能性があります。

DCEを実行するには、元のボリュームから読み取られたデータと拡張後のボリュームに書き込まれるデータをバッファするための十分なメモリが必要です。拡張処理でのドライブ数、ストライプサイズ、およびミラー処理が有効かどうかという要因の組み合わせによっては、DCE処理を実行するためのメモリが不足することがあります。

上記の状況が発生した場合は、次の方法で対処できます。

- 他の未割り当てるドライブを使用して必要なサイズのボリュームグループを作成します。
- 現在のボリュームグループを削除し、必要な数のドライブでボリュームグループを再作成します。
- 使用するセグメントサイズを縮小して処理を再試行してください。
- 可能であれば、コントローラにメモリを追加してから、処理を再試行してください。

## 最小ファームウェアレベル

7.10で、RAID 6機能が追加されました。

7.30で'availability'パラメータが削除されました

7.60で'drawerID'ユーザ入力が追加されました

## ディスクプール内のボリュームのボリューム属性を設定する - **SANtricity CLI**

set volumesコマンドは'ディスク・プール内のボリュームのプロパティを定義します

### サポートされているアレイ

このコマンドは、すべてのSMcliパッケージがインストールされていれば、E4000、E2700、E5600、E2800、E5700、EF600、EF300を含む個々のストレージアレイに適用されます。

### ロール

このコマンドをE4000、E2800、E5700、EF600、またはEF300のストレージアレイに対して実行するには、Storage Adminロールが必要です。

### コンテキスト（Context）



ディスクプール内のボリューム数が32を超える構成では、このコマンドの実行中にタイムアウトとなり、ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリブートが発生する可能性があります。ホストI/Oエラーまたは内部コントローラのリブートが発生した場合は、ホストを休止状態にして処理をやり直してください。

### 構文

```

set (allVolumes | volume [<em>volumeName</em>] |
volumes [<em>volumeName1</em> ... <em>volumeNameN</em>] | volume <"wwID">)
addCapacity = <em>capacityValue</em>[KB|MB|GB|TB|Bytes] |
cacheFlushModifier=<em>cacheFlushModifierValue</em> |
cacheReadPrefetch = (TRUE | FALSE) |
cacheWithoutBatteryEnabled=(TRUE | FALSE) |
mediaScanEnabled=(TRUE | FALSE) |
mirrorCacheEnabled=(TRUE | FALSE) |
preReadRedundancyCheck = (TRUE | FALSE) |
readCacheEnabled=(TRUE | FALSE) |
redundancyCheckEnabled = (TRUE | FALSE) |
segmentSize = <em>segmentSizeValue</em>
userLabel = <em>userlabelValue</em>
writeCacheEnabled=(TRUE | FALSE) |
dataAssuranceDisabled=(TRUE | FALSE)

```

## パラメータ

パラメータ	説明
「allVolumes」	このパラメータは、ストレージアレイ内のすべてのボリュームのプロパティを設定します。
「volume」	プロパティを定義するボリュームの名前。ボリューム名は角かっこ ([]) で囲みます。ボリューム名に特殊文字または数字が含まれている場合は、ボリューム名を二重引用符 ("") で囲んだ上で角かっこで囲む必要があります。
「volume」	プロパティを定義するボリュームのWorld Wide Identifier (WWID)。WWIDは二重引用符 ("") で囲んだ上で山かっこ (<>) で囲みます。 <div style="display: flex; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em; margin-right: 10px;">i</span> <span>このコマンドを実行するときは、WWIDにコロンは使用しないでください。</span> </div>

パラメータ	説明
「ボリューム」	<p>プロパティを定義する複数のボリュームの名前。すべてのボリュームに同じプロパティが適用されます。以下のルールを使用して、ボリュームの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul> <p>ボリューム名に特殊文字または数字が含まれる場合は、次のルールに従って名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての名前は角かっこ ([]) で囲みます。</li> <li>各名前は二重引用符 ("") で囲みます。</li> <li>名前はそれぞれスペースで区切ります。</li> </ul>
「addCapacity」	<p>プロパティを定義するボリュームのストレージサイズ（容量）を増やすための設定。サイズは'bytes'KB'MB'GB'TB'の単位で定義されますデフォルト値は「bytes」です。</p> <p>このパラメータはシンボリュームに対しては無効です。</p>
「cacheFlushModifier」	ボリュームのデータが物理ストレージにフラッシュされる前にキャッシングに保持される最大時間。有効な値については、「メモ」セクションを参照してください。
「cacheReadPrefetch」 というメッセージが表示されます	キャッシング読み取りプリフェッチをオンまたはオフにする設定。キャッシング読み取りプリフェッチをオフにするにはこのパラメータをFALSEに設定しますキャッシング読み取りプリフェッチをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定します
「cacheWithoutBatteryEnabled」	バッテリなしのキャッシングをオンまたはオフにするための設定。バッテリなしのキャッシングをオンにするには、このパラメータを「true」に設定します。バッテリなしのキャッシングをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。
mediaScanEnabled	ボリュームのメディアスキャンをオンまたはオフにするための設定。メディア・スキャンをオンにするにはこのパラメータをTRUEに設定しますメディアスキャンをオフにするには、このパラメータを「FALSE」に設定します。（メディアスキャンがストレージアレイレベルで無効になっている場合、このパラメータは機能しません）。

パラメータ	説明
「mirrorCacheEnabled」	ミラーキャッシュをオンまたはオフにするための設定。ミラー・キャッシュをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますミラー・キャッシュをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「owner」をクリックします	ボリュームを所有するコントローラ。有効なコントローラ識別子は「a」または「b」です。「a」はスロットAのコントローラ、「b」はスロットBのコントローラですこのパラメータは、ボリュームの所有者を変更する場合にのみ使用します。
「preReadRedundancyCheck」	読み取り前冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。読み取り前冗長性チェックをオンになると、読み取りデータを含むストライプに対してRAID冗長性データの整合性が検証されます。読み取り前冗長性チェックは読み取り処理でのみ実行されます。読み取り前冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します読み取り前冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
	<p> RAID 0ボリュームなどの非冗長ボリュームでは、このパラメータを使用しないでください。</p>
readCacheEnabled	読み取りキャッシングをオンまたはオフにするための設定。リード・キャッシングをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定しますリード・キャッシングをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「redundancyCheckEnabled」	メディアスキャン中に冗長性チェックをオンまたはオフにするための設定。冗長性チェックをオンにするには'このパラメータをTRUEに設定します冗長性チェックをオフにするには'このパラメータをFALSEに設定します
「userLabel」のように入力します	既存のボリュームに付ける新しい名前。新しいボリューム名は二重引用符 ("") で囲みます。
「writeCacheEnabled」を使用します	書き込みキャッシング機能をオンにするための設定。

## 注：

このコマンドでは、オプションのパラメータを1つ以上指定できます。

これらのパラメータは、一度に1つのボリュームのみに適用できます。

- ・「addCapacity」
- ・「segmentSize」のように表示されます
- ・「userLabel」のように入力します

## 容量とセグメントサイズを追加

「addCapacity」パラメータまたは「segmentSize」パラメータを設定すると、長時間実行中の処理が開始され、途中で停止することはできません。長時間の処理はバックグラウンドで実行され、他のコマンドの実行が妨げられることはありません。長時間実行中の処理の進捗状況を表示するには、「show volume actionProgress」コマンドを使用します。

## キャッシングフラッシュ修飾子

次の表に、キャッシングフラッシュ修飾子の有効な値を示します。

値	説明
「即時」	データはキャッシングに配置され次第フラッシュされます。
「.25」	データは250ミリ秒後にフラッシュされます。
5.	データは500ミリ秒後にフラッシュされます。
「.75」	データは750ミリ秒後にフラッシュされます。
「1」	データは1秒後にフラッシュされます
1.	データは1500ミリ秒後にフラッシュされます。
2.	データは2秒後にフラッシュされます
「5」	データは5秒後にフラッシュされます
「10」	データは10秒後にフラッシュされます
20歳	データは20秒後にフラッシュされます
「60」	データは60秒（1分）後にフラッシュされます。
120	データは120秒（2分）後にフラッシュされます。
300`	データは300秒（5分）後にフラッシュされます。

値	説明
「1200」	データは1200秒（20分）後にフラッシュされます。
「3600」	データは3600秒（1時間）後にフラッシュされます。
「無限」	キャッシング内のデータには、年齢や時間の制約はありません。データは、コントローラによって管理されるその他の条件に基づいてフラッシュされます。

## バッテリなしのキャッシングを有効にしました

バッテリなしの書き込みキャッシングを有効にすると、コントローラのバッテリが完全に放電されている場合、フル充電されていない場合、または取り付けられていない場合でも書き込みキャッシングが続行されます。無停電電源装置（UPS）やその他のバックアップ電源がない場合にこのパラメータを「true」に設定すると、ストレージアレイへの給電が停止した場合にデータが失われる可能性があります。書き込みキャッシングが無効になっている場合、このパラメータは効果がありません。

## 修正の優先順位

変更優先度は、ボリュームのプロパティを変更する際に使用されるシステムリソースの量を定義します。最高の優先度レベルを選択すると、ほとんどのシステムリソースを使用してボリュームの変更が実行されるため、ホストのデータ転送パフォーマンスが低下します。

## キャッシング読み取りプリフェッチ

「cacheReadPrefetch」パラメータを使用すると、コントローラは、ホストによって要求されたデータブロックをドライブから読み取ってキャッシングにコピーする間、追加のデータブロックをキャッシングにコピーできます。これにより、以降のデータ要求をキャッシングから処理できる可能性が高くなります。キャッシング読み取りプリフェッチは、シーケンシャルデータ転送を使用するマルチメディアアプリケーションにとって重要です。使用的なストレージアレイの設定によって、コントローラがキャッシングに読み込む追加のデータブロックの数が決まります。「cacheReadPrefetch」パラメータの有効な値は「TRUE」または「FALSE」です。

## セグメントサイズ

コントローラがボリューム内の1つのドライブに書き込めるデータブロックの数は、セグメントのサイズによって決まります。各データブロックには512バイトのデータが格納されます。データブロックはストレージの最小単位です。セグメントのサイズによって、格納されるデータブロックの数が決まります。たとえば、8KBのセグメントには16個のデータブロックが含まれます。64KBのセグメントには128個のデータブロックが含まれます。

セグメントサイズの値を入力すると、その値は、実行時にコントローラで指定される、サポートされている値と照合されます。入力した値が無効な場合、コントローラは有効な値のリストを返します。1つの要求に対して1つのドライブを使用することで、他のドライブでは他の要求に同時にに対応できます。

ボリュームが属している環境で、1人のユーザが大量のデータ（マルチメディアなど）を転送している場合は、1つのデータ転送要求を1つのデータストライプで処理すると、パフォーマンスが最大化されます。（データストライプはセグメントサイズであり、これに、データ転送に使用されるボリュームグループ内のドライブ数が掛けられます）。この場合、同じ要求に対して複数のドライブが使用されますが、各ドライブへのアクセスは1回だけとなります。

マルチユーザデータベースまたはファイルシステムのストレージ環境で最適なパフォーマンスを実現するには、データ転送要求を満たすために必要なドライブ数が最小限になるように、セグメントサイズを設定します。

## 最小ファームウェアレベル

7.83

## 著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。